

中学国語基礎講座　はじめに

はじめて、中学国語基礎講座を担当する、笹森と申します。普段は高校受験生から、大学受験生まで、幅広く教えています。中学生でも、高校生でも、多くの生徒諸君が、まずは思い悩むことは「国語の成績が上がりがない、もしくは上がりにくい」ということや、「国語の勉強の仕方が分からない」ということです。それは、国語の勉強と「読解力を身につける」などと漠然としたことを考えているからではないでしょうか。

しかし、本当の「国語力」とは何かを知り、正しい「勉強法」を知れば、必ず成績は上がります。そして成績が上がりば、志望校に合格します。

本講座を受講することで、「国語力」 + 「勉強法・受講サイクル」 = 「合格」という、「成功の方程式」を身につけて下さい。

「国語力」

- ①国語知識→漢字知識（熟語・ことわざ・故事成語）、文法、文学史など
- ②文章ジャンル別読み解法→説明文、論説文、小説、隨筆、古文、漢文など
- ③設問種類別解答法→指示語、接続語、具体・内容・理由説明、空所補充など

…これらのことを中心として本講座ではレクチャーしていきます。特に「国語知識」が軽視されがちですが、「知識」無くして「知恵」は生まれません。

また、文章も、設問もただ「何となく」読んで解くだけでは意味がありません。文章ジャンルごとの「読解法」、設問種類ごとの「解答法」を意識した上で、普段から文章を読み、問題を解くことが重要です。

「国語精読セオリー」

では、「読解力」とはどのような力なのか。それは文字通り「文章を読んで、問題を解く力」のことですが、ただ漠然と文章を読むことではありません。また問題を読んで解くだけではなく、試験時間内で読み解くという速読速解力も含まれます。「正確な読解のための方法」＝「国語読解セオリー」についてお話しします。このセオリーが身につければ、論理的な思考法や文章の作成法にも繋がります。今からお話しする方法を意識して、練習問題を解いていけば、必ず読解力は身につきます。

『国語精読セオリー』・正しく読み解く方法

①言葉の知識 「国語ボキャビル (vocabulary building=語彙増強) の必要性」

まず文章を読むためには、言葉の知識（ボキャブラリー）が必要である。現代文では、漢字知識（漢字・熟語・こと

わざ・慣用句・故事成語)・評論用語・文法知識など、古文では、歴史的仮名遣い・古文単語・古文文法など、漢文では、漢語・訓読法などといった、それぞれ国語の学習分野ごとに押さえるべき言葉の知識がある。

②作品背景の知識「背景知識 (background knowledge) の確実性」

次に、文章ジャンル別の背景知識に注目する。例えば、評論で「身体論」が出題されたら、どういったパラダイムが重要か、古文で「枕草子」が出題されたら、どのようなことを「をかし」といつているのか、などといったことである。これを押さえておけば、文章の趣旨のミスリードが減り、読解の確実性が上がる。また、背景知識としての文学史も必要である。

③文章の構造を掴む「論理的把握力 (grip of logic) の重要性」

そして、文章を「精読」する上で、押さえておきたいポイントが一つある。ただたんに言葉を追いかけるだけではなく、全体的な構造を掴むためである。

- (a) 論理関係→主語と述語の関係・指示語・接続語・程度の意味を表す副詞・具体例の箇所
- (b) 修辞関係→対比・並立・倒置・体言止め・比喩

これらをチェックして、言葉の意味と、前後の言葉の繋がりまで意識する。「論理」と「修辞」(文修飾)は、本文の論旨、主張に繋がることが多いので重要である。

こうした『国語知識』『背景知識』『文章の構造』を押さえながら、読み解きすることが、「国語精読セオリー」です。つまり読解とは、このようなルールに基づいて読み進めて、自分の主觀、直感ではなく、客観的ルールに依拠することなのです。

正しい方法論を踏まえて、読書や読解の経験値を重ねていくことで、様々な文章、設問への対応力である、「絶対的国語力」が身につくのです。

「勉強法・受講サイクル」

- ①予習→テキストを15分程度で解く。
- ②授業→受講ペースを決めること。
- ③復習→「解き直し→答え合わせ→確認テスト」をすることが効果的な復習。

…予習はテキストを15分程度で解いてみて下さい。問題は、分からぬところがあつても構いません。しかし、本文は、必ず目を通しておいて下さい。

そして授業を受けるペースについて。授業計画は、学期毎に構成されています。毎週の視聴日時を決めて、一講ごとに受

講することを推奨します。夏休み、冬休みなどは、季節講習会のつもりで、数講をまとめて受講することも良いかと思います。一番大事なことは、「終わらせる日を決めて、そこから逆算し週や月あたりの受講ペースを決める」とです。

復習について、授業では「文章の読み方」⇨「設問の解き方」⇨「解答の一歩手前までの導き」を展開し、「答え合わせ」まではしません。それは復習として、「必ず自分で解答を出すこと」をして欲しいからです。授業の後、「解き直し→答え合わせ→確認テスト」をすることが効果的な復習になります。

最後に

これらのこと、まじめにコツコツ繰り返して下さい。そうすれば必ず「実力」がつき、皆さんの「合格」に繋がります。しんどいなあと思うこともあるでしょうが、「しんどいときは、人生の登り坂」です。その坂の先には、皆さんの「成績向上」が待っているのです。

中学生活では、部活や学校行事などで、何かしんどいこともあるかと思います。一緒に楽しく国語を学び、笑いながら勉強出来るように、面白おかしく国語を語りたいと思います。ぼちぼち、やっていきましょ！

笠森義通

目

次

[国語知識]

第一講

『国語知識』漢字知識

『国語知識』基礎文法 主語と述語・接続詞と指示語

[文学的文章①]

第三講

『文学的文章』物語・小説の読み解きルール(1) あらすじ・場面をとらえる

『文学的文章』物語・小説の読み解きルール(2) 心情・キャラ設定をとらえる

『文学的文章』物語・小説の読み解きルール(3) 主題をとらえる

『文学的文章』物語・小説の弱点補強(1) あらすじ・心情を読み取る問題

『文学的文章』物語・小説の弱点補強(2) 主題・心情の変化を読み取る問題

[説明的文章①]

『説明的文章』説明文の読み解きルール(1) 指示語・接続語から筆者の主張をおさえる

『説明的文章』説明文の読み解きルール(2) 段落ごとの内容から筆者の主張をおさえる

『説明的文章』説明文の読み解きルール(3) 要旨・筆者の主張をおさえる

『説明的文章』説明文の弱点補強(1) 指示語・接続語・段落内容をとらえる問題

『説明的文章』説明文の弱点補強(2) 要旨・主張をとらえる問題

[文学的文章②]

『文学的文章』隨筆の読み解きルール(1) 文意・構成をとらえる

『文学的文章』隨筆の読み解きルール(2) 表現・主題をとらえる

第十四講

p. 129 p. 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

p. 91 p. 81

p. 60 p. 51

p. 43 p. 34

p. 25 p. 34

p. 17 p. 8

129 120

p. 110 p. 101

第十五講 【韻文】																
第十六講	『文学的文章』 隨筆の弱点補強 構成・表現を読み取る問題															
第十七講	『韻文』 詩の読解ルール 構成・情景・修辞技法をとらえる															
第十八講	『韻文』 短歌の読解ルール かたちと修辞技法をとらえる															
第十九講	『韻文』 俳句の読解ルール 季語と切れ字をとらえる															
【古典】	『韻文』 短歌・俳句の弱点補強 主題・心情・技法を読み取る問題															
第二十講	『古典』 古文の読解ルール(1) 主語・歴史的仮名遣いをおさえる															
第二十一講	『古典』 古文の読解ルール(2) 係り結びの法則															
第二十二講	『古典』 古文の弱点補強 主語・仮名遣い・係り結びを読み取る問題															
第二十三講	『古典』 漢文の読解ルール 故事成語・書き下し文の読み取り															
二十四講	『古典』 漢詩の読解ルール 漢詩のかたちと表現技法をとらえる															
二十五講	『古典』 漢文の弱点補強 漢詩・故事成語・書き下し文を読み取る問題															
【説明的文章②】																
第二十六講	『説明的文章』 論説文の頻出五大テーマ(1) 科学論を読み取る															
第二十七講	『説明的文章』 論説文の頻出五大テーマ(2) 哲学・身体論を読み取る															
第二十八講	『説明的文章』 論説文の頻出五大テーマ(3) 日本語論を読み取る															
第二十九講	『説明的文章』 論説文の頻出五大テーマ(4) 日本文化論を読み取る															
第三十講	『説明的文章』 論説文の頻出五大テーマ(5) 自然文化論を読み取る															
	p. 262	p. 253	p. 243	p. 233	p. 223	p. 213	p. 205	p. 198	p. 191	p. 183	p. 176	p. 170	p. 163	p. 155	p. 146	p. 139

第一講・《国語知識》漢字知識

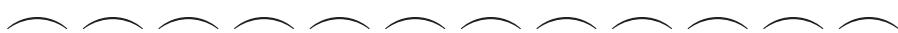
[同音異義語] 次の——線のカタカナを漢字で書け。

- ① 会社の人事イドウ
- ② 犬小屋をイドウする
- ③ 図形のイドウを調べる
- ④ 問題のカイトウ用紙
- ⑤ アンケートのカイトウ
- ⑥ 大学でコウギを行う
- ⑦ 会社にコウギする団体
- ⑧ シュウカン誌を読む
- ⑨ 早く起きるシュウカン
- ⑩ 人口がゲンショウする
- ⑪ 自然のゲンショウ



[同訓異字] 次の——線のカタカナを漢字で書け。

- ⑫ 服がぴったりとアう
- ⑬ 友達とアう
- ⑭ 成功をオサめる
- ⑮ 学業をオサめる
- ⑯ 国家をオサめる
- ⑰ 商品をオサめる
- ⑱ 道をタズねる
- ⑲ 知人をタズねる
- ⑳ 台風にソナえる
- ㉑ 花をソナえる
- ㉒ 面積をハカル
- ㉓ 体重をハカル



(24) 時間をハカル

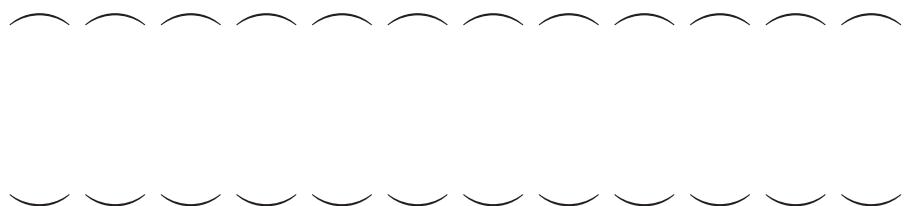
【類義語】

次の語の類義語を

□から選び、漢字で書け。

- (36) 向上 材料 (35) 返事 (34) 方法 (33) 賛成 (32) 準備 (31) 運命 (30) 降参 (29) 尊敬 (28) 極度 (27) 一切 (26) 不意

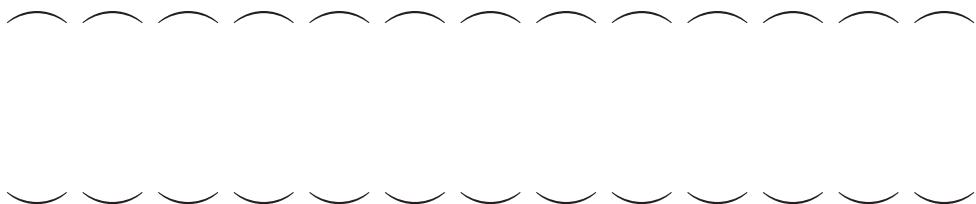
オウトウ	シユダン	シユクメイ	ゼンブ	カド	ソンチヨウ	トツゼン	ゲンリョウ	フクジュウ	シンボ	ヨウイ
------	------	-------	-----	----	-------	------	-------	-------	-----	-----



【対義語】 次の語の対義語を□から選び、漢字で書け。

- (49) 有限 (48) 回復 (47) 華新 (46) 異常 (45) 人工 (44) 安全 (43) 特殊 (42) 単独 (41) 消極 (40) 上昇 (39) 生産 (38) 縱断 (37) 退化

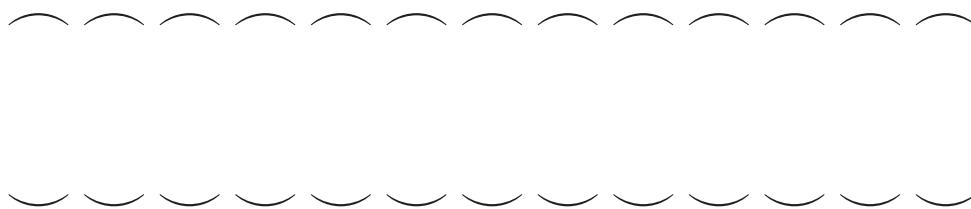
シンカ	イッパン	セツキヨク	ムゲン	カコウ	ホシュ	セイジョウ	オウダン	シゼン	キケン	キヨウドウ	ショウヒ	アツカ
-----	------	-------	-----	-----	-----	-------	------	-----	-----	-------	------	-----



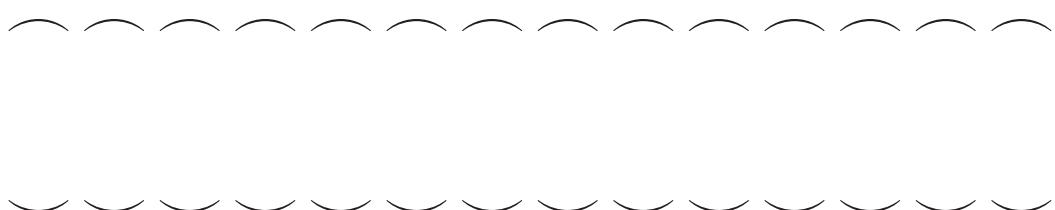
【慣用句】

あてはまる言葉を書け。

- (62) □ から火が出る 「はずかしい」
 (63) □ に流す 「すべて捨て去る」
 (64) □ にまく 「ひどく感心する」
 (65) □ につく 「物事に慣れる」
 (66) □ を売る 「さぼる」
 (67) □ を長くする 「待ちわびる」
 (68) □ をひっぱる 「じやまをする」
 (69) □ を濁す 「適当にごまかす」
 (70) □ をさす 「念をおす」
 (71) □ をかける 「苦労して育てる」
 (72) □ を投げる 「あきらめる」
 (73) □ が棒になる 「歩き疲れる」
 (74) □ が売れる 「世間に知られる」



- (75) □ をふむ 「ためらう、迷う」
 (76) □ にかける 「自慢する」
 (77) □ が合わない 「気が合わない」
 (78) □ を入れる 「横から口を出す」
 (79) □ がない 「大変好きである」
 (80) □ を並べる 「同じ力を持つ」
 (81) □ をなでおろす 「安心する」
 (82) □ を铭じる 「深く心に刻む」
 (83) □ が堅い 「秘密を話さない」
 (84) □ をあげる 「降参する」
 (85) □ をかける 「好意で世話をすること」
 (86) □ に乗る 「だまされる」
 (87) □ が出る 「予算が超える」



【いじわざ】

「」の意味を表すことわざになるよう、
□にあてはまる言葉を書け。

□に小判

〔ねうちがわからないこと〕

□の上にも三年

〔苦しみを我慢すれば報われる〕

□とすっぽん

〔比較にならないこと〕

□をたたいて渡る

〔子供は苦労させたほうがよい〕

□は寝て待て

〔用心の上にも用心する〕

焼け石に□

〔やつても効き目がない〕

知らぬが□

〔わからないのでのんきでいる〕

⑧

九死に□を得る
〔あやうく命が助かる〕

□の耳に念佛

〔さつぱり効き目がない〕

人事をつくして□を待つ

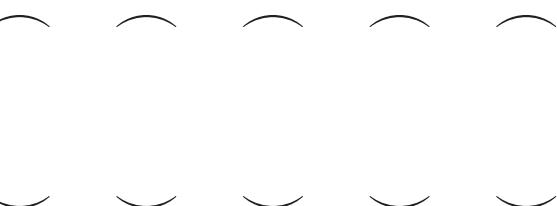
〔できる限り努力してみる〕

□も木から落ちる

〔名人も時には失敗する〕

□の功名

〔失敗が偶然よい結果を生む〕



【故事成語】

次の故事成語の意味として正しいものをあとから選び、記号で答えよ。

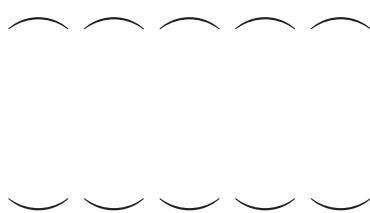
⑨〇 蛇足

⑨一 矛盾

⑨二 漁夫の利

⑨三 推敲

⑨四 五十歩百歩



⑨四

ア あつても用のないもの。

イ 争いに乗じて第三者が利益を得ること。

ウ つじつまが合わないこと。

エ 本質的には差のないこと。

オ 文章をよく練り直すこと。

第一講・復習問題 『国語知識』漢字知識

授業で使用したテキストをしつかり見直して、後の問題を解きなさい（一つ 1点 計50点満点）

問一【同音異義語・同訓異字】 次の例文の、カタカナの部分を漢字で書け。

- ① 会社の人事イドウ
- ② 犬小屋をイドウする
- ③ 問題のカイトウ用紙
- ④ アンケートのカイトウ
- ⑤ 大学でコウギを行う
- ⑥ 会社にコウギする団体
- ⑦ 服がぴつたりとアう
- ⑧ 友達とアう
- ⑨ 成功をオサめる
- ⑩ 学業をオサめる

（ ） （ ） （ ） （ ） （ ） （ ） （ ） （ ）

（ ） （ ） （ ） （ ） （ ） （ ） （ ）

問二【対義語】 次の語の対義語を漢字で書け。

- | | | | |
|---------|---------|-----------|---------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② |
| 単独 | 消極 | 生産 | 縦断 |
| | | | |
| ① | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 退化 | | 服がぴつたりとアう | 友達とアう |
| | | | |
| ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ |
| 成功をオサめる | 学業をオサめる | 国家をオサめる | 商品をオサめる |
| | | | |

（ ） （ ） （ ） （ ）

（ ） （ ） （ ） （ ）

（ ） （ ） （ ） （ ）

- (6) 特殊
 (7) 安全
 (8) 人工
 (9) 華新
 (10) 回復
- (7) 二の□をふむ「ためらう、迷う」
 (6) □をもつ「味方する」
 (5) 塩にかける「苦労して育てる」
 (4) □をひっぱる「じやまをする」
 (3) □を長くする「待ちわびる」
 (2) □をまく「ひどく感心する」
 (1) □から火が出る「はずかしい」

問三【慣用句】

「」の意味を表す慣用句になるように、

□にあてはまる体の一部を表す言葉を書け。

（）（）（）（）（）（）
 （）（）（）（）（）（）
 （）（）（）（）（）（）

問四【ことわざ】

「」の意味を表すことわざになるように、
 □にあてはまる言葉を書け。

- (1) □に小判
 (2) □の上にも三年
 (3) □とすっぽん
 (4) □をさせよ
 (5) かわいい子には□をさせよ
 「子供は苦労させたほうがよい」
 (6) □をたたいて渡る
 「用心の上にも用心する」

（）（）（）（）（）
 （）（）（）（）（）
 （）（）（）（）（）

問五 【故事成語】 次の故事成語の意味として正しいものをあとから選び、記号で答えよ。

〔幸運はあせらず待つべきである〕

(6)

〔は寝て待て〕

(7)

〔焼け石に〕

〔やつても効き目がない〕

(8)

〔知らぬが〕

〔わからぬのでのんきでいる〕

(9)

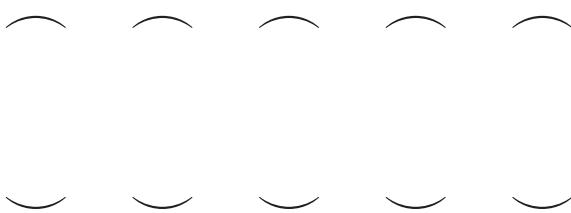
〔の耳に念佛〕

〔さっぱり効き目がない〕

(10)

〔人事を尽くして〕

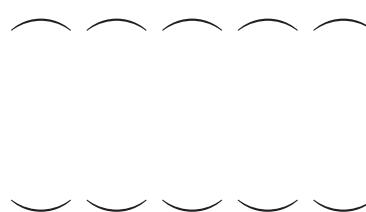
〔できる限り努力してみる〕



○RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ア あつても用のないもの。
イ 爭いに乗じて第三者が利益を得ること。
ウ つじつまが合わないこと。
イ 本質的には差のないこと。
オ 文章をよく練り直すこと。

- (1) 蛇足
(2) 矛盾
(3) 漁夫の利
(4) 推敲
(5) 五十歩百歩



第一講・確認テスト 『国語知識』 漢字知識

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 会社の人事イドウ

- ①移動 ②異動 ③異同 ④移同

問二 試験のカイトウ用紙

- ①回答 ②解答 ③解凍 ④回頭

問三 学業をオサめる

- ①習 ②納 ③修 ④治

問四 面積をハかる

- ①計 ②図 ③量 ④測

問五 原稿のスイコウ

- ①遂行 ②推考 ③遂講 ④推敲

第一講・『国語知識』基礎文法　主語と述語・接続詞と指示語



1 言葉の単位

1 文章——小説・隨筆・解説・論説などのように、全体として一つの完結した意味を持つたまとまり。（話したものの場合は談話という。）

2 段落——文章の中でまとまった内容を表す一区切り。段落の初めは、行を改めて最初の一文字分を空けて書く。このいう段落を形式段落（小段落）といい、内容のつながりからいくつかの形式段落をまとめたものを意味段落（大段落）という。

3 文——句点（。）や疑問符（？）や感嘆符（！）で区切られたまとまり。

例 下の公園では、大きなすべり台で遊んでいる子がいる。

4 文節——文を、実際に使われる言葉として意味をそこなわない程度にできるだけ細かく区切った一まとまり。

「ね」の入れられるところをさがすとわかりやすい。

例 みんなが（ね）ぼくに（ね）一向かつて（ね）拍手を（ね）して（ね）いた。

5 単語——文節をつくっている一つ一つの言葉。それ以上小さく分けることのできない最小の言葉の単位。

例 物事の名前を表す単語——鳥　朝　仕事　友だち　遠回り

様子や動作を表す単語——暑い　静かだ　大きな　始める

他の単語について表現を助ける単語——は　を　に　らしい　ようだ

2

接続する語句 文と文、語句と語句、段落と段落をつなぐ働きをする語句。

例 目を遠ざけてみよう。すると、たちまちのうちに、この図はどうろをえがいた絵に変わってしまう。

雨、または雷雨のおそれがある。

3

接続のしかたの種類 接続する語句は次のような意味関係で前後をつなぐ。

1 順接 —— 前の内容を原因・理由とする内容などをあとに述べる。

例 きのう雨が降った。だから今日は公園がぬかるんでいる。

2 逆接 —— 前の内容と逆になるような内容をあとに述べる。

例 大人から見ればささいな出来事だろう。でも僕は一生忘れない。

3 並立・累加 —— 前の内容にあとの内容を並べたり、つけ加えたりする。

例 彼は出ていった。そして、二度と戻らなかつた。

4 対比・選択 —— 前の内容とあとの内容を比べたり、どちらかを選んだりする。

例 バスで行こうか。それとも自転車で行こうか。

5 説明 —— 前の内容に対しても説明を加えたり、事柄を補足したりする。

例 休んでよろしい。ただし、三十分だけです。

6 転換 —— 前の内容に対して別の話題を持ち出す。

例 今日はこれで終わりにしましよう。ところで、今、何時ですか。

4

指示する語句 前の文や語句を指し示す働きをする語句。

一般に「こそあど言葉」と呼ばれるもので、左の表のように分類できる。

指示する語句は、文と文を接続する働きもある。

例 外で物音がした。その時、急に電気が消えた。

様子	方向	場所	事物	
こんなだ	こっち	ここ	この これ	こ
そんなんだ	そっち	そこ	その それ	そ
あんなんだ	あちら	あそこ	あの あれ	あ
どんなだ	どっち	どこ	どの どれ	ど

5

文の成分 文を組み立てているそれぞれの部分。

1 **主語** — 「何（だれ）が（は）」を表す文節。

例 わたしが 行く。 空が 青い。 ここは 市役所です。

2 **述語** — 「どうする・どんなだ・何だ・ある（いる・ない）」を表す文節。

例 先生が 走る。 景色が すばらしい。 犬が いる。

3 修飾語——他の文節の内容を詳しく言い定める（修飾する）文節。また、定められる（修飾される）文節を、

被修飾語^{ひしゅうしょくご}という。

例 先生が全速力で走る。大きな犬が二匹もいる。

4 接続語——理由や条件を表したり、前後の文をつないで、その関係を示したりする文節。

例 努力したので、成功した。雨が降った。しかしすぐにやんだ。

5 独立語——他の文節とは直接関係がなく、比較的独立している文節。感動・呼びかけ・応答・事柄の提示などを表す。

例 まあ、きれい。「白鳥の湖」、それは私が初めて出会ったバレエだ。

例題

次の文から、接続する語句をそれぞれ抜き出せ。

- (1) 畦道も、車の通る道路も、ほとんど直線だ。しかしそく見ると、目立った曲線が二つある。
(2) 優れた地図はそれ自身の持つ風土色にあふれている。さらにその技術性によって、深く人をひきつけてやまないの
である。

2

(一) 次の□にあてはまる言葉として最も適当なものをあとからそれぞれ選び、記号で答えよ。

(2) 彼は勉強がよくできる。　　彼はスポーツも万能だ。

(3) いつしようけんめい走つた。
□追いつけなかつた

(4) 今夜はなかなか眠れない。明日の発表会が心配だからだ

(5) 局地的な雨
雷雨らいうのおそれがあります。

(6) 「ああ、よく眠つた。」
□今、何時ですか。」

ア
そのうえ

ウイ
しかし
または

工
なぜなら

力 才
ところ だから

(4) (1)

ANSWER

(5) (2)

The image consists of two separate, empty rectangular boxes. They are positioned side-by-side, separated by a small gap. Both boxes have a thin black border and are completely white inside.

(6) (3)

The image consists of two separate, empty rectangular frames, likely intended for children to draw or write in. They are positioned side-by-side and have a thin black border.

(1)

ANSWER

(2)

100

第二講・復習問題『国語知識』基礎文法

授業で使用したテキストをしつかり見直して、後の問題を解きなさい（一つ 5点 計50点満点）

次の文章の空欄に入る接続語として最も適当なものを、傍線部とのつながりを考えて、後の選択肢から選び記号で答えよ。

吾輩は猫である。名前は□①無い。

どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤーニヤー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。□②あとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰惡な種族であつたそつだ。この書生というのは時々我々を捕まえて煮て食うという話である。□③その当時は何という考もなかつたから別段恐しいとも思わなかつた。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのが□④人間というものの見始である。この時妙なものだと思つた感じが今でも残つている。第一毛をもつて裝飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで藁缶だ。〈中略〉□⑤顔の真中があまりに突起している。□⑥その穴の中から時々ふうふうと煙を吹く。□⑦咽せぼくて實に弱つた。これが人間の飲む煙草というものである事は□⑧この頃知つた。

この書生の掌の裏でしばらくはよい心持に坐つておつたが、□⑨すると非常な速力で運転し始めた。書生が動くの自分だけが動くのか分らないが無暗に眼が廻る。胸が悪くなる。□⑩助からないと思つていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。

（夏目漱石「吾輩は猫である」）

ソ ク ア
の み な ら ず
し ば ら く

ケ イ
ま た
そ う し て

コ ウ
い わ ゆ る
到 底

⑥ ①

サ エ
お よ び

⑦ ②

シ オ
ど う も

⑧ ③

ス 力
一 方

⑨ ④

一 方
しかも

セ キ
よ う や く
しかし

⑩ ⑤

よ う や く
しかし

第二講・確認テスト 『国語知識』 基礎文法

問一 次の接続語の、意味は何か。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

(一)しかし

(二)ところで

(三)しかも

- ①転換
- ②逆接
- ③原因理由
- ④累加

問二 次の語の、品詞は何か。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

(一)あれ・それ・これ

(二)あの・その・この

- ①代名詞
- ②普通名詞
- ③連体詞
- ④副詞

第三講 ● 《文学的文章》物語・小説の読解ルール(1) あらすじ・場面をとらえる



① 小説読解のポイント

- (1) 全体のあらすじをとらえる。人物、背景、事件の三要素をおさえ、おおまかな話の流れをつかむ。
- (2) 情景、状況をとらえる。小説では心情と情景が重なり合っている場合が多いことに注意する。
- (3) 登場人物の心情をとらえる。態度、表情、会話、行動、情景などに暗示される心の動きを、前後の話の展開をふまえて読み取る。

② あらすじのとらえ方

- (1) 背景（いつ、どんなところで）をとらえる。

時 時代・季節（自然の風物に注意する）・月・日時（曜日）など。

場所 単にどこかというだけでなく、どんな場所かをつかむ。

- (2) 登場人物をとらえる。

だれが登場しているか、何人か、どんな人物かを読み取る。また、登場人物の関係もおさえる。

- (3) 出来事をとらえる。

どのような出来事が描かれているか、その出来事がどのように変化したかを読み取る。

3 情景・状況のとらえ方

どのような情景か、それがどのような印象を与えるかを読み取る。

例題の文章では、**比喩**を使うなどして、「場内」の設備の様子についてくわしく説明されている。

例
「西の空に太陽を示す丸い光」→夕日

「西寄りななめに沈んでゆく」→日没

「場内は闇に包まれ」→「夜」の表現



4

場面の転換を示す言葉を見つける。

プラネタリウムの作り出す人工的な空間が「夜になっていく」ことを観客に情景として示している。

場面や情景の変化をとらえることは、文章の構成や人物の心情を把握する手がかりになる。

例題の文章では「十一月も末の晴れた日曜日」から、四人が出かけた話が始まっている。

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

プラネットariumへ行こう、と言い出したのは、さやかだつた。星座がはつきりしないのは、東京の空だからだ。プラネットariumなら、いろいろな星座が見えるだろう。おばあちゃんにも、星を見せて上げよう、と言う。

十一月も末の晴れた日曜日、雄策が三人を車に乗せ、母の車椅子も積んで渋谷へ出かけた。^{しぶ}一人で外出出来なくなつた母の慰安^{いあん}のためにいいプランで、^①家族四人^やの行楽としても久々のことであつた。

文化会館にはショッピングのフロアーや映画館、食堂街もあり、四人は昼食をとると、そのままエレベーターで八階まで上つた。前回の投影時間がまだ終わつていないので、それまでロビー^や、円型の投影場を囲むようにぐるりと廻らされていいる廊下の展示物を見ることにした。壁にしつらえられているガラスケースの中には、望遠鏡の歴史を示す望遠鏡の模型や写真が展示され、古い中国や西洋の星座の拓本^{たくほん}や絵、天球儀^{てんきゅうぎ}や隕石、太陽の周囲を廻る月と地球の模型など、さやかは熱心に見ている。今年はあてはずれだが、三十三年周期で出現した過去の、文字通り雨のように降つていてるし座の流星雨の版画や写真もあつて、

「うわー、こんなに凄いんだ。」
と、さやかは叫んだ。

「おばあちゃん、星が降るんじやなくて、地球^が彗星^{すいせい}の軌道を通過する時に、彗星がまき散らしているチリが発光するのよ。昔の人は、こんなに降ると、空に星がなくなつちやうんじやないか、って思つたんだって。」

さやかは、ノースカロライナ州で見られた一八三三年の流星雨を呆然^{ぼうぜん}と見上げている人々の版画を見ながら、母の車椅子にかがみ込んで説明した。

投影時間になつて、四人は場内にはいった。日曜なので坐れないといけないと思つて早めに来たが、意外に空席が目立つた。

場内の中央に、丸い頭部にいくつものガラスの目玉を持つ巨大な蟻^{あり}が肢^{あし}を踏ん張つたような、黒い機械が据えられている。それを囲むように席が放射状に設けられていて、ドーム型の天井^{てんじょう}を仰ぎ見られるように椅子はリクライニングになっている。

ドームの下方の周囲には、東西南北の表示と、東京タワー、国会議事堂、絵画館、駒場^{こまば}東大などのシルエットが、ぐるりと一周りしていて、西と南の間には、富士山が見える。

雄策は母を車椅子からおろして座席に坐らせ、ドームを仰げるよう椅子を倒した。四隅の扉が閉められると、低目のやわらかい女性の声で、解説が始まった。⁽³⁾西の空に太陽を示す丸い光が浮かび出し、西寄りなめに沈んでゆくにつれ場内は暗さを増してゆく。太陽は、富士山の後方に没し^{ぼつ}、地平線^{あかねいろ}が茜色^{あかねいろ}に染まつた。間もなく場内は闇に包まれ、座席も見えなくなつた。天空には星が現れ始め、南の上方に半月が浮かんだ。

幻想的な音楽の流れる中で、女声の説明が続けられ、白い光の矢印が星を指す。

満天の星の中で、よく目立つ木星、土星が拡大されると縞模様^{しまもよう}や輪が見えた。ぼうつと帶状に見えるのがミルキーウェイと呼ばれる天の川だと説明があり、その部分が拡大される。北の空に輝く北極星も、春美はこれまで空を仰いで、星の中から見つけたことはなかつた。

(注) リクライニング……背もたれの角度を変えられる仕組み。

(津村節子「流星」より)

(1) この文章は、どの場所でのできごとが中心になつてゐるか。場所を表す言葉を抜き出せ。

——線①「家族四人」とあるが、「母」をのぞいた三人の名前を書け。

——線②「場内」にはいった直後に四人が目にした、設備の様子を説明した一文を文中から抜き出せ。

(4) ——線③「西の空に……見えなくなつた」とあるが、この表現について述べたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 場内に作り出される夕方の情景を、沈む太陽を表す光の描写と深まつていく闇の描写とを織りませて印象的に表現している。

イ 夕日が地平線にゆっくりと沈んでいく情景に、壮大な宇宙の営みが暗示されていることを、順序立てて論理的に表現している。

ウ 人工的な美しさと自然のもつ趣とを対比させてとらえ、二つの情景を色彩豊かに描くことで幻想的に表現している。

第三講・復習問題 『文学的文章』 物語・小説の読解ルール(1)

授業で使用したテキストをしつかり見直して、後の問題を解きなさい（一つ 5点 計15点満点）

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

プラネタリウムへ行こう、と言い出したのは、さやかだつた。星座がはつきりしないのは、東京の空だからだ。プラネタリウムなら、いろいろな星座が見えるだろう。おばあちゃんにも、星を見せて上げよう、と言つた。

十一月も末の晴れた日曜日、雄策が三人を車に乗せ、母の車椅子も積んで渋谷へ出かけた。一人で外出出来なくなつた母の慰安のためにいいプランで、家族〔甲〕人の行楽としても久々のことであつた。

文化会館にはショッピングのフロアーや映画館、食堂街もあり、四人は昼食をとると、そのままエレベーターで八階まで上つた。前回の投影時間がまだ終わつていないので、それまでロビーや、円型の投影場を囲むようにぐるりと廻らされる廊下の展示物を見るにした。壁にしつらえられているガラスケースの中には、望遠鏡の歴史を示す望遠鏡の模型や写真が展示され、古い中国や西洋の星座の拓本や絵、天球儀や隕石、太陽の周囲を廻る月と地球の模型など、さやかは熱心に見ている。今年はあてはづれだったが、三十三年周期で出現した過去の、文字通り雨のように降つてゐるしし座の流星雨の版画や写真もあって、

「うわー、こんなに凄いんだ。」

と、さやかは叫んだ。

「おばあちゃん、星が降るんじやなくて、地球が彗星の軌道を通過する時に、彗星がまき散らしているチリが発光するのよ。昔の人は、こんなに降ると、空に星がなくなつちゃうんじやないか、って思つたんだつて。」

さやかは、ノースカロライナ州で見られた一八三三年の流星雨を偶然と見上げている人々の版画を見ながら、母の車椅子にかがみ込んで説明した。

投影時間になつて、四人は場内にはいった。日曜なので坐れないといけないと思つて早めに来たが、意外に空席が目立つた。

場内の中央に、丸い頭部にいくつものガラスの目玉を持つ巨大な蟻が肢を踏ん張つたような、黒い機械が据えられている。それを囲むように席が放射状に設けられていて、ドーム型の天井を仰ぎ見られるように椅子はリクライニングになつている。

ドームの下方の周囲には、東西南北の表示と、東京タワー、国会議事堂、絵画館、駒場東大などのシルエットが、ぐるりと一周りしていて、西と南の間には、富士山が見える。

雄策は母を車椅子からおろして座席に坐らせ、ドームを仰げるよう椅子を倒した。四つの扉が閉められると、低目のやわらかい女性の声で、解説が始まつた。西の空に太陽を示す丸い光が浮かび出し、西寄りななめに沈んでゆくにつれ場内は暗さを増してゆく。太陽は、富士山の後方に没し、地平線が茜色に染まつた。間もなく場内は闇に包まれ、座席も見えなくなつた。天空には星が現れ始め、南の上方に半月が浮かんだ。

(乙) な音楽の流れる中で、女声の説明が続けられ、白い光の矢印が星を指す。

満天の星の中で、よく目立つ木星、土星が拡大されると縞模様や輪が見えた。ぼうつと帶状に見えるのがミルキーウェイと呼ばれる天の川だと説明があり、その部分が拡大される。北の空に輝く北極星も、春美はこれまで空を仰いで、星の中から見つけたことはなかつた。

(注) リクライニング……背もたれの角度を変えられる仕組み。

(津村節子「流星」より)

問一 空欄（甲）にあてはまる漢数字を書け。

問一 主人公である「さやか」とその家族が訪れた場所を印象的に表現する比喩を、文中から三十五字以内で抜き出せ。

問三 空欄(乙)に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

工	ア
幻想的	感動的
才	イ
空想的	感情的
	ウ
	情熱的



第三講・確認テスト 『文学的文章』 物語・小説の読解ルール(1)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 プラネタリウムのトゥエイ時間 ①灯影 ②倒影 ③投影 ④投映

問二 廊下のテンジ物 ①点事 ②典事 ③展示 ④天事

問三 人々のハンガ ①版画 ②半画 ③汎画 ④判画

問四 イガイに空席が目立つ ①以外 ②意外 ③異外 ④委外

問五 その部分がカクダイされる ①各台 ②各大 ③拡大 ④拡題

第四講・《文学的文章》物語・小説の読解ルール(2) 心情・キャラ設定をとらえる



① 心情のとらえ方

(1) 直接的な心情表現をおさえる。

「悲しい」「楽しい」や「……と思う」「……と感じた」など、具体的に心情が述べられている部分をおさえる。

- 例題の文章では「嫌だった」「嫌がった」。

(2) 会話の部分に注意する。

会話の部分には、人物の気持ちや、心の動きが表現されている。

(3) 人物の表情・態度・行動に注意する。

なぜそんな表情や態度になるのか、なぜそういう行動をとるのかという理由を考えながら読む。

(4) 間接的な心情表現をおさえる。

文脈によってその表す心情が微妙に変わる表現に注意する。

(5) 情景描写と人物の心情のかかわりをとらえる。

情景描写には、心情が反映していることが多い。

② 心情の変化をつかむ。

場面や情景の展開に合わせて、心の動きをとらえる。

③ 人物像(キャラ設定)をとらえる。

登場人物の人物描写・心情とその変化・会話・行動などからとらえる。

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

「ゆっくり歩きいや。」ねえちゃんは、注意深くばあちゃんの体を支えて歩き出した。トイレに向かう二人がまり子の前を通り過ぎる時、まり子はいつも、思い出したようにテレビのスイッチを入れてみたり、カレンダーをめくつてみたりする。どんな顔をしていればいいのか、わからないのだ。まり子のばあちゃんは、いつでも元気でたのもしくなければ嫌だつた。だから、ねえちゃんみたいにはあちゃんをトイレに連れて行くことが、どうしてもできなかつた。ねえちゃんが家にいない時は、誰も手をかせる者がいないから、ばあちゃんはおまるを使う。ばあちゃんは、おまるを使うのをとても嫌がつた。まり子は一度、一人でおまるにしやがんだまま、涙をぽろぽろこぼしているばあちゃんを見てしまつたことがある。^①胸^{むね}がきゅんとなつた。それでもまり子には、ばあちゃんをトイレに連れて行く勇気がでなかつた。ねえちゃんはトイレから戻つてきて、ばあちゃんを隣の部屋に連れて行くと、ガラス戸を閉めて、□座り込んだ。「うちがお嫁^{よめ}にいつたら、ばあちゃん、とうとうおまるばっかりになるねえ。あんなに嫌がつちよるのに。」まり子は、ひざの上の「りんごさん」をぎゅっと握つて、黙つてダンボール箱へ押し込んだ。

十日ほどたつて、ねえちゃんの婚約者と仲人さんが、結婚式の打ち合わせにやつてきた。うだるような暑さで、皆冷たいものを飲んでいたが、^②ただ一人、ばあちゃんは、ほとんど何も口にしなかつた。母さんが途中で気づいて麦茶を勧めても、ばあちゃんは小さく笑つて、首を横にふつた。

「のりえさんの小さい時の写真を拝見したいのですね。」という声に、まり子は気をきかせて、ばあちゃんの部屋にアルバムを取りに行つた。アルバムを取り出したまり子は、なにげなく部屋を見渡した。(あれつ。)おまるが消えている。よく見ると、おまるは大きなふろしきでおおわれていて、その上に、去年、ねえちゃんがばあちゃんのために編んだ、うす水色

のひざかけがかけてあつた。（ばあちゃん、なんでこんなこと……。）まり子は隠れたおまるをにらんだ。（ばあちゃん、おまるを見られるのが嫌だつたんだ。ねえちゃんと迷惑かけたくないて、それで朝から何も飲まなかつたんだ。）気がつくと、はだしで店先へ飛び出していた。（そうだ！）まり子はそのまま、物置へ走つた。

しばらくして、まり子はみんなの前に戻つてきた。まり子は、ばあちゃんのそばに行くと、耳元でささやいた。「ばあちゃん、一緒にトイレに行こう。」ばあちゃんは、とつさにガラス戸の向こうを見た。そして、くちびるをかすかに動かしてまり子を見た。まり子は、ごわっとした、しわだらけの手を握つた。ばあちゃんの体は考えていたよりずっと重く、立つているのがやつとだつた。はじめの一歩がなかなか踏み出せない。「⁽³⁾まり子、もうええよ。」ばあちゃんが言つた時、誰かがひよいと、まり子のお尻りを押した。「まり子、がんばれ。」ねえちゃんの声だ。はずみで右足がついつと出た。一步、二歩。肩にかかる重さで何も考えられなかつたが、ばあちゃんと二人で歩き出せた。まり子は、ひじでトイレのドアを開けると、ばあちゃんにあごで合図した。「ばあちゃん、これを見て！」トイレの手すりに、布きれがぐるぐると巻き付けてあつた。「ばあちゃん、〈りんごさん〉よ。覚えちよる？」ばあちゃんは目を細めると、指の節がごきりと太くなつた手で、手すりをなでた。「手すり、握りやすかる？〈りんごさん〉のすべり止め。」まり子は両足をふんばつてばあちゃんの重みを支えながら、もう一度〈りんごさん〉を見た。

（注）おまる……持ち運びのできる便器。

〈りんごさん〉……幼いころ、祖母がリンゴのアップリケをつけてくれた、まり子のお気に入りだつたTシャツ。ダンボール箱に入れて物置にしまわっていたが、姉が古着の整理をしている時に出てきた。

（村中李衣「りんごさん」より）

(1) — 線①「胸がきゅんとなつた」とあるが、ここからまり子のどんな気持ちがわかるか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア いらだたしさ イ みじめさ

ウ もどかしさ エ せつなさ

(2) □にあてはまる最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア さつさと イ ペしやんと
ウ ちよこんと エ ゆつたりと

(3) — 線②「ただ一人、……しなかつた」とあるが、その理由がわかる一文の最初と最後の三字を書け。(句読点は含まない。)

、

(4) — 線③「まり子、もうええよ」とあるが、なぜばあちゃんはそう言つたのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア ねえちゃんが助けてくれると思ったから。
イ まり子の力のなさにあきれたから。

ウ まり子にすまなかつたから。

エ 立つのに疲れてきたから。

(5)

この文章でばあちゃんはどんな人物として描かれているか。

最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 他人への依頼心が強く、涙もらい。

イ しんは強いが、周りに気をつかう。

ウ 警戒心は強いが、人に従う。

エ 我慢強く、心が広い。



第四講・復習問題 《文学的文章》 物語・小説の読解ルール(2)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、後の問題を解きなさい（一つ 5点 計15点満点）

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

「ゆっくり歩きいや。」ねえちゃんは、注意深くばあちゃんの体を支えて歩き出した。トイレに向かう二人がまり子の前を通り過ぎる時、まり子はいつも、思い出したようにテレビのスイッチを入れてみたり、カレンダーをめくつてみたりする。どんな顔をしていればいいのか、わからないのだ。まり子のばあちゃんは、いつでも元気でたのもしくなければ嫌だつた。
 (甲) ねえちゃんみたいにはあちゃんをトイレに連れて行くことが、どうしてもできなかつた。ねえちゃんが家にいな
 い時は、誰も手をかける者がないから、ばあちゃんはおまるを使う。ばあちゃんは、おまるを使うのをとても嫌がつた。
 まり子は一度、一人でおまるにしゃがんだまま、涙をぽろぽろこぼして いるばあちゃんを見てしまつたことがある。
 (乙) がきゅんとなつた。それでもまり子には、ばあちゃんをトイレに連れて行く勇気がでなかつた。ねえちゃんはトイレから戻ってきて、ばあちゃんを隣の部屋に連れて行くと、ガラス戸を閉めて、ペしyanと座り込んだ。「うちがお嫁よめにいつたら、ばあちゃん、とうとうおまるばっかりになるねえ。あんなに嫌がつちよるのに。」まり子は、ひざの上の「りんごさん」をぎゅっと握つて、黙つてダンボール箱へ押し込んだ。

十日ほどたつて、ねえちゃんの婚約者と仲人なこうじさんが、結婚式の打ち合わせにやつってきた。うだるような暑さで、皆冷たいものを飲んでいたが、ただ一人、ばあちゃんは、ほとんど何も口にしなかつた。母さんが途中で気づいて麦茶を勧めても、ばあちゃんは小さく笑つて、首を横にふつた。

「のりえさんの小さい時の写真を拝見したいのですね。」という声に、まり子は気をきかせて、ばあちゃんの部屋にアル

バムを取りに行つた。アルバムを取り出したまり子は、なにげなく部屋を見渡した。

(あれっ。) おまるが消えている。よく見ると、おまるは大きなふろしきでおおわれていて、その上に、去年、ねえちゃんがばあちゃんのために編んだ、うす水色のひざかけがかけてあつた。(ばあちゃん、なんでこんなこと……。) まり子は隠れたらおまるをにらんだ。(ばあちゃん、おまるを見られるのが嫌だつたんだ。ねえちゃんに迷惑かけたくないくて、それで朝から何も飲まなかつたんだ。) 気がつくと、はだしで店先へ飛び出していた。(そうだ!) まり子はそのまま、物置へ走つた。

しばらくして、まり子はみんなの前に戻つてきた。まり子は、ばあちゃんのそばに行くと、耳元でささやいた。「ばあちゃん、一緒にトイレに行こう。」ばあちゃんは、とつさにガラス戸の向こうを見た。そして、くちびるをかすかに動かしてまり子を見た。まり子は、ごわつとした、しわだらけの手を握つた。ばあちゃんの体は考えていたよりずっと重く、立つているのがやつとだつた。はじめの一歩がなかなか踏み出せない。「まり子、もうええよ。」ばあちゃんが言つた時、誰かがひょいと、まり子のお尻りを押しした。「まり子、がんばれ。」ねえちゃんの声だ。はずみで右足がついつと出た。一步、二歩。肩にかかる重さで何も考えられなかつたが、ばあちゃんと二人で歩き出せた。まり子は、ひじでトイレのドアを開けると、ばあちゃんにあごで合図した。「ばあちゃん、これを見て!」トイレの手すりに、布きれがぐるぐると巻き付けてあつた。「ばあちゃん、りんごさんよ。覚えちよる?」ばあちゃんは目を細めると、指の節がごきりと太くなつた手で、手すりをなでた。「手すり、握りやすかる? りんごさん のすべり止め。」まり子は両足をふんばつてばあちゃんの重みを支えながら、もう一度「りんごさん」を見た。

(注) おまる……持ち運びのできる便器。

〈りんごさん〉……幼いころ、祖母がリンゴのアップリケをつけてくれた、まり子のお気に入りだつたTシャツ。ダンボール箱に入れて物置にしまわっていたが、姉が古着の整理をしている時に出てきた。

(村中李衣 「りんごさん」より)

問一 空欄（甲）に入る接続語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア そして イしかし ウ また

工 だから オ そのうえ

問二 空欄（乙）にあてはまる、体の一部を表す漢字一字を書け。

問三 この文章で、「まり子」はどんな人物として描かれているか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 「ばあちゃん」に対して反発を抱き、何かと反抗している。

イ 「ばあちゃん」に対して心配ばかりし、いつも気をつかっている。

ウ 「ばあちゃん」に対してどう接すれば良いか分からず、何も出来ずにいる時もある。

工 「ばあちゃん」に対して我慢強く接し、どのようなことにも心広く構えている。



第四講・確認テスト 『文学的文章』 物語・小説の読解ルール(2)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 うだるようなアツさ

- ①篤 ②熱 ③厚 ④暑

問二 ト中で気づいて

- ①途 ②戸 ③徒 ④登

問三 アんだうす水色のひざかけ

- ①編 ②安 ③案 ④按

問四 あごでアイ図した。

- ①相 ②会 ③合 ④間

問五 指のフシ

- ①付 ②臥 ③伏 ④節

第五講・《文学的文章》物語・小説の読解ルール(3) 主題をとじこめる



① 主題とは何か

作者がその作品を通して、読者に最も強くうつたえようとしているテーマのことである。

② 主題のとらえ方

- (1) 各場面の人物・事件・背景（小説の三要素）をとらえ、あらすじ（展開）を理解する。
- (2) 人物の行動・心情などを手がかりに作者のうつたえようとする主題をとらえる。

主題は、人物・事件・情景・心情などを総合してつかむ。次の三つを手がかりにする。

- ① 人物の行動・心情などから。
- ② クライマックス（やま場）から。
- ③ 事件の推移と人物から。

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

江戸時代末期、オランダ商館医師で博物学者のシーボルトとお滝の間に生まれたお稻は、成長するにつれ、父シーボルトのように学問を身につけようと思うようになった。養父時治郎と母のお滝はお稻が学問をすることに反対したが、お稻の固い志を知り、シーボルトのかつての弟子であった二宮敬作^{にのみやけいさく}の元にやることにした。この時お稻は、十四歳であった。

見送る者は、「道中御無事に……」と口々に挨拶し、旅に出る者たちは見送ってくれた謝辞を述べた。

お稻は、A。母の眼めに涙が光っているのを眼にした彼女は、胸に熱いものがつき上げるのを意識した。

「体に気をつけて……」

お滝が、頬に流れる涙をぬぐいながら言つた。

お稻は、嗚咽^{おえつ}した。

「便りを必ず出しておくれ」

お滝が言うと、お稻はB。

お稻は、母にさからつて学問修業を志し遠く伊予国^{いよくに}の二宮敬作のもとに赴く自分が、不孝な娘^{おもむ}^①に思えた。学問など志すことさえなければ、長崎で母の身近にいて安穩^{あんのん}な生活をおくる。それを母も望んでいたのだが、母をふり切るように遠地へ行こうとしている自分が、人間としての道に反した女に思えた。

「不孝をお許し下さい」

お稻は、泣きながら辛うじてそれだけを口にした。

^②お滝は、懐中から櫛をとり出すと無言でお稻の髪にさした。それは、シーボルトからの初めての便りとともに送られてきた玳瑁の櫛であった。

「涙は、旅立ちに無用だ」

時治郎が、近寄つて言つた。

「さ、参りましょう」

番頭の吉兵衛が、お稻に声をかけた。

再び見送る者と旅立つ者の間で、別れの言葉が交された。お滝は、お稻の顔を見つめていた。お稻は頭をさげ、吉兵衛の後について歩きはじめた。

橋を渡つたお稻は、 C。時治郎が手をふり、お滝は、硬直したように身じろぎもせずに立つていて。

道の曲り角に来た。お稻は、かすかに手をあげた。涙でかすんだ眼に、母の立ちつくす姿がほんやりと見えた。

(吉村 昭 「ふおん・しいほるとの娘」より)

(注) 嘴咽……声をおさえて泣くこと。

伊予国……今の愛媛県。

玳瑁……ウミガメの一種。甲らをべつこう細工にする。

(1) □A□ → □C□ にあてはまるお稻の動作として最も適当なものを次のの中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア 何度もふり返った イ お滝に歩み寄った

ウ 何度もうなずいた エ 首を横に振った

A <input type="checkbox"/>
B <input type="checkbox"/>
C <input type="checkbox"/>

(2) — 線①「不孝な娘」とあるが、これと同じような意味を表す言葉を、文中から十二字で抜き出せ。

(3) — 線②「お滝は、懐中から櫛をとり出すと無言でお稻の髪にさした」とあるが、この行為に込められたお滝の心情として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア 今後、娘がしつかり生きていくことができるよう、あえて娘に対して厳しくしよう。

イ 娘の将来が心配ではあるが、娘の意志を尊重しながら無事を祈つて見守つていこう。

ウ 学問の世界における娘の成功を楽しみにしながら、娘の帰りを長崎で待つていよう。

エ 娘は大人の複雑な人間関係が理解できていないので、説得するのはあきらめよう。

(4) この文章の主題をまとめた次の文の□にあてはまる言葉を、文中から三字で抜き出せ。

学問修業のため、母と別れるお稻の□。

--

第五講・復習問題『文学的文章』物語・小説の読解ルール(3)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、後の問題を解きなさい（一つ 5点 計30点満点）

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

江戸時代末期、オランダ商館医師で博物学者のシーボルトとお滝の間に生まれたお稻は、成長するにつれ、父シーボルトのように学問を身につけようと思うようになった。養父時治郎と母のお滝はお稻が学問をすることに反対したが、お稻の固い志を知り、シーボルトのかつての弟子であった二宮敬作のもとにやることにした。この時お稻は、十四歳であった。

見送る者は、「道中御無事に……」と口々に挨拶し、旅に出る者たちは見送ってくれた謝辞を述べた。

お稻は、A。母の眼めに涙が光っているのを眼にした彼女は、胸に熱いものがつき上げるのを意識した。

「体に気をつけて……」

お滝が、頬に流れる涙をぬぐいながら言つた。

お稻は、嗚咽おえつした。

「便りを必ず出しておくれ」

お滝が言うと、お稻はB。

お稻は、母にさからつて学問修業を志し遠く伊予国^{いよのくに}の二宮敬作のもとに赴く自分が、不孝な娘に思えた。学問など志すことをさせなければ、長崎で母の身近にいて安穩^{あんのん}な生活をおくる。それを母も望んでいたのだが、母をふり切るように遠い地方こうとしている自分が、人間としての道に反した女に思えた。

「不孝をお許し下さい」

お稲は、泣きながら辛うじてそれだけを口にした。

お滝は、懐中から櫛くしをとり出すと無言でお稲の髪にさした。それは、シーボルトからの初めての便りとともに送られてきた玳瑁たいまいの櫛であった。

「涙は、旅立ちに無用だ」

時治郎が、近寄つて言った。

「さ、参りましょう」

番頭の吉兵衛が、お稲に声をかけた。

再び見送る者と旅立つ者の間で、別れの言葉が交された。お滝は、お稲の顔を見つめていた。お稲は頭をさげ、吉兵衛の後について歩きはじめた。

橋を渡つたお稲は、□C。時治郎が手をふり、お滝は、硬直したように身じろぎもせず立っている。

道の曲り角まがに来た。お稲は、かすかに手をあげた。涙でかすんだ眼に、母の立ちつくす姿がほんやりと見えた。

(吉村 昭よしづら あきら 「ふおん・しいほるとの娘」より)

(注) 嘴咽……声をおさえて泣くこと。

伊予国……今えひめの愛媛県。

玳瑁……ウミガメの一種。甲らをべつこう細工にする。

問一 □A～□Cにあてはまるお稲の動作として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア 何度もぶり返った

イ お滝に歩み寄った

ウ 何度もうなづいた

エ 首を横に振った

A

B

C

問二 傍線部「人間としての道に反した女」と同じような意味で用いられている語句を、文中から四字で抜き出せ。

問三 次の文は、本文における「お稲」の母「お滝」の心情について述べたものである。空欄（甲）（乙）にあてはまる最

も適当な二字の熟語を書け。

娘の□(甲)□が心配ではあるが、娘の意志を尊重しながら□(乙)□を祈つて見守つていこうとしている。

(甲)

(乙)

第五講・確認テスト 『文学的文章』 物語・小説の読解ルール(3)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 ドウチュウご無事に：

- ①道中 ②同中 ③堂中 ④動中

問二 学問シユギョウ

- ①修行 ②執行 ③修業 ④衆業

問三 親フコウな娘

- ①不幸 ②不孝 ③不好 ④不候

問四 カイチュウから櫛をとり出す

- ①戒中 ②壞中 ③回中 ④懷中

問五 涙は、旅立ちにムヨウだ

- ①無用 ②無様 ③無要 ④無容

第六講・《文学的文章》物語・小説の弱点補強(1) あらすじ・心情を読み取る問題 ?

例題

次の文章は、「僕」と育ての親の「ハルさん」との大みそかの晩の話である。これを読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

除夜の鐘が遠くから聞こえる。テレビを消した居間で、僕はコタツに入つてノートをめくる。ときどきノートの文字がにじみそうになり、^①そのたびに手の甲で涙を拭う。^{ぬぐ}母の日記だ。ハルさんが書き写した、母の日記が、僕の目の前にある。

「うちが死んでから、あんたにあげようと思うとったんじやけどな」ハルさんは仏壇の下の抽斗からノートを出して、言つたのだ。「ほいでも、あと、もうなんべん会えるんかわからんけん」と笑つて、はい、と回覧板を回すような軽い手つきで僕に渡したのだった。「……なんで?」びりびりに引き裂いたはず、だつた。

「なんでいうて、捨てられんが、やっぱり、こういうものは」

引き裂いたノートを、ハルさんはゴミ箱には捨てなかつた。菓子箱の中に入れて筆筒にしまいこんだ。「うちもカツとしたら後先考えんことしてしまうけんなあ……」とハルさんは言つて、「血はつながつとらんのに、あんたとよう似とるやろ」と笑つた。

僕が上京したあと、菓子箱を取り出して、手紙のかけらをジグソーパズルのようにつなぎ合わせた。何日もかかつた。最初はセロハンテープで張り合わせようとしたが、手元が不器用なのでなかなかうまくいかず、結局書き写すことにした。

ハルさんの字だ。けれど、ハルさんの字ではない。「敬一くんのお母さん、達筆じやけん、大変じやつたんよ」——ハルさんは、一文字ずつ、ノートに記された母の字を真似^{まね}て書き写していくたのだ。文字がまたにじむ。手の甲で涙を拭う。除夜の鐘が、また鳴つた。その音に揺さぶられたように、文字はまたにじんてしまう。

さつきまで「テレビは目が疲れるけん」とイヤホンでラジオを聴いていたハルさんは、コタツにもぐり込んだまま横になつて、うとうとしている。寝たふりをしているのかもしれない、とも思う。

僕はノートのページをめくる。母の日記は、もうすぐ終わる。長い手紙が、終わる。

最後の日の日記も、ハルさんは読み取れない文字を忠実に書き写していた。唯一読み取れた「けい」の文字も、しつかりと、写してくれていた。ノートは、本物の日記がそつだつたように、三分の二ほどで終わっていた。余つたページをぱらぱらとめくる。このあたりにハルさんはよけいなことを書いていたんだな、と涙はなみずを啜すすりながら浮かべた苦笑いが、ふと、止まつた。最後のページに短い言葉が書いてあつた。

〈追伸 敬一くん わたしも天国に行つてからも、ずっと敬一くんの母親です〉

③息を詰め、歯を食いしばつた。

ノートを閉じて、また開く。最後のページをもう一度、眉間に力を込めて見つめる。

立ち上がつた。隣の部屋の押し入れから、掛け布団ぶとんを出した。たつた一組の布団は、火の気のない部屋の押し入れの中で、冷たく、ぺたんこになつていた。

居間に戻る。仏壇を見つめ、深く頭を下げて、ハルさんの脇にかがみ込んだ。

ハルさんはやはり眠り込んでいたようだつた。イヤホンが耳からはずれ、かすかないびきも聞こえる。僕はまた立ち上がり、両手に持つた布団をファンヒーターの前にかざしながら、声をかけた。

④風邪ひくよ、お母ちゃん

返事はなかつた。振り起こそうかと思つたが、いいよな、これで、と少しだけ温ぬくもつた布団を肩から掛けた。コタツに戻つて、ミカンを食べた。酸っぱさに顔をしかめ、口をとがらせて、誰が見てるわけでもないのに、照れ笑いを浮かべた。除夜の鐘が鳴る。これでいくつだろう。もう日付は変わつた。新しい年になつた。

「お母ちゃん、明けましておめでとう」
 ハルさんに掛けた布団が、小刻みに震える。^{ふる}
 僕は二つめのミカンに手を伸ばす。

(5) (重松 清「卒業」より)

(1) — 線① 「そのたびに手の甲で涙を拭う」は、いくつの単語からなっているか。その数を漢数字で書け。

(2) — 線② 「達筆」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 字を慌てて書いてあること。
- イ 文字をびっしり書いてあること。
- ウ 文字を上手に書いてあること。
- エ 下手な筆字で書いてあること。

(3) この話の中には、時間の経過を表すために効果的に繰り返し使われているものがある。それは何か。文中から抜き出せ。



(4) 線③「息を詰め、歯を食いしばった」のは、「追伸」を見たことがきっかけである。「僕」はそのことから、何を感じ取ったのか。「……を感じ取った」に続くように、自分で考えて十字以上十五字以内で書け。

を感じ取った。

(5) 線④「風邪ひくよ、お母ちゃん」と呼びかけた「僕」の気持ちとして、最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア 冷たい布団に寝ているので、風邪をひかないように心配する気持ち。

イ ハルさんの思いを心から受け止め、今までの自分を反省し、起こさずにはいられない気持ち。

ウ ハルさんの思いを素直に受け止め、母としてのハルさんを心からいたわる気持ち。

エ もう会えないだろうハルさんが、寝込んでしまったのを心配する気持ち。

(6) 線⑤「ハルさんに掛けた布団が、小刻みに震える」理由として考えられる最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア 感情をあらわにして、迷惑だけかけてきた自分を理解し、許してくれたことにおどろきをかくしきれなかつたから。

イ ようやく自分が母親として認められた気がして、心が通じ合えた喜びが込み上げてきたから。

ウ 自分が書き写した日記にこめた実母へのねたみを、受け止めてくれたことへのうれしさがあふれてきたから。

エ 自分をあわれんで布団をかけて、実母と同じような扱いをしてくれた幸せをおさえきれなかつたから。

第六講・復習問題 『文学的文章』 物語・小説の弱点補強(1)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、後の問題を解きなさい（一つ5点 計30点満点）

次の文章は、「僕」と育ての親の「ハルさん」とのある夜の出来事である。これを読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

除夜の鐘が遠くから聞こえる。テレビを消した居間で、僕はコタツに入つてノートをめくる。ときどきノートの文字がにじみそうになり、^①そのたびに手の甲で涙を拭う。母の日記だ。ハルさんが書き写した、母の日記が、僕の目の前にある。

「うちが死んでから、あんたにあげようと思うとったんじやけどな」ハルさんは仏壇の下の抽斗からノートを出して、言つたのだ。「ほいでも、あと、もうなんべん会えるんかわからんけん」と笑つて、はい、と回覧板を回すような軽い手つきで僕に渡したのだった。「……なんで？」びりびりに引き裂いたはず、だつた。

「なんでいうて、捨てられんが、やっぱり、こういうものは」

引き裂いたノートを、ハルさんはゴミ箱には捨てなかつた。菓子箱の中に入れて筆筒にしまいこんだ。「うちもカツとしたら後先考えんことしてしまうけんなあ……」とハルさんは言つて、「血はつながつとらんのに、あんたとよう似とるやろ」と笑つた。

僕が上京したあと、菓子箱を取り出して、手紙のかけらをジグソーパズルのようにつなぎ合わせた。何日もかかつた。最初はセロハンテープで張り合わせようとしたが、手元が不器用なのでなかなかうまくいかず、結局書き写すことにした。

ハルさんの字だ。けれど、ハルさんの字ではない。「敬一くんのお母さん、達筆じやけん、大変じやつたんよ」——ハルさんは、一文字ずつ、ノートに記された母の字を真似て書き写していくたのだ。文字がまたにじむ。手の甲で涙を拭う。除夜の鐘が、また鳴つた。その音に揺さぶられたように、文字はまたにじんってしまう。

さつきまで「テレビは目が疲れるけん」とイヤホンでラジオを聴いていたハルさんは、コタツにもぐり込んだまま横になつて、うとうとしている。寝たふりをしているのかもしれない、とも思う。

僕はノートのページをめくる。母の日記は、もうすぐ終わる。長い手紙が、終わる。

最後の日の日記も、ハルさんは読み取れない文字を忠実に書き写していた。唯一読み取れた「けい」の文字も、しつかりと、写してくれていた。ノートは、本物の日記がそつだつたように、三分の二ほどで終わっていた。余つたページをぱらぱらとめくる。このあたりにハルさんはよけいなことを書いていたんだな、と涙を啜りながら浮かべた苦笑いが、ふと、止まつた。最後のページに短い言葉が書いてあつた。

〈追伸 敬一くん わたしも天国に行つてからも、ずっと敬一くんの母親です〉
息を詰め、歯を食いしばつた。

ノートを閉じて、また開く。最後のページをもう一度、眉間に力を込めて見つめる。

立ち上がつた。隣の部屋の押し入れから、掛け布団ふとんを出した。たつた一組の布団は、火の気のない部屋の押し入れの中で、冷たく、ぺたんこになつていた。

居間に戻る。仏壇を見つめ、深く頭を下げて、ハルさんの脇にかがみ込んだ。

ハルさんはやはり眠り込んでいたようだつた。イヤホンが耳からはずれ、かすかないびきも聞こえる。僕はまた立ち上がり、両手に持つた布団をファンヒーターの前にかざしながら、声をかけた。

〔風邪ひくよ、お母ちゃん〕^A

返事はなかつた。振り起こそうかと思つたが、いいよな、これで、と少しだけ温ぬくもつた布団を肩から掛けた。コタツに戻つて、ミカンを食べた。酸っぱさに顔をしかめ、口をとがらせて、誰が見てるわけでもないのに、照れ笑いを浮かべた。除夜の鐘が鳴る。これでいくつだろう。もう日付は変わつた。新しい年になつた。

「お母ちゃん、明けましておめでとう」
ハルさんに掛けた布団が、小刻みに震える。^{Bふる}僕は二つめのミカンに手を伸ばす。

(重松 清『卒業』より)

問一 傍線部①「その」の品詞は何か。漢字で書け。

問二 傍線部②「達筆」の意味を十字以内で書け。

— 57 —

問三 本文の中では、時間の経過を表すために効果的に繰り返し使われている言葉がある。それは何か。文中から抜き出して答えよ。また、そのことから、本文はいつの出来事といえるか。五字以内の語で答えよ。

問四

次の文章は、二重傍線部A「風邪ひくよ、お母ちゃん」と、二重傍線部B「ハルさんに掛けた布団が、小刻みに震える」を説明したものである。説明文中の空欄に入る最も適当な二字の熟語を書け。

二重傍線部Aは、「僕」がハルさんの思いを〔甲〕に受け止め、母としてのハルさんを心からいたわろうという思いでかけた言葉で、二重傍線部Bは、「ハルさん」が、ようやく自分が〔乙〕として認められた気がして、心が通じ合えたうれしさの余り、泣きながら体を震わせている様子である。

(甲)



(乙)



第六講・確認テスト 『文学的文章』 物語・小説の弱点補強(1)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 カシ箱 ①歌子 ②菓子 ③香子 ④果子

問二 ブキヨウ ①不器用 ②不機用 ③無器様 ④無機用

問三 ニツキ ①日紀 ②日期 ③日記 ④日器

問四 フトン ①附団 ②付団 ③富団 ④布団

問五 ジョヤの鐘 ①序夜 ②除夜 ③徐夜 ④叙夜

第七講・《文学的文章》物語・小説の弱点補強(2) 主題・心情の変化を読み取る問題?

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

車大工の三吉は、初めて車輪の支え木（矢）を作らせてもらえたことになった。三吉は自分が作った支え木に名前を彫ろうと夜中に起きたが、親方に見つかってしまう。しかし、親方はあまり怒らず、それどころかまちがえて「さんちき」と彫ってしまった三吉に手本を見せてくれた。そのとき外で物音がしたので戸を開けると、侍さむらいが倒れていた。

知らぬ間に、手が親方の着物のそでをぎつちり握り締めていた。

親方の後ろから三吉もついていき、侍の顔をのぞき込んだ。

いきなり、その目がくわつと開いた。にらみつけるように、こちらを見る。

「む、無念じや……」

そのとき、A走ってくる足音が聞こえた。

二人は、慌てて家中へ駆け戻った。戸を閉めて、心張り棒をぎつちりとする。

やがて、三、四人の足音が表で止まつた。鋭く低い声がしたかと思うと、すぐに、足音が、もと来たほうへ引き返していく、しだいに遠くなつて消えた。

親方は、もう一度戸を細く開けた。何もなかつた。倒れていた侍も刀も消えていた。

戸締まりをして親方は、自分でろうそくをつけた。のみをがらくた入れの中へしまつと、まだ体の震えの止まらない三吉



に向かって、静かに言つた。

〔侍に生まれんで、よかつたな。〕^①

「……。」

「あの侍の目は、死ぬ間際やちゅうのに、憎しみでいっぱいやつた。侍たちは、やたらと殺しおうてばかりや。国のためやとか言うてるけど、殺し合いの中から、いつたい何を作り出すというんじや。」

親方は、三吉が作った矢を握つてぐいと引いた。^②びくともしない。

〔ええ仕上がりや。この車は何年持つと思う?〕^③

三吉は、やつと口を開いた。

〔二、三十年やろか。〕

〔あほう、百年や。〕

〔百年も!〕

「わしらより長生きするんや。侍たちは、なんにも残さんと死んでいくけど、わしらは車を残す。この車は、これから百年もの間、ずっと使われ続けるんや。」

〔へええ。〕^④

〔へええやあらへん。おまえも、その車大工の一人やないか。まだ〔B〕やけど。〕

〔〔B〕は、余分や。〕

「余分のついでに、今から百年先のことを考えてみよか。^{〔みよか。〕}世の中、どないなつてるやろ。幕府が続いてるか、ほかの藩が天下を取つてるとんがんと〔C〕やろ。祇園祭りも、町衆^{〔まちしゆう〕}の力で毎年行われ、この車は、祭りのたびに、おおぜいの見物人の前をゴロゴロ引かれていく。^{〔それで〕}ほいで、だれかが、今わしらの彫つた

字を見つけるんや。見つけて、こない言うかもしれへん。」

そこで親方は、腕を組み、⁽⁴⁾声の調子を変えてしゃべりだした。

「ほう、こりやなんと百年も前に作った車や。長持ちしてゐるなあ。なになに『さんちき』か……。ふうん、これを作つた車大工やな。ちょっと変わつた名前やけど、きっと D 車大工やつたんやろなあ……。」

「親方——。」

三吉は親方の腰をぎゅっと押した。怒られるかなと思つたけど、何も言われなかつた。

「はつはつは、さあ、もう寝ろ。⁽⁵⁾ろうそくがもつたいないやないか。」

親方は、それだけ言うと、さつさと奥へ入つてしまつた。

三吉は、ろうそくを吹き消そうとして、もう一度車を見た。

さんちき

と彫つた字が、ろうそくの明かりの中に、ぼんやりと浮かんで見える。

「さんちきは、きっと腕のええ車大工になるで。」

そつとつぶやいてから、思い切り息を吸い込んで、ろうそくの明かりをひと吹きで消した。

(吉橋通夫
「さんちき」より)

(1) □ A にあてはまる物音として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア てくてくと イ ばらばらと

ウ がやがやと エ そそくさと

(2) — 線①「侍に生まれんで、よかつたな」とあるが、職人に生まれた親方が、どうして侍に生まれないでよかつたと思つたのか。□ にあてはまるように、文中の言葉を用いて八字で書け。

殺し合いの中からは、□ から。



(3) — 線②「びくともしない」とあるが、どのような状態か。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア しつかりしている状態
イ びくびくしている状態
ウ よわよわしい状態



(4) — 線③「へええ」とあるが、三吉はどのような気持ちをこめて言つたのか。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- ア 本当に車が百年も残るのかと疑問に思う気持ち。
 イ 車が百年も残ると言う親方を馬鹿にする気持ち。
 ウ 車が何年残ろうが自分には関係ないという気持ち。
 エ 車が百年も残るのかと感心する気持ち。

(5) □B□にあてはまる言葉を次のの中から選び、記号で答えよ。

- ア 五人前
イ 二人前

ウ 半人前
エ 男前

(6) □C□にあてはまる親方の言葉として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- ア 続いてる
イ 楽しい

ウ 終わってる
エ どないなつてる

(7) — 線④「声の調子を変えてしまひだした」とあるが、なぜ親方は「声の調子を変えたのか。「……になりきるため」に続くように、文中の言葉を用いて六字で書け。

になりきるため

(8) □にあてはまる言葉として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- | | |
|---|-------|
| ア | 腕のええ |
| ウ | 腕の悪い |
| イ | へんな |
| エ | たよりない |

(9) — 線⑤「ろうそくがもつたいないやないか」と親方が言つたのはどうしてか。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- | | |
|---|------------------------------|
| ア | 三吉をさりげなくほめたことに照れを感じてごまかしている。 |
| イ | おかみさんに二人の秘密がばれないかとひやひやしている。 |
| ウ | ろうそくを無駄にしてはいけないと焦つてている。 |
| エ | 夜遅くまで起きている三吉をいさめている。 |



第七講・復習問題『文学的文章』物語・小説の弱点補強(2)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、後の問題を解きなさい（一つ5点 計25点満点）

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

車大工の三吉は、初めて車輪の支え木（矢）を作らせてもらえたことになった。三吉は自分が作った支え木に名前を彫ろうと夜中に起きたが、親方に見つかってしまう。しかし、親方はあまり怒らず、それどころかまちがえて「さんちき」と彫ってしまった三吉に手本を見せてくれた。そのとき外で物音がしたので戸を開けると、侍が倒れていた。

知らぬ間に、手が親方の着物のそでをぎつちり握り締めていた。

親方の後ろから三吉もついていき、侍の顔をのぞき込んだ。

いきなり、その目がくわつと開いた。にらみつけるように、こちらを見る。

「む、無念じや……。」

そのとき、ばらばらと走ってくる足音が聞こえた。

二人は、慌てて家中へ駆け戻った。戸を閉めて、心張り棒をぎつちりとする。

やがて、三、四人の足音が表で止まった。鋭く低い声がしたかと思うと、すぐに、足音が、もと来たほうへ引き返していく、しだいに遠くなつて消えた。

親方は、もう一度戸を開けた。何もなかつた。倒れていた侍も刀も消えていた。

戸締まりをして親方は、自分でろうそくをつけた。のみをがらくた入れの中へしまつと、まだ体の震えの止まらない三吉

に向かって、静かに言つた。

「侍に生まれんで、よかつたな。」

「……。」

「あの侍の目は、死ぬ間際やちゅうのに、憎しみでいっぱいやつた。侍たちは、やたらと殺しおうてばかりや。国のためやとか言うてるけど、殺し合いの中から、いつたい何を作り出すというんじや。」

親方は、三吉が作った矢を握つてぐいと引いた。^①びくともしない。

「ええ仕上がりや。この車は何年持つと思う?」

三吉は、やつと口を開いた。

「三、三十年やろか。」

「あほう、百年や。」

「百年も!」

「わしらより長生きするんや。侍たちは、なんにも残さんと死んでいくけど、わしらは車を残す。この車は、これから百年もの間、ずっと使われ続けるんや。」

^②「へええ。」

「へええやあらへん。おまえも、その車大工の一人やないか。まだ半人前やけど。」

「半人前は、余分や。」

「余分のついでに、今から百年先のことを考えてみよか。^③世の中、どないなつてるやろ。幕府が続いてるか、ほかの藩が天下を取つてるか分からん。けど、わしらみたいな町人の暮らしは、^(とぎれないとぎれないと)続いているやろ。祇園祭りも、町衆の力で毎年行われ、この車は、祭りのたびに、おおぜいの見物人の前をゴロゴロ引かれていく。^(ほいで)ほいで、だれかが、今わしらの

彫つた字を見つけるんや。見つけて、こない^(こう)言うかもしれへん。」

そこで親方は、腕を組み、声の調子を変えてしゃべりだした。

「ほう、こりやなんと百年も前に作った車や。長持ちしてゐるなあ。なになに『さんちき』か……。ふうん、これを作つた車大工やな。ちょっと変わつた名前やけど、きつと□のええ車大工やつたんやろなあ……。」

「親方——。」

三吉は親方の腰をぎゅっと押した。怒られるかなと思つたけど、何も言われなかつた。

「はつはつは、さあ、もう寝ろ。ろうそくがもつたいないやないか。」^④

親方は、それだけ言うと、さつさと奥へ入つてしまつた。

三吉は、ろうそくを吹き消そうとして、もう一度車を見た。

さんちき

と彫つた字が、ろうそくの明かりの中に、ぼんやりと浮かんで見える。

「さんちきは、きっと腕のええ車大工になるで。」

そつとつぶやいてから、思い切り息を吸い込んで、ろうそくの明かりをひと吹きで消した。

(吉橋通夫
「さんちき」より)

問一 傍線部①「びくともしない」とあるが、どのような状態か。次の空欄にあてはまる最も適当な言葉を、五字以内の語句で書け。

している状態

問二 傍線部②「へええ」とあるが、三吉はどのような気持ちを込めて言つたのか。次の空欄にあてはまる最も適当な二字の熟語を書け。

車が百年も残るのかと
する気持ち

問三 傍線部③「半人前」とあるが、親方は三吉に、どのような意味で「半人前」と言つたのか。次の空欄にあてはまる最も適当な二字の熟語を書け。

三吉が職人として、
だとということ。

問四 本文中の空欄にあてはまる体の一部を表す言葉を、漢字一字で書け。

問五 傍線部④「ろうそくがもつたいないやないか」と親方が言つたのはどのような気持ちか。次の空欄にあてはまる最も適当な二字の語を書け。

三吉をさりげなくほめたことに
を感じてこまかしている。

第七講・確認テスト 『文学的文章』 物語・小説の弱点補強(2)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 サムライ ①侍 ②待 ③持 ④恃

問二 オヤカタ ①親片 ②親型 ③親方 ④親肩

問三 トジまり ①戸絞まり ②戸閉まり ③戸締まり ④戸占まり

問四 チヨウシ ①調子 ②銚子 ③長子 ④丁子

問五 ダイク ①大供 ②大工 ③大久 ④大口

第八講・《説明的文章》説明文の読み解ルール(1) 指示語・接続語から筆者の主張をおさえる？



① 説明文の読み方

- (1) 全体の内容をとらえる。まず、何を話題にしているかをとらえる。冒頭の段落に書かれていることが多い。
- (2) 文脈をとらえる。接続語・指示語に注意して、内容の流れを正しく理解する。
- (3) 要点をとらえる。段落ごとの中心となる内容をとらえる。
- (4) 筆者の主張を読み取る。文章全体の構成をとらえ、中心となる段落から筆者の最も伝えたい内容をつかむ。

② 話題の中心をとらえる。

説明文は、筆者が自分の得意とする分野について説明・解説し、自分の考えを読者に伝えようとする文章である。問題とする内容は、わかりやすく冒頭に書かれていることが多い。また、筆者の主張したいことも冒頭や最後に述べられていることが多い。

③ 内容を正しく理解する。

- (1) 指示語 ふつう、その語よりも前の内容を指す。語句の場合もあるし、一文、それ以上のまとまりの場合もある。
- (2) 接続語 論理的に組み立てられた説明文では、文と文のつながり、各段落の役割、文章全体の構成を理解するための手がかりとなる。

4 要点をとらえる。

- (1) 要点とは、段落の中で筆者が最も強く述べようとしている中心の考え方。
(2) 指示語（例それ）、接続語（例つまり）を手がかりに、筆者の考え方、主張を述べている部分（中心文）と、例を示して説明している部分とを見きわめる。

5 要約する。

それぞれの段落の役割に注意しながら、要点をまとめることを要約という。

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

① 文章で人をだまさないためには、そこで述べているのが、実際に体験したり目撃したり調査したりしたことなのか、それとも、なにかをもとにして自分が推察したこと、日ごろ考えていること、想像してみたことなのかを明確にしなければならないだろう。つまり、事実なのか、推測や意見なのかを区別する必要があるということである。事実であれば「である」「だった」と結んでもいい。が、推論なら推論らしく「だろう」とか「と思われる」とか「らしい」とか明記する。こういうことをめんどうがって、読者が事実と意見とを混同するような文章は、結果として嘘うそをついたことになる。たったそれだけで悪文の資格を獲得する。

② たとえば、子どもが赤い目をして立っていたとする。そういう書き方にとどめれば、むろん事実の文だ。「目が充血している」ととらえて、そう書いても、このへんまでは、まず、事実を書いているとして問題はない。□、そこから、さつきまで泣いていたという判断をひきだすところまで進めば、もう客観的な事実だけを述べた文とはいえない。

③ 客観事実を伝える文のほうが価値が高いとか、推論や意見を述べるのがいけないとかいうつもりは毛頭ない。ただ、悪文であることをまぬがれるためには、「さつきまで泣いていたのだ」と書くのと、「泣いていたにちがいない」と書くのと、「泣いていたのだろう」と書くのと、「泣いていたのかもしれない」と書くのとでは、事実の認識のしかたに差があるということを自覚し、正確に伝える配慮が必要だといいたいだけだ。その子は単に寝不足だったのかもしれない。ある。

④ 新聞記事ともなれば、文章の具体性や平明さも大事だが、何よりも必要なのは正確さだ。辰濃和男『文章の書き方』では、正確に伝えるために、こまめに調べることと、先入観にとらわれずに自分の目でしっかり見ることを勧めている。具体的には、数字と固有名詞には特に気をつけ、おつくづくがらずには辞典や年表その他の資料にあたることがまず必要だとい

う。⁽²⁾ そうすることで不注意な誤りが大幅に減り、孫引きによる失敗もある程度防げるという。また、夕焼けというと、すぐ「あかね色」と書きやすいが、実際には朱色に燃えるときも、淡い紅色に染まるときも、えんじ色に見えるときもある。この教訓は新聞記事の場合だけではなく、文章の書き方一般にあてはまる。

⑤ 事実か意見かという点をもう少し細かく見れば、同じく事実を伝える態度で書く文章にもいろいろある。それが自分の直接に体験した事実なのか、人から伝え聞いた事実なのか、または、だれかの考えを引用したり紹介したりしているのか、といった違いを区別することも大切だ。一方、意見を述べる態度で書く文章でも、それが自分自身の考えなのか、だれかの考えなのかを明確にすることが肝要だ。推定・評価・説・主張といった判断の差を言語的に明示することが正しい伝達を支えていることを忘れないようにしたい。

⑥ このあたりの表現態度があいまいなままに書きつづけると、あとで修正不能になることもある。**推敲段階**で正確な文章に近づけようとして表現をいじりだすと、つじつまが合わなくなることが多いのだ。たとえば、事実をもとに次を展開させたはずなのに、そこが実は意見だったというようなことがあとでわかると、そこだけ直せばいいというものではなく、それ以降の論が成り立たなくなる。自分の意見のつもりで書いていたところが実は他人の意見のうけうりだつたりすると、全体の記述の流れがおかしくなり、オリジナリティーが消滅したりする。直せば直すほど支離滅裂になり、ますます悪文に近づく。

⑦ 文章はまちがつてさえいなければいいというものではない。これで意図が充分通じるか、相手が誤解するおそれはないか、もつとわかりやすく書けないか、というふうに一度、他人の目で批判的に読んでみるのである。他人は自分ではない。これは恐ろしいことだ。そのことがほんとうにわかつたとき、悪文は大幅に減るはずである。(中村 明 「悪文」より)
(注) 孫引き……他の本に引用してある文句をそのまま引用すること。

オリジナリティー……独自性。独創性。

(1) — 線①「悪文」とあるが、どのような文章か。①段落の中から二十字以内で抜き出し、最初と最後の三字を書け。

)

(2) □にあてはまる言葉として最も適当なものを次の□から選び、記号で答えよ。

- ア そして イ しかし
ウ すると エ また

(3) — 線②「そうすること」とあるが、どうすることか。それが書かれている部分を文中から抜き出し、最初と最後の三字を書け。

)

— 75 —

人に□を与えない文章の書き方。

(4) この文章の内容を説明した次の文の□にあてはまる言葉を漢字二字で書け。

)

第八講・復習問題 『説明的文章』 説明文の読み解きルール(1)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、後の問題を解きなさい（一つ5点　計25点満点）

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

文章で人をだまさないためには、そこで述べているのが、実際に体験したり目撃したり調査したりしたことなのか、それとも、なにかをもとにして自分が推察したこと、日ごろ考えていること、想像してみたことなのかを明確にしなければならないだろう。つまり、事実なのか、推測や意見なのかを区別する必要があるということである。事実であれば「である」「だった」と結んでもいい。が、推論なら推論らしく「だろう」とか「と思われる」とか「らしい」とか明記する。こういうことをめんどうがって、読者が事実と意見とを混同するような文章は、結果として嘘うそをついたことになる。たつたそれだけで悪文の資格を獲得する。

【A】、子どもが赤い目をして立っていたとする。そういう書き方にとどめれば、むろん事実の文だ。「目が充血している」ととらえて、そう書いても、このへんまでは、まず、事実を書いているとして問題はない。【B】、そこから、さつきまで泣いていたという判断をひきだすところまで進めば、もう客観的な事実だけを述べた文とはいえない。

客観事実を伝える文のほうが価値が高いとか、推論や意見を述べるのがいけないとかいうつもりは毛頭ない。ただ、悪文であることをまぬがれるためには、「さっきまで泣いていたのだ」と書くのと、「泣いていたにちがいない」と書くのと、「泣いていたのだろう」と書くのと、「泣いていたのかもしれない」と書くのとでは、事実の認識のしかたに差があるということを自覚し、正確に伝える配慮が必要だといいたいだけだ。その子は単に寝不足だったのかもしれない。ある。

新聞記事ともなれば、文章の具体性や平明さも大事だが、何よりも必要なのは正確さだ。辰濃和男『文章の書き方』で

は、正確に伝えるために、こまめに調べることと、先入観にとらわれずに自分の目でしっかり見ることを勧めている。具体的には、数字と固有名詞には特に気をつけ、おつくうがらずに辞典や年表その他の資料にあたることがまず必要だという。そうすることで不注意な誤りが大幅に減り、孫引きによる失敗もある程度防げるという。また、夕焼けというと、すぐ「あかね色」と書きやすいが、実際には朱色に燃えるときも、淡い紅色に染まるときも、えんじ色に見えるときもある。この教訓は新聞記事の場合だけではなく、文章の書き方一般にあてはまる。

事実か意見かという点をもう少し細かく見れば、同じく事実を伝える態度で書く文章にもいろいろある。

^①

それが自分の直

接に体験した事実なのか、人から伝え聞いた事実なのか、または、だれかの考えを引用したり紹介したりしているのか、といった違いを区別することも大切だ。一方、意見を述べる態度で書く文章でも、^②それが自分自身の考えなのか、だれかの考えなのかを明確にすることが肝要だ。推定・評価・説・主張といった判断の差を言語的に明示することが正しい伝達を支えていることを忘れないようにしたい。

このあたりの表現態度があいまいなままに書きつづけると、あとで修正不能になることもある。推敲段階で正確な文章に近づけようとして表現をいじりだすと、つじつまが合わなくなることが多いのだ。たとえば、事実をもとに次を展開させたはずなのに、そこが実は意見だったというようなことがあとでわかると、そこだけ直せばいいというものではなく、それ以降の論が成り立たなくなる。自分の意見のつもりで書いていたところが実は他人の意見のうけうりだつたりすると、全体の記述の流れがおかしくなり、オリジナリティが消滅したりする。直せば直すほど支離滅裂になり、ますます悪文に近づく。文章はまちがつてさえいなければいいというものではない。これで意図が充分通じるか、相手が誤解するおそれはないか、もつとわかりやすく書けないか、というふうに一度、他人の目で批判的に読んでみるのである。他人は自分ではない。これは恐ろしいことだ。そのことがほんとうにわかつたとき、悪文は大幅に減るはずである。

(中村 明「悪文」より)

(注) 孫引き……他の本に引用してある文句をそのまま引用すること。

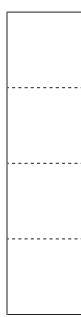
オリジナリティ……独自性。独創性。

問一 本文は、「悪文」とはどのような文章かを述べたものである。筆者の考える「悪文」の説明として適切の内容になるよう、次の文の空欄（甲）・（乙）・（丙）にあてはまる二字の熟語を、本文の第一段落からそれぞれ抜き出せ。

読者が、〔（甲）〕と〔（乙）〕とを〔（丙）〕するような文章。



問二 本文中の空欄Aにあてはまる「具体例をあげて説明する副詞」を、ひらがな四字で答えよ。



問三 本文中の空欄Bにあてはまる「逆接の接続詞」を、ひらがな三字で答えよ。

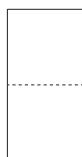


問四 傍線部①と傍線部②の指示する語句をそれぞれ二十字以内で答えよ。

②

この文章で、筆者は「文章」を書くにあたって、「読み手」に「何を」与えない文章の書き方が重要だと述べているのか。二字の熟語で答えよ。

①



第八講・確認テスト 《説明的文章》 説明文の読解ルール(1)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 ジッサイ ①実際 ②実祭 ③実歳 ④実蔡

問二 タイケン ①体險 ②体檢 ③体驗 ④体僕

問三 ソウゾウ ①総造 ②總像 ③想造 ④想像

問四 スイソク ①推則 ②推測 ③推側 ④推速

問五 タイド ①態度 ②体度 ③対度 ④怠度

第九講 ● 《説明的文章》 説明文の読解ルール(2) 段落ごとの内容から筆者の主張をおさえる ?



① 形式段落（小段落）と意味段落（大段落）

(1) **形式段落** 行をかえて一字下げて書き始められている、それぞれのまとまり。

(2) **意味段落** 意味のまとまりのうえから、形式段落をいくつかの大きい段落にまとめとらえたもの。

小段落の内容をとらえ、大段落にまとめる。

例題の本文では、大段落(一)——笑いとは何か？　どのような意味を持っているのか？　脳の中では何が起きているのか？

(筆者の問い合わせ) ॥1

大段落(二)——笑いの性質・特徴。 ॥2 3

大段落(三)——笑いのために必要なこと。 ॥4 5 6 7

大段落(四)——「笑い」のはたらき、意味、効果。 ॥8

② 段落の役割、段落相互の関係をとらえる。

(1) 段落の最初の語句（特に指示語・接続語）に注意する。

(2) 中心となる語句や文に注意して要点をとらえる。

(3) 段落の役割には、次のようなものがある。

問題提示

- ・ 例示・比較・検討・原因・結果・補足・発展など
- ・ 結論・結び

3

文章の構成

基本的な形は次の二つである。

(1) 三段型

序論（問題提示・意見）



本論（説明・証明・例示）



結論（主張・まとめ）

(2) 四段型（起承転結）

序論〈起〉（問題提示・意見）



説明〈承〉（内容を深める・検討）



論証〈転〉（角度を変える・対立）



結論〈結〉（主張・まとめ）

筆者の主張は、最終段落に述べられていることが多い。

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

- ① 一体、人間にとつて笑いとは何なのだろうか？ 生きる上で、笑うということはどういう意味を持っているのだろうか？ 笑っている時に、人間の脳の中では何が起きているのか？ そのような問題に、ずっと関心を抱いてきたのである。
- ② 笑いとは、決して気楽なものではない。時にそれは、生きるということの切なさ、難しさと結びついている。恐怖や不安が笑いの背景にあることも多い。イギリスのコメディでは、社会に対する風刺が笑いの原動力になつていてる。
- ③ その一方で、笑いのプロフェッショナルたちは、単なる批判では笑いにならないことも知つていてる。あくまでも、目的が「笑う」ことだとすれば、その大目標を達成するためには、絶妙なバランスと、纖細な文脈の設定が必要となるのだ。
- ④ 笑いのためには、時には身を捨てることも必要である。自分の欠点、ダメなところを客観的に見ることができるか。そのような「メタ認知」の能力が、笑いには欠かせない。ある人が、自分の欠点を懸命に隠そうとすると、周囲の人たちはかえつてそのことが気になつて仕方がなくなるのである。自分の一番痛いポイントを、人前でユーモアをもつて話すことができる人は、それだけ自分自身から解放されている。
- ⑤ 「ある人の価値は、何よりも、自分自身からどれくらい解放されているか」ということで決まる」。
- ⑥ 相対性理論を創った天才物理学者、アルベルト・aigneauシュタインは、そのように言った。そのaigneauシュタインは、生涯にわたってユーモアのセンスを忘れなかつた人だつた。そのことと、aigneauシュタインが相対性理論という革命を成し遂げたことは関係しているかもしない。
- ⑦ 自分自身をメタ認知して、苦しいことを笑いに転化することができれば、それだけ生きる上での前向きのエネルギーを得ることができる。また、自分の欠点をしつかりと見据えることで、その改善を図ることができる。欠点を隠して、うや

むやにしてしまつたり、実際以上に自分を大きく見せようとしたりするよりは、はるかに素晴らしい人生を送ることができ
る。

〔8〕 「笑い」は、人生の階段を上るための支点である。生きる以上、どんな人にも苦難は訪れる。しかし、笑いがあれば、逃れようがないように見える泥沼からも、すっと身体からだを浮かび上がらせることができる。笑いは、人と人とのコミュニケーションを円滑にする。ざらざらとした非難の代わりに、愛のあるツッコミをやりとりすることができる。笑いがあれば、経済や社会の状況がどんなに悪くなつても、なおも前向きの気持ちを忘れずに、日々を生きることができる。

(注) コメディ……喜劇。

風刺……社会、政治などを遠回しに批判すること。

織細……こまやかなこと。

メタ認知……自分の思考や行動を客観的にとらえて理解すること。

相対性理論……物理学の基礎理論。

転化……ほかの状態に変えること。

(茂木健一郎「笑う脳」より)

(1) この文章は、意味のうえから、大きく四つに分けることができる。その分け方として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア	①	・	②	③	・	④	⑤	⑥	⑦	・	⑧
イ	①	・	②	③	・	④	⑤	⑥	・	⑦	⑧
ウ	①	②	・	③	④	・	⑤	⑥	⑦	・	⑧
エ	①	②	・	③	④	・	⑤	⑥	⑦	・	⑧

(2) ①段落の問い合わせに対する答えをまとめているのは、どの段落か。段落番号で答えよ。

(3) 線部「身を捨てる」とはどうすることか。文中から二十一字で抜き出し、最初と最後の三字を書け。

(4) ⑦段落は、④・⑤・⑥段落とどのような関係にあるか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア ④段落とは反対の考えを、⑤・⑥段落の例を参考にして⑦段落で述べている。

イ ④・⑤・⑥段落で述べたことについて、⑦段落で具体的な例をあげて説明している。

ウ ④段落で述べたことを、⑤・⑥段落の例と合わせてもう一度⑦段落でまとめている。

(5)

筆者の考え方をまとめた次の文の [a] [b] [c] にあてはまる言葉を文中からそれぞれ抜き出せ。
自分自身から [a 二字] され、自分の [b 二字] を笑いに転化できれば、[c 三字] の気持ちが生まれ、日々を生きることが
できる。



第九講・復習問題 『説明的文章』 説明文の読み解きルール(2)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、後の問題を解きなさい（一つ5点　計25点満点）

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

一体、人間にとつて□とは何なのだろうか？生きる上で、笑うということはどのような意味を持っているのだろうか？笑っている時に、人間の脳の中では何が起きているのか？そのような問題に、ずっと関心を抱いてきたのである。

笑いとは、決して気楽なものではない。時にそれは、生きるということの切なさ、難しさと結びついている。恐怖や不安が笑いの背景にあることも多い。イギリスのコメディでは、社会に対する風刺が笑いの原動力になっている。

^①その一方で、笑いのプロフェッショナルたちは、単なる批判では笑いにならないことも知っている。あくまでも、目的が「笑う」ことだとすれば、その大目標を達成するためには、絶妙なバランスと、纖細な文脈の設定が必要となるのだ。

笑いのためには、時には身を捨てる必要もある。自分の欠点、ダメなところを客観的に見ることができるか。そのような「メタ認知」の能力が、笑いには欠かせない。ある人が、自分の欠点を懸命に隠そうとすると、周囲の人たちはかえってそのことが気になつて仕方がなくなるのである。自分の一番痛いポイントを、人前でユーモアをもつて話すことができる人は、それだけ自分自身から解放されている。

「ある人の価値は、何よりも、自分自身からどれくらい解放されているかということで決まる」。

相対性理論を創った天才物理学者、アルベルト・aigneauシュタインはそのように言った。そのaigneauシュタインは、生涯にわたつてユーモアのセンスを忘れなかつた人だつた。そのことと、aigneauシュタインが相対性理論という革命を成し遂げたことは関係しているかもしねりない。

自分自身をメタ認知して、苦しいことを笑いに転化することができれば、それだけ生きる上での前向きのエネルギーを得ることができる。^②また、自分の欠点をしつかりと見据えることで、その改善を図ることができる。欠点を隠して、うやむやにしてしまったり、実際以上に自分を大きく見せようとしたりするよりは、はるかに素晴らしい人生を送ることができる。

「笑い」は、人生の階段を上るための支点である。生きる以上、どんな人にも苦難は訪れる。しかし、笑いがあれば、逃れようがないように見える泥沼からも、すっと身体^{からだ}を浮かび上がらせることができる。笑いは、人と人とのコミュニケーションを円滑にする。ざらざらとした非難の代わりに、愛のあるツッコミをやりとりすることができる。笑いがあれば、経済や社会の状況がどんなに悪くなつても、なおも前向きの気持ちを忘れずに、日々を生きることができる。

(注) コメディ……喜劇。

風刺……社会、政治などを遠回しに批判すること。

織細……こまやかなこと。

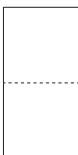
メタ認知……自分の思考や行動を客観的にとらえて理解すること。

相対性理論……物理学の基礎理論。

転化……ほかの状態に変えること。

(茂木健一郎「笑う脳」より)

問一 本文中の空欄には、テーマにつながるキーワードが入る。その言葉は何か、二字の語で答えよ。

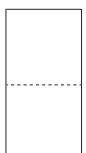
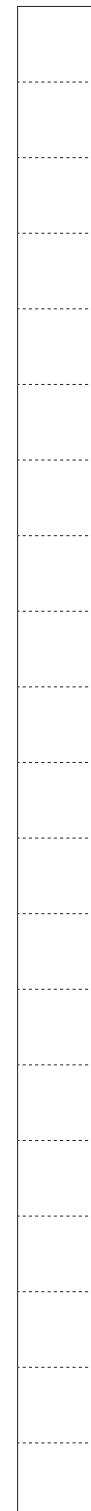


問二 傍線部①「その一方で」とあるが、前後をどのような接続関係でつなげているか。二字の熟語で答えよ。

問三 傍線部②「また」とあるが、前後をどのような接続関係でつなげているか。二字の熟語で答えよ。

問四 答者は、「笑い」のために、どのような能力が必要だと考えているか。四字の語で答えよ。

問五 答者は、「笑い」の効用としてどのようなことをあげているか。文中から二十字で抜き出せ。



第九講・確認テスト 《説明的文章》 説明文の読解ルール(2)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 カンシンを抱いてきた

- ①関心 ②感心 ③歓心 ④甘心

問二 笑いのハイケイ

- ①抨啓 ②背景 ③背啓 ④抨景

問三 ソウタイ性理論

- ①總体 ②総対 ③相対 ④相体

問四 苦しいことを笑いにテンカする

- ①添加 ②転嫁 ③転訛 ④転化

問五 ざらざらとしたヒナンの代わり

- ①非難 ②避難 ③否難 ④悲難

第十講・《説明的文章》説明文の読解ルール(3) 要旨・筆者の主張をおさえる



① 要旨

筆者の主張の要約である。筆者が最も述べたいと思っていることを短くまとめたもの。

② 要旨のとらえ方

(1) 中心段落をみつける。

段落ごとの要点をつかみ、段落相互の関係を見きわめる。そして、中心となる段落と、例示や補足説明などの段落とを区別する。

(2) 中心文をみつける。

中心段落の中で、筆者の主張を表現している文をとらえる。

(3) キーワードに注意する。

文章の中でくり返し用いられている語句をいう。これは、要旨と深くかかわってることが多い。キーワードの出てくる部分は注意して読み、筆者の意図をつかむようにする。

(4) 文脈に注意して内容をとらえる。

筆者の意見や考え方などの展開をおさえるため、文脈には注意する。指示語で指示された内容は、必ず指示内容を確認して文脈を明確にしておく。とくに段落冒頭の指示語は、段落相互の関係をとらえるのに重要な役割をはたすことが多い。

3

要旨のまとめ方

(1) できるだけ簡潔にまとめる。

修飾語など省略できるものはできるだけ除き、わかりやすい文にする。

(2) 文中の言葉を用いて短くまとめる。

(3) キーワードがあればもちろんそれを用いる。また、文中の表現でそのまま使える部分は、抜き出して用いた方がよい。
文意の通るわかりやすい文を書くように心がける。

文中の語句を省略したりつなげたりして、作文することになるため、文の脈絡がなくなり伝えるべき意図が不明瞭^{ふめいりょう}になりやすい。筆者の主張・考えがよくわかるように、順序を入れかえたり自分の言葉を加えたりする工夫をする。

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

私たち人間は誰でも、この世に生きていくとき、必ずなにかをつくり出し、それによって自己を表現している。なにかをつくるというと、ふつう手仕事や、でなければ工場労働の機械をつかっての生産を、また自己を表現するというと、芸術家の仕事や、でなければ趣味としてやっている俳句や短歌や陶芸など、そういったものだけを、人は考①えがちである。けれども、ここでのいうのは、もっと広い意味でつくり出すことであり、表現である。広い意味でいえば、およそ私たちは、なにもつくりらず、なにも表現せずに生きていることはありえないし、生きていくことはできない。

たとえば、極端な話だが、ここに、来る日も来る日も一日中自分の部屋に閉じこもつて、誰にも会わず、なにもしない人がいたとする。この人は一見したところなにもつくりらず、なにも表現していないように見える。

②□、果たして、そういう人は、なにもつくりらず、なにも表現していないだろうか。必ずしもそうとはいえない。なんとなれば、その人がそのように振る舞③うとき、そこに家族やまわりの人々との間にやはり一種独特の関係をつくり出していられるからである。また、その関係を通して「変わり者」あるいは「人間嫌い」として自分を表現しているからである。どうしてこのようになるのだろうか。思うにそれは、私たち人間の一人一人が、この世に生きていくかぎり、すでになんらかの人間関係、社会関係の網のなかで、同じことだがある一定の意味の場^{II}文化のなかで生きているからであろう。

私たちの一人一人は、ただ個人として在るのでないばかりか、単に集団の一員として在るのでもなくて、そのような意味をもつた関係のなかにある、とこそいわなければならない。だからこそ、自分では社会や政治にまったく関心をもたなくとも、私たちはそれらと無関係でいることはありえないことにもなるのである。もちろんそれは、物理的、自然的な関係ではなくて、意味的、価値的な関係である。^④ こうした関係のなかでは、すべての態度、なにもしないことでさえ、いわば一つの行

為になり、なんらかの意味を帶びてくる。

そのことをきわめて鋭くとらえ、表しているのは、現代芸術である。たとえばある作曲家は、ピアニストに対して演奏会場のステージのピアノの前におもむろに腰をかけるなり四分三十三秒間なにもしないままでいるように指示し、その間に聞こえてくる自然音に聴衆の耳を傾けさせて、それを『四分三十三秒』と名づけた。一風変わったこの例が現代芸術にとって画期的な「作品」であるとされるのも、そこにあるのが単なる奇抜な思いつきではなくて、それをこえたものだからであろう。演奏会場という特定の意味の場そのものを生かして、つくることや表現することのなんたるかを、根本から問い合わせたものだからであろう。

このように私たち人間にとつて、なにかをつくり出したり表現することは、なんら特別のことではない。それは、生きるということとほとんど同義語でさえある。

(中村雄二郎 「共通感覚論」 より)

(1) —線①「考えがちである」は、どういう意味で使われているか。最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えよ。

ア 考える傾向がある イ 考える可能性がある

ウ 考える危険がある エ 考える必然性がある

(2) □にあてはまる言葉として最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えよ。

ア さらに イ そして

ウ だが エ また

(3) —線③「そのように振る舞う」とは、どのように振る舞うことか。具体的に説明している部分を文中からそのまま抜き出し、最初と最後の五字を書け。

↓

(4) —線④「そうした関係のなかでは……帶びてくる」とあるが、同じ内容を言いかえた次の文の□にあてはまる言葉を文中から十九字で抜き出し、最初の五字を書け。

人間は、□において生きているものだから、何もしていなくてもその行為に意味が生まれる。

(5) この文章全体で述べている内容として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- ア 人間は、一人きりで生きているように見えても、芸術や趣味をとおして人間性を豊かに表現できる存在である。
- イ 人間は、なんらかの人間関係や社会関係のなかにあって、なにかをつくり出し表現して生きている存在である。
- ウ 人間は、社会や政治に深くかかわっており、なにもしないことでさえ一つの行為を意味するという存在である。
- エ 人間は、家族や集団の一員として生きるからこそ、一種独特的の関係をつくり出し自己を表現できる存在である。



第十講・復習問題 《説明的文章》 説明文の読解ルール(3)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、後の問題を解きなさい（一つ5点 計30点満点）

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

私たち人間は誰だれでも、この世に生きていくとき、必ずなにかをつくり出し、それによって自己を表現している。なにかをつくるというと、ふつう手仕事や、でなければ工場労働の機械をつかっての生産を、また自己を表現するというと、芸術家の仕事や、でなければ趣味としてやっている俳句や短歌や陶芸など、そういうしたものだけを、人は考えがちである。けれども、ここでいうのは、もっと広い意味でつくり出すことであり、表現である。広い意味でいえば、およそ私たちは、なにもつくらず、なにも表現せずに生きていることはありえないし、生きていくことはできない。

①□、極端な話だが、ここに、来る日も来る日も一日中自分の部屋に閉じこもって、誰にも会わず、なにもしない人がいたとする。この人は一見したところなにもつくらず、なにも表現していないように見える。

②□、果たして、そういう人は、なにもつくらず、なにも表現していないだろうか。必ずしもそうとはいえない。なんとなれば、その人がそのように振る舞うとき、そこに家族やまわりの人々との間にやはり一種独特の関係をつくり出していいるからである。また、その関係を通して「変わり者」あるいは「人間嫌い」として自分を表現しているからである。どうしてこのようなことになるのだろうか。思うにそれは、私たち人間の一人一人が、この世に生きていくかぎり、すでになんらかの人間関係、社会関係の網のなかで、同じことだがある一定の意味の場^ハ文化のなかで生きているからであろう。

私たちの一人一人は、ただ個人として在るのでないばかりか、単に集団の一員として在るのでもなくて、そのような意味をもつた関係のなかにある、とこそいわなければならぬ。③□こそ、自分では社会や政治にまったく関心をもたなくと

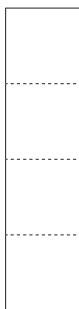
も、私たちはそれらと無関係でいることはありえないことにもなるのである。むろんそれは、物理的、自然的な関係ではなくて、意味的、価値的な関係である。そうした関係のなかでは、すべての態度、なにもしないことさえ、いわば一つの行為になり、なんらかの意味を帯びてくる。

そのことをきわめて鋭くとらえ、表しているのは、現代芸術である。たとえばある作曲家は、ピアニストに対して演奏会場のステージのピアノの前におもむろに腰をかけるなり四分三十三秒間なにもしないまままでいるように指示し、その間に聞こえてくる自然音に聴衆の耳を傾けさせて、それを『四分三十三秒』と名づけた。一風変わったこの例が現代芸術にとって画期的な「作品」であるとされるのも、そこにあるのが単なる奇抜な思いつきではなくて、それをこえたものだからであろう。演奏会場という特定の意味の場そのものを生かして、つくることや表現することのなんたるかを、根本から問い合わせたものだからであろう。

このように私たち人間にとつて、なにかをつくり出したり表現することは、なんら特別のことではない。それは、生きるということとほとんど同義語でさえある。

(中村雄二郎 「共通感覚論」 より)

問一 本文中の空欄①には具体例を示す副詞が入る。最も適当な語をひらがな四字で答えよ。



問二 本文中の空欄②には逆接の接続詞が入る。最も適当な語をひらがな二字で答えよ。

問三 本文中の空欄③には原因・理由の接続詞が入る。最も適当な語をひらがな三字で答えよ。

問四 本文中の傍線部「それ」が指示する部分を、文中から十七字で抜き出せ。

問五 次の文は、本文の内容について、説明したものである。空欄に入る最も適当な二字の熟語を答えよ。ただし、(甲)と(乙)に入る言葉の順は問わない。

人間は、なんらかの【(甲)】関係や【(乙)】関係のなかにあって、なにかをつくり出し表現して生きている存在であり、何をしていなくてもその存在や行為に意味が生まれてくる。

(甲)

(乙)

第十講・確認テスト 《説明的文章》 説明文の読解ルール(3)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 キヨクタンな話

- ①曲胆 ②曲端 ③極胆 ④極端

問二 エンソウ会場

- ①宴奏 ②宴想 ③演奏 ④演想

問三 (ステージの前の) チョウシュウの耳

- ①町衆 ②聴衆 ③長州 ④徵収

問四 カツキ的な「作品」

- ①画期 ②活氣 ③各期 ④各機

問五 ドウギ語

- ①動議 ②道義 ③同議 ④同義

例題

第十一講・《説明的文章》説明文の弱点補強(1) 指示語・接続語・段落内容をとらえる問題?



次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

【1】情報の発信は、情報処理の最後のステップ⁽¹⁾であると同時に次のステップの始まりでもある。つまり、発信された情報は他者に受信され、次の情報処理の第一ステップが始まるのである。

【2】このようにして情報の受信・送信のサイクルは次々に網の目のようにつながって、情報化社会のネットワークを形成する。⁽²⁾このネットワークは、いわば情報化社会という生命体の毛細血管である。この毛細血管に沿って情報という血液が流れることによって、初めて情報化社会の生命活動が維持される。その生命活動がさまざまな文化を生み出し、文明を開花させるのである。

【3】このように考えると、情報を発信するという行為が情報化社会にとつていかに本質的であるかがわかるであろう。もし仮に情報を発信する人が一人もいなくなつたならば、それは情報化社会という生命体の死を意味しているのである。

【4】A、なぜかわれわれ日本人は、情報を発信することよりも情報を受信することの方を好むようである。あるメーリング・リストでも、以前にそのことが話題になつたことがある。ある管理人が調べてみたところ、そのメーリング・リストで活発に情報の発信をする人は全体の約二割であった。つまり、「全体の二割の人の所得（発言）で全体の所得（発言）の八割を占める」というパレートの法則があつてはまつていたのである。

【5】こうした日本人の控えめな性癖⁽⁴⁾は、そろそろ改めるべきときではないだろうか。情報化社会を生き抜くためには知性を磨くことが不可欠である。そして、知性を磨くための最も効果的な方法は、情報を発信することである。なぜなら、人間

の言葉には思考を方向づけたり整理したりする働きがあるからである。われわれは誰しも、頭のなかでもやもやしていた事柄が、言葉で表現することによってすつきり整理できた、というような経験をしたことがあるのではないだろうか。⁽⁵⁾このような例からも、言葉には知性を磨く働きがあることがわかるはずである。

[6]つまり、情報を発信しないことは、食べて寝るだけで運動や仕事をしないのと同じことなのである。そんな生活が体によくないことは明らかである。体に贅肉^(せいにく)がついて「体の切れ」が悪くなり、ますます運動するのがおつかうになる。運動不足では食欲もわからず、せつかくのご馳走^(ちそう)もおいしく食べられないであろう。

[7]これとまったく同様に、情報を受信するばかりで発信をしないと、⁽⁶⁾知性に贅肉がついて「頭の切れ」が悪くなり、ますます情報を発信するのがおつかうになる。何ごとにも好奇心^(こうきしん)がわからず、おいしい「生の情報」が送信されても、受信する気分にならないことであろう。

[8] B、情報化社会を生き抜くためには、常に情報の発信をして知性をシェイプアップしておくことが大切なあ
る。

(注)

マーリング・リスト……特定の人々を一つのメールアドレスに登録し、そのアドレスに届いたメールを全員に配信する仕組み。

管理者……マーリング・リストの設置者、運営者。

パレート……イタリアの学者。

「生の情報」……新聞などの活字情報とは違って、ネットワークを通じて伝わってくる即時的な情報。

(1) 線①「ステップ」とあるが、同じような意味の言葉として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- ア 足場 イ 段階
ウ 草原 エ 表現

(2) 線②「このネットワーク」とあるが、どのようなものか。「……のようなネットワーク」に続くように、文中から三字で抜き出せ。

——線③「いわば」とほぼ同じ意味の言葉の例として、最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア 私の叔父は東京の浅草、いわゆる下町で生まれ育った。
イ 木造の家は湿度の高い日本の気候にちょうど合っている。
ウ 決勝戦の会場はさながらラッシュ時の駅のような混雑だ。
エ パソコンの説明書の記述は難しくてまるで分からぬ。



のようなネットワーク



(4)

A B には、どのようなはたらきを持った言葉があてはまるか。最も適当なものを次のの中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア 前の事柄があとの事柄の原因や理由になることを表す。

イ 前の事柄にあとの事柄を付け加えることを表す。

ウ 前の事柄からあとの事柄に話題を変えることを表す。

エ 前の事柄と逆になるような事柄があとにつくることを表す。

(5) — 線④「こうした日本人の控えめな性癖」とあるが、どのようなものか。それが書かれている部分を、文中から二十五字以上三十字以内で抜き出せ。

A

B

(6) — 線⑤「このような例」とあるが、どのような例か。それが具体的に書かれた一文を文中から抜き出し、最初と最後の三字を書け。(句読点を含む。)

(7) — 線⑥「知性に贅肉がついて『頭の切れ』が悪くなり」を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 大量の情報を処理することに追われて、落ち着いて自分の生活や健康を振り返ることができなくなること。
イ たくさんの情報を手に入れるだけで満足してしまい、自分で深く考えたり、判断したりしなくなること。
ウ 手当たりしだいに情報を受け取り、他の誰よりも物知りになることで、自分の知性にうぬぼれてしまうこと。
エ 数ある情報の中から、自分に必要な情報を手に入れることが難しくて、先を見通した考え方がないこと。



第十一講・復習問題 《説明的文章》 説明文の弱点補強(1)

授業で使用したテキストをしつかり見直して、後の問題を解きなさい（一つ5点 計25点満点）

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

情報の発信は、情報処理の最後のステップであると同時に次のステップの始まりでもある。つまり、発信された情報は他人に受信され、次の情報処理の第一ステップが始まるのである。

このようにして情報の受信・送信のサイクルは次々に網の目のようにつながって、情報化社会のネットワークを形成する。このネットワークは、いわば情報化社会という生命体の毛細血管である。この毛細血管に沿って情報という血液が流れることによって、初めて情報化社会の生命活動が維持される。その生命活動がさまざまな文化を生み出し、文明を開花させるのである。

このように考えると、情報を発信するという行為が情報化社会にとつていかに本質的であるかがわかるであろう。もし仮に情報を発信する人が一人もいなくなつたならば、それは情報化社会という生命体の死を意味しているのである。

A、なぜかわれわれ日本人は、情報を発信することよりも情報を受信することの方を好むようである。あるメーリング・リストでも、以前にそのことが話題になつたことがある。ある管理人が調べてみたところ、そのメーリング・リストで活発に情報の発信をする人は全体の約二割であった。つまり、「全体の二割の人の所得（発言）で全体の所得（発言）の八割を占める」というパレートの法則があてはまつていたのである。

こうした日本人の控えめな性癖は、そろそろ改めるべきときではないだろうか。情報化社会を生き抜くためには知性を磨くことが不可欠である。そして、知性を磨くための最も効果的な方法は、情報を発信することである。なぜなら、人間の言

葉には思考を方向づけたり整理したりする働きがあるからである。われわれは誰しも、頭のなかでもやもやしていた事柄が、言葉で表現することによってすつきり整理できた、というような経験をしたことがあるのではないだろうか。このような例からも、言葉には知性を磨く働きがあることがわかるはずである。

つまり、情報を発信しないことは、食べて寝るだけで運動や仕事をしないのと同じことなのである。そんな生活が体によくないことは明らかである。体に贅肉ぜいにくにがついて「体の切れ」が悪くなり、ますます運動するのがおっくうになる。運動不足では食欲もわからず、せっかくのご馳走ちそうもおいしく食べられないであろう。

これとまったく同様に、情報を受信するばかりで発信をしないと、知性に贅肉がついて「頭の切れ」が悪くなり、ますます情報を発信するのがおっくうになる。何ごとも好奇心こうきがわからず、おいしい「生の情報」が送信されてきても、受信する気分にならないことであろう。

B、情報化社会を生き抜くためには、常に情報の発信をして知性をシェイプアップしておくことが大切なのである。

(森もり 敏昭としあき 「集中力をつける」より)

(注) メーリング・リスト……特定の人々を一つのメールアドレスに登録し、そのアドレスに届いたメールを全員に配信する仕組み。

管理人……メーリング・リストの設置者、運営者。

パレート……イタリアの学者。

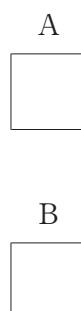
生の情報……新聞などの活字情報とは違って、ネットワークを通じて伝わってくる即時的な情報。

問一 傍線部「情報化社会のネットワーク」とはどのようなものに例えられているか。その比喩表現を四字熟語のかたちで文中から抜き出せ。

問二 本文中の空欄A・Bには、それぞれどのような言葉が入るか。最も適当なものを次のAから選び、記号で答えよ。

ア しかし イ そして ウ だから

エ たとえば オ また



問三 次の文は、本文の内容について、説明したものである。空欄に入る最も適当な言葉を文中から抜き出して答えよ。空

欄（甲）には二字の熟語、空欄（乙）には三字の熟語が入る。

（甲）の発信をしないでいると、たくさんの（甲）を手に入れることだけで満足してしまい、自分で深く考えたり、判断したりしなくなり、（乙）がわからなくなる。



第十一講・確認テスト 《説明的文章》 説明文の弱点補強(1)

次の例文の、傍線部と二重傍線部における、修辞上の関係はどのような関係か。次の選択肢から選びなさい。

問一 遠くから来た少女は、不思議な目をしていた。

問二 遠くから来た少女は、不思議な目をしていた。

問三 雨も、風も、激しさを増した。

問四 男は、じつと立っていた。

①修飾・被修飾の関係

②並立の関係

③補助の関係

④主述の関係

第十一講・《説明的文章》説明文の弱点補強(2) 要旨・主張をとらえる問題？

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。



【1】見ている世界は知覚の枠組みだけで決まるわけではない。感覚が鋭敏だからといって、かならずしも多くのものが知覚されているとはかぎらない。□A□、イヌの嗅覚は人間の数千倍とも数千万倍ともいわれる。これは匂いを嗅ぎわける細胞が、人の場合は約五〇〇万個なのに対しても、イヌは約二億五千万個もあるためである。しかし、イヌはその鋭い嗅覚でつねにあらゆる匂いを感じしているわけではない。関心のある匂いには集中するが、そうでない匂いは無視しているからである。

【2】①これは人間も同じである。同じ視覚の構造を持つ人間であっても、文化や時代によつて見える風景がちがうのは、どこに関心をおいてイメージをつくるかが異なるためである。中世のヨーロッパ人は自然が関心の対象でなかつた話はすでにした。もつと身近な例でいえば、町を歩いている若い女の子たちは中年男性など見ていないし、若い男性は女の子ばかり見ていて、そのほかのものは目に入つていなかかもしれない。別々の年齢の人たちが同じ町を同じ時間歩いて、なにを見てきたかと聞けば、②それぞれまったくちがう答えが返つてくるはずである。

【3】マーシャル・マクルーハンは、③こんな話を紹介している。

【4】二〇世紀の前半、あるアフリカの村で、白人の衛生監視員たちが、村人たちに衛生の大切さを教える映画を見せた。上映後、監視員は、村人に「あなたたちは映画で何を見ましたか」とたずねた。監視員は「手を洗つているのを見ました」とか「服をきれいにしているのを見ました」といった反応を期待していたはずだ。□B□、村人から返ってきたのは「ニワ

トリを見ました」という答えだった。一人だけではなく、みな同じことをいった。

〔5〕監視員たちはとまどつた。映画は衛生の大切さを説いたものであつて、ニワトリとは関係ない。そもそもニワトリが映画に出ているはずなどなかつた。いぶかしんだ監視員が注意深く映画を見なおすと、途中で、一瞬、画面の下をニワトリが横切る場面が見つかつた。撮影現場のそばにいたニワトリが偶然カメラに映りこんでいたのだつた。監視員たちは、このときまで、だれもそのことに気づいていなかつた。しかし、^④村人たちにとって、この映画でもっとも印象に残つたのが、このニワトリだつた。一方、監視員たちが伝えたかった映画の筋については、村人はまったく理解していなかつた。

〔6〕この話は、無文字社会の人びとが映画の内容を理解できないことを伝えていいるわけではない。人は、自分たちの文化的な文脈の中にあるものしか見えないのである。われわれが映画を見てストーリーを理解できるのは、そこに使われている約束事を学習して理解しているからだ。

〔7〕たとえば、ドラマの中で男性の笑つている顔が映り、つぎに女性が照れている顔が映つたら、われわれは説明されな
くとも、二人が同じ場所で見つめ合つてゐるとわかる。それはふだんからテレビや映画を通して、そういう映像の文法に慣れ親しんでいるからである。しかし、そうした約束事を知らなければ、男と女の関係を結びつけては考えられない。監視員たちが上映した映画の中に、村人がニワトリしか見えなかつたのは、唯一、ニワトリだけが村人の生活の文法で解釈できるものだつたからである。

〔8〕つまり「見る」には約束事が必要なのだ。これは人間も動物も同じである。動物行動学者のティンバーゲンは、セグロカモメのヒナは餌がほしいとき、親鳥のくちばしの先にある赤い点をつつくことを発見した。ヒナは親鳥をその全体の姿で認識しているのではなく、くちばし状の形とその先端にある赤い点として把握しているのである。それがヒナにとって、親を認識するために先天的にプログラムされた約束事である。この時期のヒナには、たとえ赤い印をつけた棒であつても親鳥に見えるのである。

〔9〕 どうしてセグロカモメのヒナは親を全体として見ないのか。それは逆のパターンを考えればわかる。視覚に入つてくるすべての情報を分析してから認識するとなつたら、とほうもない情報処理能力と時間が必要とされる。野生動物が、そんなことに時間をかけていては、自分の生存が危ぶまれる。そのため、いま生きるうえで必要な情報だけを取りだし、わかりやすくパターン化してイメージを作りあげているのである。

(注) 知覚……感覺器官が外界の物事をとらえ、見分ける働き。

銳敏……鋭いこと。

嗅覚……においを感じ取る働き。

いぶかしむ……不審に思う。

文脈……文章の展開のしかた。ここでは筋道、背景。

先天的に……生まれた時から。

(田中真知「美しいをさがす旅にでよう」より)

(1)

A

B にあてはまる

葉の組み合わせとし

て最も適當なも

記号で答えよ。

ウ	A ≡ なぜなら	ア	A ≡ なぜなら
A ≡ ところが	B ≡ やがて	B ≡ そして	B ≡ そして
エ	A ≡ たとえば	イ	A ≡ たとえば
A ≡ そして	B ≡ ところ	B ≡ なぜなら	B ≡ なぜなら

(2)

——線①「これ」が指すものと、「……ということ。」に続くように、文中から三十五字以上四十字以内で抜き出せ。

(3)

——線②「それぞれ……返つてくるはず」とあるが、筆者がこのように考える理由を文中から二十四字で抜き出せ。

(4)

——線③「こんな話」が書かれている段落はどこか。段落番号ですべて答えよ。



(5) — 線④「村人たちにとって、……ニワトリだった」とあるが、それは、村人たちにとってニワトリがどのようなものだからか。文中から二つ、十八字と十六字で抜き出して書け。

(6) — 線⑤「いま生きるうえで必要な情報」とあるが、セグロカモメのヒナにとっての「必要な情報」とは何か。文中の言葉を用いて書け。

(7) 答えよ。

- ア 「見る」とは、視覚に入ってくる情報をみんな認識することである。
- イ 文化や時代がちがっても、人間が見る風景にちがいはない。
- ウ 動物たちがすべての視覚情報を分析するのは、生きるためにある。
- エ 「見る」ために必要なのは、約束事を学習して理解することである。



第十一講・復習問題 《説明的文章》 説明文の弱点補強(2)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、あとの問題を解きなさい（一つ5点 計40点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

見ている世界は知覚の枠組みだけで決まるわけではない。感覚が鋭敏だからといって、かならずしも多くのものが知覚されているとはかぎらない。〔A〕、イヌの嗅覚は人間の数千倍とも数千万倍ともいわれる。これは匂いを嗅ぎわける細胞が、人の場合は約五〇〇万個なのに対しても、イヌは約二億五千万個もあるためである。しかし、イヌはその鋭い嗅覚でつねにあらゆる匂いを感じしているわけではない。関心のある匂いには集中するが、そうでない匂いは無視しているからである。これは人間も同じである。同じ視覚の構造を持つ人間であっても、文化や時代によって見える風景がちがうのは、どこに関心をおいてイメージをつくるかが異なるためである。中世のヨーロッパ人には自然が関心の対象でなかつた話はすでにじた。もっと身近な例でいえば、町を歩いている若い女の子たちは中年男性など見ていないし、若い男性は女の子ばかり見ていて、そのほかのものは目に入っていないかもしれない。別々の年齢の人たちが同じ町を同じ時間歩いて、なにを見てきたかと聞けば、それぞれまったくがう答えが返ってくるはずである。

マーシャル・マクルーハンは、こんな話を紹介している。

二〇世紀の前半、あるアフリカの村で、白人の衛生監視員たちが、村人たちに衛生の大切さを教える映画を見せた。上映後、監視員は、村人に「あなたたちは映画で何を見ましたか」とたずねた。監視員は「手を洗っているのを見ました」とか「服をきれいにしているのを見ました」といった反応を期待していたはずだ。〔B〕、村人から返ってきたのは「ニワトリを見ました」という答えだった。一人だけではなく、みな同じことをいった。

監視員たちはとまどつた。映画は衛生の大切さを説いたものであつて、ニワトリとは関係ない。そもそもニワトリが映画に出ているはずなどなかつた。いぶかしんだ監視員が注意深く映画を見なおすと、途中で、一瞬、画面の下をニワトリが横切る場面が見つかつた。撮影現場のそばにいたニワトリが偶然カメラに映りこんでいたのだつた。監視員たちは、このときまで、だれもそのことに気づいていなかつた。しかし、^①村人たちにとつて、この映画でもつとも印象に残つたのが、この二ワトリだつた。一方、監視員たちが伝えたかった映画の筋については、村人はまったく理解していなかつた。

この話は、無文字社会の人びとが映画の内容を理解できないことを伝えているわけではない。人は、自分たちの文化的な文脈の中にあるものしか見えないのである。われわれが映画を見てストーリーを理解できるのは、そこに使われている約束事を学習して理解しているからだ。

たとえば、ドラマの中で男性の笑つてゐる顔が映り、つぎに女性が照れている顔が映つたら、われわれは説明されなくても、二人が同じ場所で見つめ合つてゐるとわかる。それはふだんからテレビや映画を通して、そういう映像の文法に慣れ親しんでいるからである。しかし、こうした約束事を知らなければ、男と女の関係を結びつけては考えられない。監視員たちが上映した映画の中に、村人がニワトリしか見えなかつたのは、唯一、ニワトリだけが村人の生活の文法で解釈できるものだつたからである。

つまり「見る」には約束事が必要なのだ。これは人間も動物も同じである。動物行動学者のティンバーゲンは、セグロカモメのヒナは餌がほしいとき、親鳥のくちばしの先にある赤い点をつつくことを発見した。ヒナは親鳥をその全体の姿で認識しているのではなく、くちばし状の形とその先端にある赤い点として把握しているのである。それがヒナにとつて、親を認識するために先天的にプログラムされた約束事である。この時期のヒナには、たとえ赤い印をつけた棒であつても親鳥に見えるのである。

どうしてセグロカモメのヒナは親を全体として見ないのであるか。それは逆のパターンを考えればわかる。視覚に入つてくるす

べての情報を分析してから認識するとなつたら、とほうもない情報処理能力と時間が必要とされる。野生動物が、そんなことに時間をかけていては、自分の生存が危ぶまれる。そのため、いま生きるうえで必要な情報だけを取りだし、わかりやすくパターン化してイメージを作りあげているのである。

(田中真知「美しいをさがす旅にでよう」より)

(注) 知覚……感覚器官が外界の物事をとらえ、見分ける働き。

鋭敏……鋭いこと。

嗅覚……においを感じ取る働き。

いぶかしむ……不審に思う。

文脈……文章の展開のしかた。ここでは筋道、背景。

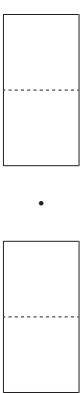
先天的に……生まれた時から。

問一 空欄A・Bにあてはまる言葉をひらがな四字でそれぞれ答えよ。

A

B

問二 ——線①「村人たちにとつて……ニワトリだつた」とあるが、それは、村人たちにとつてニワトリがどのようなものだからか。それを表す二字の熟語を、文中から二つ抜き出せ。



問三 — 線②「いま生きるうえで必要な情報」とあるが、セグロカモメのヒナにとつての「必要な情報」とは何か。次の文の空欄（甲）と（乙）に入る、最も適当な言葉を文中から抜き出せ。

親鳥のくちばしの先にある **(甲)** をつければ、**(乙)** がもらえるということ。

(甲)

(乙)

問四

筆者の主張を説明した次の文の空欄（甲）と（乙）に入る、最も適当な言葉を文中から抜き出して答えよ。

「**(甲)**」ために必要なのは、**(乙)** を学習して理解することである。

(甲)

(乙)

第十一講・確認テスト 《説明的文章》 説明文の弱点補強(2)

次の語句のカタカナ部分を漢字に直し、適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 犬のキュウ覚

- ①旧 ②吸 ③急 ④嗅

問二 視覚のコウ造

- ①講 ②溝 ③構 ④購

問三 エイ生の大切さ

- ①營 ②衛 ③英 ④榮

問四 カン視員

- ①監 ②艦 ③鑑 ④觀

問五 赤い点として把アク

- ①悪 ②飽 ③空 ④握

第十三講・《文学的文章》隨筆の読解ルール(1) 文意・構成をとらえる



随筆とは、筆者がおりにふれて感じたこと、考えたことを自由に書いたものである。だから決まった形式はなく、内容も様々である。

1 隨筆の文意をとらえる。

(1) 文章を書いたきっかけをつかむ。

① 時・所・出来事をつかむ。(小説の場合と同じように「いつ・どこで・どうした」をおさえる。)

② どんな体験や見聞が、文章を書く動機となっているかをつかむ。

(例題の文章では、小値賀島、おぢかじま 隠岐おき の中ノ島の二つの島を訪れて、そこで交わした「あいさつ」が、きっかけとなっている。)

(2) 体験や出来事について、筆者の感じたことを読み取る。

(3) 体験や出来事に対する、筆者の感想、意見を読み取り、中心になる考え方、訴えたいことをとらえる。

2 隨筆の構成をとらえる。

(1) 筆者の考え方や感想は、どのように表現されているかをとらえる。

① 体験・出来事をあげ、それに対する感想、意見を述べる。

② 具体例としてあげた体験、出来事の中に、心情として表す。

③ 最初に筆者の視点として提示し、それに適した体験例を示す。

3

筆者のものの見方や感じ方をとらえる。

文章に表現しようとした対象が、どのように表現されているかを読み取る。

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

五島列島の小値賀島ごとうれっとう おぢかじまへ行つたときのことである。小学校の前のみごとな松並木の道を歩いていたら、道の向こう側を連れだつてやつてきた二、三年生くらいの男の子と女の子がこちらに向かつて A あいさつをした。腰を折るおじぎをして、「ここにちは。」と口をそろえて言う。大きな明るい声だつた。一瞬、返事を返すのが遅れた。私に向かつてのあいさつであると分からなかつたのだ。だが、周りにほかの人はいなかつた。私はあわてて「ここにちは。」を返した。

小値賀島のあちらこちらで、そうだつた。見知らぬ旅行者の私に、ていねいなあいさつであつた。たばこを買いに立ちは寄つた小さな雑貨屋では、一個買つただけの私に、おばあさんが腰を折り両手をひざにそろえて、「ありがとうございます」と頭を下げた。このときも私は大あわてでおじぎを返したのだが、小値賀島にいる間じゅう、おばあさんのあいさつを思い出して気持ちがよかつたものである。あのおばあさんの温かい笑顔は今も目に残つている。

見知らぬものどうしがおおぜいの都會では、道で会う人みんなにあいさつをするわけにはいかないし、商店の人がいちいちていねいなあいさつをしていたら商売にならないだろう。だが、小さな島や山間の村などに行くと、あいさつというものがきちんと生きている。形だけが残つているというのではなくて、あいさつというものを見み出す生き方が伝えられているのである。

私は最近、一か月に一つか二つずつ、日本の島を歩いてきた。たいていは一日のうちに自分の足で歩きつくせる小さな島である。その多くの島で、私は、都會はないあいさつに出会つてきた。小値賀島は最初に行つた島だったのであいさつをされてとまどつたのだが、そのうち、島ではみんながあいさつを交わすのがあたりまえという気持ちになつて、どの島でも道で人に会つたら私からまずあいさつをするのが習慣になつた。ついでに立ち話をして島のことを教えてもらつたことも数

多い。

こんなあいさつもあった。隠岐の中ノ島でのことである。

私は前日まで隣の知夫里島にいて、農耕や牧畜用のわずかな車のほかにはほとんど自動車を必要としない知夫里島のゆつたりした暮らしにすっかり魅せられていたのだが、後鳥羽院の住んだ島にもついでに寄つてみたいと思つて中ノ島にやつてきて、初めはちょっとがっかりしたのだった。知夫里島よりはかなり大きい中ノ島はすでに自動車社会になつていて、知夫里島で見たような人と自然が豊かに交わる生き方はずつと少なくなつていて見えた。

だが、隠岐神社への道をてくてく歩いていたときのこと、道ばたに女子中学生が一人立ち止まって道を渡ろうとしていると、そこへ走ってきた小型トラックが、横断歩道の印も何もない所だが少女たちの手前に停車して、道を渡らせた。私は、ああいいな、と見ていたのだが、その後でもつとびっくりした。道を渡り終えた少女たちが、くるりと向き直ると、トラックの運転手に向かつて深いおじぎをして、「ありがとうございました。」と声をそろえたのだ。運転手はたぶんそのあいさつを予想していたのだろう。無事に渡り終えるのを見守り、向き直つてのあいさつに手を振つてから、ゆっくり車を発進させていった。

自動車社会になつても、今のところはまだ、島の生き方が伝えられて、運転手と少女たちのあいさつとなつていているのだろう。自動車社会でのあいさつがそんな形で生まれているのだった。

こういうものこそが、文化の伝承であろう。その底には、生き方の伝承があるはずだ。人がどう生きるのがいいかという生き方が伝えられ、そこからあいさつも生まれてくる。B さえ伝えられているならば、自動車という新しい暮らしの道具が入つてきたときにも、それに見合つたあいさつの仕方がおのずとつくられるということだろう。

(高田 宏「島で見たことから」より)

(注) 五島列島……長崎県、長崎市の北西海上にある約二百の島。

隱岐……現在の島根県の隱岐諸島。

後鳥羽院……承久の乱で隱岐に流された第八十二代天皇の退位後の呼び名。

(1) この文章は「起承転結」に分かれている。「転」の部分の最初の五字を書け。

(2) □A・□Bにあてはまる言葉を文中からそれぞれ抜き出し、Aは五字、Bは三字で書け。

A

(3) —線「見合った」とあるが、「見合う」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 互いに見る イ 受けつがれる
ウ つり合う エ かさねる

(4) この文章では何が述べられているか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 自動車社会 イ 文化の伝承

- ウ あいさつの仕方

第十三講・復習問題 《文学的文章》隨筆の読解ルール(1)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、あとの問題を解きなさい（一つ5点 計20点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

① 五島列島の小値賀島へ行つたときのことである。小学校の前のみごとな松並木の道を歩いていたら、道の向こう側を連れだつてやつてきた二、三年生くらいの男の子と女の子がこちらに向かつて A あいさつをした。腰を折るおじぎをして、「こんにちは。」と口をそろえて言う。大きな明るい声だつた。一瞬、返事を返すのが遅れた。私に向かつてのあいさつであると分からなかつたのだ。だが、周りにほかの人はいなかつた。私はあわてて「こんにちは。」を返した。

② 小値賀島のあちらこちらで、そうだつた。見知らぬ旅行者の私に、ていねいなあいさつであつた。たばこを買いに立ち寄つた小さな雑貨屋では、一個買つただけの私に、おばあさんが腰を折り両手をひざにそろえて、「ありがとうございます」と頭を下げた。このときも私は大あわてでおじぎを返したのだが、小値賀島にいる間じゅう、おばあさんのあいさつを思い出して気持ちがよかつたものである。あのおばあさんの温かい笑顔は今も目に残つている。

③ 見知らぬものどうしがおおぜいの都会では、道で会う人みんなにあいさつをするわけにはいかないし、商店の人があいちていねいなあいさつをしていたら商売にならないだろう。だが、小さな島や山間の村などに行くと、あいさつというものがきちんと生きている。形だけが残つているというのではなくて、あいさつというものを自然に生み出す生き方が伝えられているのである。

④ 私は最近、一か月に一つか二つずつ、日本の島を歩いてきた。たいていは一日のうちに自分の足で歩きつくせる小さな島である。その多くの島で、私は、都會にはないあいさつに出会つてきた。小値賀島は最初に行つた島だったのであいさつ

をされてとまどつたのだが、そのうち、島ではみんながあいさつを交わすのがあたりまえという気持ちになつて、どの島でも道で人に会つたら私からまずあいさつをするのが習慣になつた。ついでに立ち話をして島のことを教えてもらつたことも数多い。

⑤ こんなあいさつもあつた。隠岐の中ノ島でのことである。

⑥ 私は前日まで隣の知夫里島にいて、農耕や牧畜用のわずかな車のほかにはほとんど自動車を必要としない知夫里島のゆつたりした暮らしにすっかり魅せられていたのだが、後鳥羽院の住んだ島にもついでに寄つてみたいと思つて中ノ島にやつてきて、初めはちょっとがつかりしたのだった。知夫里島よりはかなり大きい中ノ島はすでに自動車社会になつていて、知夫里島で見たような人と自然が豊かに交わる生き方はずつと少なくなつていて見えた。

⑦ だが、隠岐神社への道をてくてく歩いていたときのこと、道ばたに女子中学生が一人立ち止まって道を渡ろうとしている。そこへ走ってきた小型トラックが、横断歩道の印も何もない所だが少女たちの手前に停車して、道を渡らせた。私は、ああいいな、と見ていたのだが、その後でもっとびっくりした。道を渡り終えた少女たちが、くるりと向き直ると、トラックの運転手に向かつて深いおじぎをして、「ありがとうございました。」と声をそろえたのだ。運転手はたぶんそのあいさつを予想していたのだろう。無事に渡り終えるのを見守り、向き直つてのあいさつに手を振つてから、ゆっくり車を発進させていった。

⑧ 自動車社会になつても、今のところはまだ、島の生き方が伝えられて、運転手と少女たちのあいさつとなつてているのだろう。自動車社会でのあいさつがそんな形で生まれているのだつた。

⑨ こういうものこそが、文化の伝承であろう。その底には、生き方の伝承があるはずだ。人がどう生きるのがいいかという生き方が伝えられ、そこからあいさつも生まれてくる。〔B〕さえ伝えられているならば、自動車という新しい暮らしの道具が入つてきたときにも、それに見合つたあいさつの仕方がおのずとつくられるということだろう。

(注) 五島列島……長崎県、長崎市の北西海上にある約二百の島。

隱岐……現在の島根県の隱岐諸島。

後鳥羽院……承久の乱で隱岐に流された第八十二代天皇の退位後の呼び名。

(高田 宏「島で見たことから」より)

問一

この文章は形式段落としては九段落で構成されているが、意味段落としては四段落に分かれている。形式段落の番号を用い、意味段落の四段落に分けよ。

・

・

・

問二 空欄A・Bにあてはまる言葉を文中からそれぞれ抜き出し、Aは五字、Bは三字で書け。

問三

この文章で述べられているテーマは何か。五字以内の語句で答えよ。

第十三講・確認テスト 《文学的文章》 隨筆の読解ルール(1)

次の語句のカタカナ部分を漢字に直し、適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 小さな雜力屋

- ①荷 ②菓 ③家 ④貨

問二 あいさつをするのがシユウ慣になつた

- ①習 ②集 ③周 ④衆

問三 農耕や牧チク用

- ①蓄 ②畜 ③逐 ④築

問四 すっかりミせられていた

- ①見 ②觀 ③魅 ④視

問五 文化的伝シヨウ

- ①承 ②称 ③涉 ④章

第十四講・《文学的文章》隨筆の読解ルール(2) 表現・主題をとらえる



1 表現を味わう。

(1) 文体・表現の特徴をつかむ。

(2) ユニークな表現を味わう。

隨筆は個性あふれる文章である。筆者の独特的な表現を味わう。

(3) 比喩に注意する。

隨筆の表現技法では、特に比喩に注意する。そこに筆者の感じ方が表れている。

2 主題をとらえる。

意見、感想から筆者のものの見方や感じ方をとらえ、主題に迫る。

(1) 事実と意見・感想とを区別する。

隨筆は、筆者が経験したり見聞したりしたこと（事実）に対する筆者の意見・感想に主眼が置かれる。

筆者のものの見方をとらえる。

筆者の意見・感想にあたる部分から、独特なものとの見方や感じ方を読み取る。

(3) 主題をとらえる。

- (1) 文学的な隨筆……感情や情緒を表した内容になつてるので、文章の裏に隠されている主題をつかむ必要がある。
- (2) 思索的な隨筆……論説文や評論文のように中心文や中心段落をとらえて、主題を導き出す。
- (4) とりあげる中心テーマから、主題をまとめる。

3

隨筆の種類

- (4) 文学的な味わいのあるもの
- (3) 感想・批評などをまとめたもの
- (2) 科学的な内容を持つたもの
- (1) 日記・紀行文のようなもの

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

四十川で漁をして暮らしているおじさんに話を聞いた。^①舟の上で、日本最後といわれる清流に浮かびながら。

「柴づけ漁」というその漁法は、実に素朴なものである。柴を束ねたものを川に沈め、一週間から十日たつたところで引き上げる。すると、そこに住みついた川エビやウナギが捕れるという仕組みだ。「住む」というのが^②みそで、だから囲いをしなくとも逃げられることはない。時間と共に獲物が増えてゆくことはあっても、決して減りはしない。

柴は、おじさんが山で刈つてくるという。「だから、半分は山の仕事」だそうだ。川エビとウナギでは住まいの好みが違うらしく、ウナギの方は葉っぱを多くしてやらないとダメ、とのこと。そのあたりは、長年の経験がものをいう。

目の前でわたしのために、ウナギをさばいてくれた。自然に川に生息しているウナギは、とてもスマートだ。まず、きりのようなもので首の辺りをトンと突いて、まな板の上に固定する。すうっと背中から包丁を入れ、開く。肝を取つて骨を取つてでき上がり。三等分にしたものと、その場でかば焼きにしてもらった。舟の上に、ちゃんとこんろが積んであるのだ。わたしはふだん、魚をさばくときには、なんとなく背中の辺りがすうすうしてしまう。生け作りの魚の目玉なども気になつてしまふ方である。

が、おじさんがウナギをさばいてゆく一部始終を見ていて、そんな感じは全くなかった。むしろ「美しいな」と思った。本当においしくいただいた。

「ただ、ちよつとかわいそうな気もしますね……。」わたしがそう言つた時、ぴつと一瞬、おじさんの顔がこわばつた。

「それは仕方のないことじやろ。人間に食べられるのが、こいつらの運命よ。」

終始なごやかな笑顔で話してくれていたので、厳しい表情が、逆に鮮やかに印象に残っている。まこと安易に言つてしまつた。

また「かわいそう」を、後悔した。ふだん、自分が魚をさばいたり、生け作りの目玉を見たりして思う「気持ち悪い」という感覚も、⁽³⁾同じ安易さからきているのではないかと思つた。

おじさんにさばかれるウナギは、ちつとも気持ち悪くない。その違いは何だろう。

その違いは、魚とのつながり方ではないかと思う。同じ自然の中で生きているものとして、おじさんと魚はつながっている。都市で生活しているわたしたちは、自然から離れた位置にあって、魚とかかわりを持つ。だからとも簡単に「かわいそう」と言えるし、無責任に「気持ち悪い」と感じてしまう。

おじさんは漁をしながら、魚たちにどんな気持ちを抱いているのだろう。「かわいそう」ではなくて……。
ごちそうさま、と言いながらさりげなくきいてみた。しばらくの沈黙の後に返ってきた答えは、「ありがとう」だった。

(俵 万智 「四万十川のウナギ」より)

(1) — 線①「舟の上で」が直接かかる部分はどこか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 浮かびながら イ 話を聞いた
ウ 漁をして エ 暮らしている

(2) (1)のような表現技法を何というか。漢字二字で答えよ。



法



(3) — 線②「みそ」とあるが、これと同じ意味で用いられているものとして最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- ア 手前みそ
ウ その考えがみそだ
イ 脳みそ
エ みそをつける

(4) 第四段落の表現上の特色的説明として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- ア 外来語や擬人法を用いたリズミカルな文章。
イ 反復法や倒置法を用いたはぎれのよい文章。
ウ 擬音（声）語や擬態語を用いた平易な文章。
エ 対句や比喩を用いた簡潔な文章。

(5) — 線③「同じ安易さ」とあるが、そのような「安易さ」がなぜ生まれてくると筆者は考えているか。最も適当な一文を抜き出し、最初の五字を書け。



(6)

——線④「ありがとう」にこめられたおじさんの気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 四十万川が、豊かな獲物を自分にもたらしてくれていることに対する感謝の気持ち。
- イ 筆者が、魚と自分とのつながりを認めてくれていていることに対する感謝の気持ち。
- ウ 美しい自然が、人間的なふれあいを深めてくれてていることに対する感謝の気持ち。
- エ 魚が、その命によって自分を生かしてくれていることに対する感謝の気持ち。



第十四講・復習問題『文学的文章』隨筆の読解ルール(2)

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ5点 計30点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

四万十川で漁をして暮らしているおじさんに話を聞いた。^①舟の上で、日本最後といわれる清流に浮かびながら。

「柴づけ漁」というその漁法は、実に素朴なものである。柴を束ねたものを川に沈め、一週間から十日たつたところで引き上げる。すると、そこに住みついた川エビやウナギが捕れるという仕組みだ。「住む」というのがみそで、だから囲いをしなくとも逃げられることはない。時間と共に獲物が増えてゆくことはあっても、決して減りはしない。

柴は、おじさんが山で刈つてくるという。「だから、半分は山の仕事」だそうだ。川エビとウナギでは住まいの好みが違うらしく、ウナギの方は葉っぱを多くしてやらないとだめ、とのこと。そのあたりは、長年の経験がものをいう。

目の前でわたしのために、ウナギをさばいてくれた。自然に川に生息しているウナギは、とてもスマートだ。まず、きりのようなもので首の辺りをトンと突いて、まな板の上に固定する。すうっと背中から包丁を入れ、開く。肝を取りて骨を取つてでき上がり。三等分にしたものを、その場でかば焼きにしてもらった。舟の上に、ちゃんとこんろが積んであるのだ。わたしはふだん、魚をさばくときには、なんとなく背中の辺りがすうすうしてしまう。生け作りの魚の目玉なども気になってしまう方である。

が、おじさんがウナギをさばいてゆく一部始終を見ていて、そんな感じは全くなかった。むしろ「美しいな」と思った。本当においしくいただいた。

「ただ、ちょっとかわいそうな気もしますね……。」わたしがそう言つた時、ぴつと一瞬、おじさんの顔がこわばつた。

「それは仕方のないことじやろ。人間に食べられるのが、こいつらの運命よ。」

終始なごやかな笑顔で話してくれていたので、厳しい表情が、逆に鮮やかに印象に残っている。まこと安易に言つてしまつた「かわいそう」を、後悔した。こうかいふだん、自分が魚をさばいたり、生け作りの目玉を見たりして思う「気持ち悪い」という感覺も、同じ安易さからきているのではないかと思つた。

おじさんにさばかれるウナギは、ちつとも気持ち悪い。その違いは何だろう。

その違いは、魚とのつながり方ではないかと思う。同じ自然の中で生きているものとして、おじさんと魚はつながつてゐる。都市で生活しているわたしたちは、自然から離れた位置にあって、魚とかわりを持つ。だからとも簡単に「かわいそう」と言えるし、無責任に「気持ち悪い」と感じてしまう。

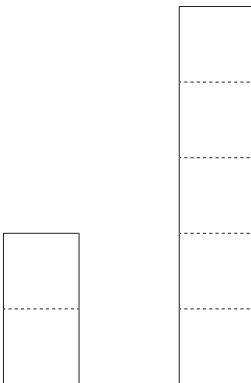
おじさんは漁をしながら、魚たちにどんな気持ちを抱いているのだろう。「かわいそう」ではなくて……。

ごちそうさま、と言いながらさりげなくきいてみた。しばらくの沈黙の後に返ってきた答えは、「ありがとう」だった。

(俵 万智たわら まち「四十万川のウナギ」より)

問一 線①「舟の上で」が直接かかる部分はどこか。五字の語句を文中から抜き出せ。

問二 本文の一行目で用いられている修辞技法を何というか。漢字二字で答えよ。



問三 第四段落で用いられている表現上の特色を、二つ答えよ。（いずれも漢字三字）

問四 ——線②「自然の中で生きている」とあるが、対比的な表現を文中から十字以内の言葉で抜き出せ。

問五 次の文は、本文の内容について説明したものである。空欄に入る適当な言葉を、二字の熟語で答えよ。

魚が、その命によつて自分を生かしてくれてることに対する□の気持ち。

第十四講・確認テスト 《文学的文章》 隨筆の読解ルール(2)

次の語句のカタカナ部分を漢字に直し、適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 日本最後といわるセイ流 ①静 ②勢 ③清 ④聖

問二 実にソ朴なもの

- | |
|----|
| ①素 |
| ②祖 |
| ③粗 |
| ④疎 |

問三 工物が増えていくこと

- | |
|----|
| ①餉 |
| ②穫 |
| ③獲 |
| ④得 |

問四 長年の経ケン

- | |
|----|
| ①僕 |
| ②驗 |
| ③険 |
| ④檢 |

問五 同じ安イさ

- | |
|----|
| ①易 |
| ②委 |
| ③為 |
| ④夷 |

例題

第十五講・《文学的文章》隨筆の弱点補強 構成・表現を読み取る問題？



次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

豆腐は偉い。形が残ろうと、つぶされようと、^{(1)へんげん}変幻自在に豆腐としての存在を主張している。しかも、過度な自己主張はないで、どんな味にも染まるが、決して自分の味を失うことはない。甘かったりしょっぱかったりする味付けに従うとみせながら、その実したたかに自己主張している。

色にしても同じことだ。豆腐は白いので、どんな色にも染まるのだが、もともと白いのだという観念を絶対に捨てない。形にしろ、どんな容器にも入って固まる。冷たくしても、熱くしても、何の変化もない。料理の相手も選ばない。野菜でも魚でも肉でもきちんと相手をしてみせ、自分はわきに控えながらも、本来備わった品位を毅然と保っている。どんなことをしても、豆腐は自己を失うことはない。ほんとうに豆腐は偉いものだ。私は豆腐が好きなのである。

私の近所には、幸いよい豆腐店がある。が、看板は出ていない。

「もう年をとつたし、量産できないのだから、昔から買ってくれる人だけが買つてくれればいい。おおぜいの人が買ひに来てくれたって、売るものがないから。」

豆腐店の主人はこう言うのである。看板を出すか出さないかで、この奥ゆかしさだ。

今の場所に、私の妻の一家は戦後間もなく住みついたのだが、そのころからすでに豆腐店の主人は桶を二つてんびん棒でかついで、近所に売り歩いていたという。量販店ができる以前、豆腐店は近所と結びついていた。作った人の顔がわかるので、食べるほうとしても安心なのである。

豆腐を食べたくなると、私は自分で買いに行く。豆腐店の夫婦は元気だ。店はステンレスの道具もコンクリートの床も、磨き上げられていて清潔この上ない。「できたばかりでまだ温かいから、家に着いたらすぐ、氷水をたっぷり入れたボウルに沈めて、冷蔵庫に入れるんだよ。」

主人は嫁^{とつ}娘を送り出すような口調で言いながら、ていねいに豆腐を包んでくれるのである。

「今日は出来がちょっと悪いんだ。すぐに水につけてね。」

そう言って大きく切ってくれることもある。毎日、出来不出来がある。油揚げは、今日は焦げたから売らない、と言われることもある。いなりずしにするなら売らないけど、そうでなければ安くしておく、と言われる日もある。豆腐も油揚げも、よくできた日は主人の笑顔を見ているだけでわかる。

「ニガリをうつときは、ほんとうに真剣よ。^{やわ}軟らかくてこしのある豆腐を作りたいものね。一時間に千丁も作る豆腐屋があるのに、うちは三時間半も四時間もかかる。それを子供が見ているからね。後を継がないって。私たちで終わりですよ。知っている人は、三代も食べててくれるけれども。」

ある日、豆腐を買いに行つた私に、奥さんはこう話してくれた。^②主人はステンレスの機械を黙々と磨いていた。

(立松和平 「象に乗つて」より)

(注) ニガリ……豆腐を作るときに用いる液。

(1) ——線①「变幻自在に」とあるが、「变幻自在」とはどのような意味か。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- ア 幻想から覺め自分を取り戻すこと。
 イ どんな場合にも形を変えないこと。
 ウ 考えが次々変わり定まらないこと。
 エ 思いのままに姿を変えてゆくこと。

(2) 豆腐に対する主人の心配りのこまやかさが表現されている比喩の部分を、文中から十二字以内でそのまま抜き出せ。

(3) ——線②「主人はステンレスの機械を黙々と磨いていた」とあるが、この主人の心情を説明したものとして最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- ア いつしうけんめい豆腐を作つても量販店に押され、子供も後を継がないのでむなしく思つてゐる。
 イ 後を継ぐものはないが、自分の豆腐を買いに来るためにおいしい豆腐を作り続けたいと思つてゐる。
 ウ 職人かたぎの自分を理解してくれるが、ときおり愚痴ぐちをこぼす妻の態度を苦々しく思つてゐる。
 エ 長年働いてくれた機械に深い愛情を感じながらも、新しい機械の導入に踏み切りたいと思つてゐる。

第十五講・復習問題 《文学的文章》隨筆の弱点補強

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ10点 計30点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

豆腐は偉い。形が残ろうと、つぶされようと、□に豆腐としての存在を主張している。しかも、過度な自己主張はなくて、どんな味にも染まるが、決して自分の味を失うことはない。甘かったりしょっぱかったりする味付けに従うとみせながら、その実したたかに自己主張している。

色にしても同じことだ。豆腐は白いので、どんな色にも染まるのだが、もともと白いのだという観念を絶対に捨てない。形にしろ、どんな容器にも入って固まる。冷たくしても、熱くしても、何の変化もない。料理の相手も選ばない。野菜でも魚でも肉でもきちんと相手をしてみせ、自分はわきに控えながらも、本来備わった品位を毅然と保っている。どんなことをしても、豆腐は自己を失うことはない。ほんとうに豆腐は偉いものだ。私は豆腐が好きなのである。

私の近所には、幸いよい豆腐店がある。が、看板は出ていない。

「もう年をとつたし、量産できないのだから、昔から買ってくれる人だけが買つてくれればいい。おおぜいの人が買ひに来てくれたって、売るものがないから。」

豆腐店の主人はこう言うのである。看板を出すか出さないかで、この奥ゆかしさだ。

今の場所に、私の妻の一家は戦後間もなく住みついたのだが、そのころからすでに豆腐店の主人は桶おけを二つてんびん棒でかけて、近所に売り歩いていたという。量販店ができる以前、豆腐店は近所と結びついていた。作った人の顔がわかるので、食べるほうとしても安心なのである。

豆腐を食べたくなると、私は自分で買いに行く。豆腐店の夫婦は元気だ。店はステンレスの道具もコンクリートの床も、磨き上げられていて清潔この上ない。「できたばかりでまだ温かいから、家に着いたらすぐ、氷水をたっぷり入れたボウルに沈めて、冷蔵庫に入れるんだよ。」

主人は嫁よつ娘むすめを送り出すような口調で言いながら、ていねいに豆腐を包んでくれるのである。

「今日は出来がちょっと悪いんだ。すぐに水につけてね。」

そう言って大きく切ってくれることもある。毎日、出来不出来がある。油揚げは、今日は焦げたから売らない、と言われることもある。いなりずしにするなら売らないけど、そうでなければ安くしておく、と言われる日もある。豆腐も油揚げも、よくできた日は主人の笑顔を見ているだけでわかる。

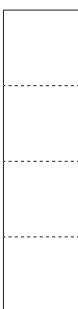
「二ガリをうつときは、ほんとうに真剣よ。軟やわらかくてこしのある豆腐を作りたいものね。一時間に千丁も作る豆腐屋やわがあるのに、うちは三時間半も四時間もかかる。それを子供が見ているからね。後を継がないって。私たちで終わりですよ。知っている人は、三代も食べててくれるけれども。」

ある日、豆腐を買ひに行つた私に、奥さんはこう話してくれた。主人はステンレスの機械を黙々と磨いていた。

(立松和平たつまつわへい 「象に乗つて」より)

(注) 二ガリ……豆腐を作るときに用いる液。

問一 本文中の空欄に入る、「思いのままに姿を変えていく」という意味の最も適当な四字熟語を答えよ。



問一 豆腐に対する主人の心配りのこまやかさが表現されている比喩の部分を、文中から十二字以内でそのまま抜き出せ。

問三 一線「主人はステンレスの機械を黙々と磨いていた」とあるが、この主人の心情を考えると、誰のためにこのよう

なことをしていると考えられるか。「……のため」に続くかたちで、十五字以内で答えよ。



のため



第十五講・確認テスト 『文学的文章』 隨筆の弱点補強

次の語句のカタカナ部分を漢字に直し、適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 豆フは偉い

- ①腑 ②附 ③腐 ④符

問二 ヘン幻自在

- ①偏 ②返 ③編 ④変

問三 リヨウ販店ができる以前

- ①良 ②料 ③量 ④両

問四 清ケツこの上ない

- ①欠 ②潔 ③決 ④結

問五 ほんとうにシン剣よ

- ①真 ②新 ③信 ④心

第十六講・《韻文》詩の読み解きルール 構成・情景・修辞技法をとらえる？



① 詩の表現技法をとらえる。

詩の表現では、作者の気持ちを何かに託したり、何かにたどりたりすることが多く、様々な表現技法を用いる。

(1) **比喩** ある物事をほかの物事にたとえて表現する。

・直喻 「のようだ」「みたいだ」の形で、ストレートにたとえる技法。

・隠喻 「のようだ」を用いずにたとえる技法。

・擬人法 人間でないものを人間にたとえる技法。

・倒置法 言葉の順序を逆にすることで印象を強める。

・反復法 同じ言葉を繰り返し、感動や印象を強める。

・対句法 対となる語を並べ、印象を強める。

・体言止め 行の終わりを名詞で止め、余情をもたせる。

・呼びかけ 呼びかけるような表現。親しみをもたせる。

② 主題のとらえ方

(1) 行と行、連と連の間の変化から心情をとらえる。

言葉の生きた使い方を知る。

表現上、歴史的仮名遣いや、擬声（音）語・擬態語などが効果的に用いられることがある。

詩の最初か最後の言葉に注意する。

(4)

- 詩の主題は、(3)のほかに次のような部分に着目してとらえる。
- 繰り返し言われている部分。
- 表現技法が使われている部分。

例題

次の詩を読んで、あととの間に答へなさい。

くらし

食わずには生きてゆけない。

メシを

野菜を

肉を

空気を

光を

水を

親を

きょうだいを

師を

金もこころも

生きてこれなかつた。

ふくれた腹をかかえ

口をぬぐえば

台所に散らばっている
にんじんのしつぼ

鳥の骨

父のはらわた

四十の日暮れ

私の目にはじめてあふれる獸の涙。

(いしがき
石垣りん「表札など」より)

A

20

15

(1) この詩の表現上の特色として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 七音と五音が繰り返されている。

イ 同音の語を繰り返しリズムを持たせている。

ウ 擬声語・擬態語が用いられている。

エ 易しい言葉で呼びかけるように作られている。

(2) この詩のⒶの部分に見られる表現技法を次のの中から選び、記号で答えよ。

ア 擬人法 イ 比喩

ウ 倒置法 エ 体言止め



(3) □にあてはまる最も適当な言葉を詩の中から五字で抜き出せ。

(4) この詩で、作者の心情の高まりが最もはつきりと表れている一行はどれか。詩の中からそのまま抜き出せ。

(5) この詩の説明として最も適當なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 不快な現実を避けて、自分の幸福な人生を追い求めている。

イ 周りのものや人を犠牲にして生きている自分を見つめている。

ウ 生活力がなくて、家族に貧乏をさせている自分を悲しんでいる。

エ つらく悲しいことばかりなので、自分の人生を嘆いている。



第十六講・復習問題《韻文》詩の読み解ルール

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、あとの問題を解きなさい（一つ5点 計25点満点）

次の詩を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

くらし

食わずには生きてゆけない。

メシを

野菜を

肉を

空気を

光を

水を

親を

きょうだいを

師を

金もこころも
食わずには生きてこれなかつた。

ふくれた腹をかかえ
口をぬぐえば

台所に散らばっている
にんじんのしつぽ

鳥の骨

父のはらわた

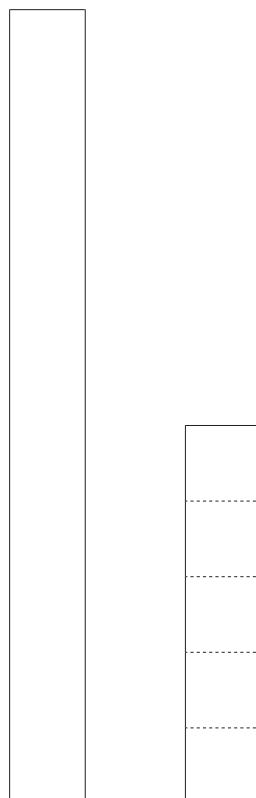
四十の日暮れ

私の目にはじめてあふれる獸の涙。

(石垣りん「表札など」より)

問一 この詩の表現上の特色を五字以内の語句で答えよ。

問一 この詩の表現上の特色を五字以内の語句で答えよ。



20

15

問三 この詩で、作者の心情の高まりが最もはつきりと表れている一行はどれか。詩の中からそのまま抜き出せ。

問四

次の文は、本文の内容について説明したものである。空欄（甲）（乙）に入る適当な言葉を、二字の熟語で答えよ。

周りのものや人を〔（甲）〕にして生きている〔（乙）〕を見つめている。



第十六講・確認テスト《韻文》詩の読解ルール

次の語句のカタカナ部分を漢字に直し、適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 ギ人法 ①偽 ②擬 ③疑 ④欺

問二 比ユ ①癒 ②愉 ③諭 ④喻

問三 トウ置法 ①倒 ②頭 ③投 ④答

問四 タイ言止め ①体 ②対 ③態 ④帶

問五 反ブク法 ①副 ②複 ③腹 ④復

第十七講・《韻文》短歌の読み解きルール かたちと修辞技法をとらえる



(1) 短歌の表現形式とリズムをとらえる。

表現形式

① 短歌の基本的な形式は、五・七・五・七・七の五句三十一音である。

(注) 破調：三十一音より多いものを「字余り」、少ないものを「字足らず」という。

② 句切れ：意味や調子のうえで、句が切れる事。この句切れをつかむことにより、短歌の意味や作者の感動をとらえることができる。

- ・初句切れ 五／七・五・七・七
- ・二句切れ 五・七／五・七・七
- ・三句切れ 五・七・五／七・七
- ・四句切れ 五・七・五・七／七
- ・句切れなし 切れめのないもの

リズム（歌調）

- ・五七調……二句切れ・四句切れの歌。力強く重々しい感じがする。
- ・七五調……初句切れ・三句切れの歌。優しくなめらかな感じがする。

(2)

表現技法

短歌の表現技法を理解する。

- ・**比喩**……あるものにたとえて印象を強める。

- ・**倒置法**……言葉の順序を逆にし、意味・感動を強める。

- ・**反復法**……同じ言葉や内容を並べて強調する。

- ・**体言止め**……結句を体言（名詞）で終え、調子をととのえたり、余韻を残す。

- ・**枕詞**……特定の言葉にかかり、調子をととのえる。

*たらちねの母あおがやがつりたる青蚊帳あおがやをすがしといねつたるみたれども

長塚節ながつかなかし

(3)

情景・心情をとらえる。

- ① 季節・時・場所を具体的に表した語をつかむ。
- ② 表現技法などで強調された部分に着目し、作者の感動の中心をとらえる。

例題

1 次の短歌を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

A みちのくの母のいのちを一目見んひとめ一目みんとぞただにいそげる
B ふるさとの尾鈴をすずの山のかなしさよ秋もかすみのたなびきて居りを
C 連結をはなれし貨車がやすやすと走りつつ行く線路の上を

D ゆく秋の大和やまとの国の薬師寺やくしじの塔の上なる一ひらの雲
E 瓶かめにさす藤ふぢの花ぶさみじかければたたみの上にとどかざりけり

(1) 次の①～④にあってはまる歌を、それぞれA～Eから選び、記号で答えよ。

① 「三句切れ」になつている歌

② 「字余り」になつてている歌

③ 「体言止め」になつてている歌

④ 「倒置法」が使われている歌

①

②

③

④

(2) Aの歌の——線部に使われている表現技法を次のの中から選び、記号で答えよ。

ア 比喩 イ 摳人法
ウ 反復法 エ 枕詞

斎藤茂吉さいとう もきち
若山牧水わかやまぼくすい
佐藤佐太郎さとう さたろう
佐佐木信綱ささき のぶつな
正岡子規まさおか こき

(3)

E の歌の説明として最も適当なものを次の 中から選び、記号で答えよ。

- ア 作者の心情や行動に直接触れず、見たままを写実的に表現している。
 イ 童心に返った喜びの心情が、率直に表現されている。
 ウ 季節の移り変わりをとらえ、躍動的に表現している。

[2]

次の短歌を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

- A 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれぬる
 見渡せば花ももみぢもなかりけり浦の苦屋の秋の夕暮れ
- B 金色の小さき鳥の形して銀杏^{いんとう}ちるなり夕日の岡に
- C おり立ちてけさの寒さを驚きぬ露^{つゆ}しとしと柿の落ち葉深く
 ふるさとの訛^{なまり}なつかし
- D 停車場の人ごみの中に
- E そを聴きにゆく

石川啄木
いしかわたくばく

伊藤左千夫
いとう さちお
 与謝野晶子
よしさの あきこ
 藤原定家
ふじわらの さだいえ
 藤原敏行
ふじわらの としゆき



(1) Aの歌の季節として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア 晩秋 イ 初春
ウ 初冬 エ 初秋

(2) Bの歌にはどのような表現技法が使われているか。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア 倒置法 イ 体言止め
ウ 比喻^{ひゆ} エ 擬人法

(3) Cの歌の「金色の小さき鳥の形」とは何を表しているか。歌の中から抜き出せ。

- (4) Dの歌はどのような情景を詠んだものか。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。
- ア たくましい情熱とともになった決意が、目の前の風景を通して、ありありと感じられる。
イ 動的なものと静的なものとの対比によって、さわやかさと解放感を感じさせる。
ウ 上の句でまず実感を率直に述べ、続いて移り行く季節に対する感動を表現している。
エ のびやかに大きく歌い出し、対象を厳しくとらえて、心の緊張と不安感を描いている。

(5) Dの歌の中で字余りになつてているところは第何句か。次の中から選び、記号で答えよ。

ア 初句 イ 二句
ウ 四句 エ 結句

(6)

Eの歌に——線「そを聴きにゆく」とあるが、作者は何を聴きにいくのか。歌の中から六字で抜き出せ。



第十七講・復習問題《韻文》短歌の読み解きルール

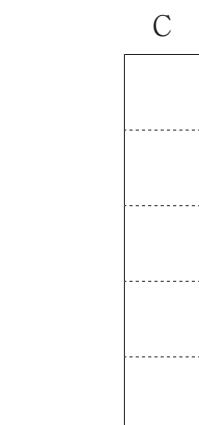
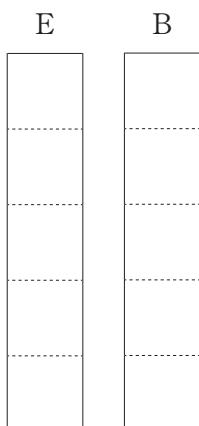
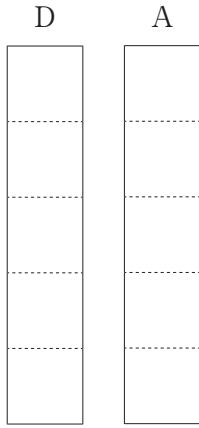
授業で使用したテキストをしっかりと見直して、あとの問題を解きなさい（一つ5点 計25点満点）

次の短歌を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

問

- A みちのくの母のいのちを一目見ん一目みんとぞただにいそげる
 B ふるさとの尾鈴をすずの山のかなしさよ秋もかすみのたなびきて居り
 C 連結をはなれし貨車物車がやすやすと走りつつ行く線路の上を
 D ゆく秋の大和やまとの國の薬師寺やくしじの塔の上なる一ひらの雲
 E 瓶かめにさす藤ふぢの花ぶさみじかければたたみの上にとどかざりけり

A～Eの短歌の特徴を、五字以内の語句でそれぞれ答えよ。



斎藤茂吉さいとうもきち
 若山牧水わかやまほくすい
 佐藤佐太郎さとうさたろう
 佐佐木信綱ささおがしき
 正岡子規まさおかしき

第十七講・確認テスト《韻文》短歌の読解ルール

次の語句のカタカナ部分を漢字に直し、適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 ドウ心に返った喜び ①動 ②同 ③憧 ④童

問二 ヤク動的に表現している ①益 ②約 ③曜 ④躍

問三 テイ車場の人々 ①低 ②定 ③亭 ④停

問四 実感をソツ直に述べる ①卒 ②率 ③即 ④速

問五 心のキン張と不安感 ①禁 ②筋 ③緊 ④均

第十八講・《韻文》俳句の読み解きルール　季語と切れ字をとらえる



俳句：五・七・五の十七音から成り、季語（季題）を詠み込むことを約束としている。（有季定型）

江戸時代に、松尾芭蕉により俳諧が大成され、近代になり正岡子規・高浜虚子・河東碧梧桐らに受け継がれた。また、尾崎放哉・種田山頭火らに代表される、季語や俳句の定型にとらわれず自由に表現する新形式（無季・）自由律俳句も現れた。

俳句は、世界で最も短い詩形の中に豊かで深い叙情や思いを込めることができ、有季定型という約束があることにより無限の豊かさを生んでいる。

表現技法：句のイメージや情感を味わうために、表現技法の生かされ方をとらえることが手がかりとなる。

俳句の表現技法：季語は、単なる約束事ではなく、十七音という最短詩形の中で工夫された表現技法である。旧暦との季節の違いからくるずれや無季のものに留意する必要がある。

また、「や」「かな」「けり」などの切れ字は、意味の切れ目を示すとともに、作者の感動を込めて句のリズムを引き締める。五・七・五の定型を破つて音数が多くなることを字余り、少なくなることを字足らず、また定型をリズムにおいて守りながら、意味において句の途中に切れ目のあるものを句またがり（中間切れ）といいう。

俳句の鑑賞のしかた

- (1) その句が詠まれたときの情景を想像してみる。
- (2) 豊かで磨きぬかれた表現を味わう。
- (3) 歌や句に込められた作者の心情をとらえる。

例題

〔1〕次の俳句について、あとの問い合わせに答えなさい。

A 頂上や殊に野菊の吹かれ居り

B いちじくのゆたかに実る水の上

C つきぬけて天上の紺曼珠沙華

D 水仙や古鏡のごとく花をかかぐ

E 五月雨や起きあがりたる根なし草

F 町空のつばくらめのみ新しや

(注) 曼珠沙華……彼岸花。 つばくらめ……つばめ。

(2) 上の俳句A～Fのうちから夏の句を選び、その句の季語をそのまま書け。

原石鼎

山口誓子

山口誓子

松本たかし

村上鬼城

中村草田男

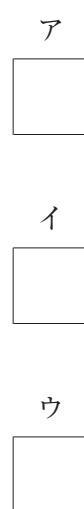
(3)

次の鑑賞文はA～Fのうち三つの俳句について述べたものである。その三つの俳句をそれぞれ選び、その記号を書け。

ア 故郷の古めいた、なつかしい風物の中に季節の使者を発見した新鮮な感動をよんでいる。

イ 色彩の対比が鮮やかで、花のすくと立つていて花火の清らかな美しさ、飾られている様子まで連想される。

ウ 花の比喩表現から、花火の清らかな美しさ、飾られている様子まで連想される。



2 次の俳句と鑑賞文を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

暗く暑く大群集と花火待つ

西東さいとう
三鬼さんき

川の土手の上には人がいっぱい出ている。作者もその大群集の中に立ち交じつて花火の始まるのを待つていて。もう暗くなつたのに始まらない。群集の人いきれの中で、風の絶えた夕凧ゆうなぎの夏のむし暑さに汗びっしよりになりながら待つていて。大群集も待ちかねながらじつと堪えている。もうじき夜空に揚がる華麗な火の花を見て心の鬱うつをはらそと我慢がまんしている。その大群集の我慢と一緒にになって作者も黙つて待つていて。花火の句ではなく、花火を待つことに①句であり、②の吐息と息を合わせていてのを詠よんだ句である。③句だ。

(井本農一「名句鑑賞十二か月」より)

(注) 人いきれ……人が多く集まっていて、体の熱気やにおいが立ちこめること。

夕凧……夕方、海風と陸風が交代するとき、しばらく無風状態になること。

鬱……はればれしない気持ち。

(1) 文章中の俳句の、「花火」のほかにもう一つある季語を抜き出せ。

(2)

①・②にあてはまる最も適当な言葉を鑑賞文中からそれぞれ抜き出せ。

(1)

(2)

(3)
ウ ア イ

はかなく美しい 工 つらく寂しい
強く重い イ 豪快で力強い

第十八講・復習問題『韻文』俳句の読み解きルール

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ5点 計30点満点）

次の俳句を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

- A 頂上や殊に野菊の吹かれ居り
- B いちじくのゆたかに実る水の上
- C つきぬけて天上の紺曼珠沙華
- D 水仙や古鏡のごとく花をかかぐ
- E 五月雨や起きあがりたる根なし草
- F 町空のつばくらめのみ新しや
- (注) 曼珠沙華……彼岸花。
- つばくらめ……つばめ。

原石鼎

山口誓子

松本たかし

村上鬼城

中村草田男

問

A～Fの俳句の季語と季節を答えよ。

F
…
季語E
…
季語D
…
季語C
…
季語B
…
季語A
…
季語

季節

季節

季節

季節

季節

季節

第十八講・確認テスト《韻文》俳句の読み解ルール

次の語句のカタカナ部分を漢字に直し、適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 チヨウ上や

- ①超 ②長 ③丁 ④頂

問二 サミダレや

- ①三月雨 ②五月雨 ③七月雨 ④九月雨

問三 新センな感動

- ①選 ②先 ③鮮 ④染

問四 色サイの対比

- ①際 ②才 ③彩 ④祭

問五 大グン集の中

- ①群 ②軍 ③郡 ④勲

第十九講・《韻文》短歌・俳句の弱点補強

主題・心情・技法を読み取る問題？

例題

- ① 次の短歌を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

A 白鳥しらとりはかなしからすや空の青海おおひめのあをにも染そまづただよふ

B 夏のかぜ山よりきたり三百の牧の若馬耳ふかれけり

C 暑き日の午後ごごのちまたは風たえて塔とうのごとくに公孫樹いぢゅうじゅたちたり

D あたらしく冬ふゆきたりけり鞭むちのごと幹ひびき合あひ竹たけ群ぐんはあり

E 瓶かめにさす藤ふじの花ぶさみじかければたたみの上うへにとどかざりけり

F 夕ゆふやけ空そら焦こげきはまれる下したにして氷ひらんとする湖この静しづけさ

若山牧水

与謝野晶子

佐藤佐太郎

宮松二

正岡子規

島木赤彦

- (1)

二句切れで、同時に比喩表現が用いられている短歌はどれか。A～Fの中から一首選んで、その記号を書け。

- (2) 広々とした自然の中でのさわやかな光景をよんでいる短歌はどれか。A～Fの中から一首選んで、その記号を書け。



(3) 次の文章はFの短歌の鑑賞文である。□の中には、この短歌の初句から五句までの中の一つの句がそのまま入る。

最も適当な句を抜き出せ。

あかあかと輝く夕やけの空と、つめたく静まりかえつて動かぬ湖の対照が、大変に印象的な歌です。□といふことばからは、この地におとずれた季節の厳しさと見る者の心をひきしめるような緊迫感が感じられます。

[2]

次の俳句を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

- | | | | | | |
|--------------|---------------|------------------|-----------------|-------------|----------------|
| F | E | D | C | B | A |
| 雀らも海かけて飛べ吹流し | 玉の如き小春日和を授かりし | 咳の子のなぞなぞあそびきりもなや | 咳をする母を見上げてゐる子かな | 冬の水一枝の影も欺かず | 暖炉もえ末子は父のひざにある |

橋本多佳子
なかむつさ
たお
中村草田男
なかむつだ
お
中村汀女
ていじょ
松本たかし
まつもと
中村汀女
ていじょ
石田波郷
いしだはきょう

(1) 他^{ほか}と異なつた季節の句が一句ある。その句の季語を抜き出し、その季節も書け。

季語

季節

(2) A～Fの中から、擬人法が用いられている句を一つ選び、その記号を書け。

(3) 次の文章は、A～Fのある句の鑑賞文の一節である。この鑑賞文の□にあてはまる言葉として、最も適当なもの

をその句の中から五字で、そのまま抜き出せ。

次々とせがまれて、ややもてあまし気味の気持ちが「□」と表現されている。嘆息しつつも、やめられないでいるその子ほんのうぶりに、一種のユーモラスな雰囲気がかもし出されている。

第十九講・復習問題 《韻文》 短歌・俳句の弱点補強

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ5点 計20点満点）

問一 次の短歌と鑑賞文を読んで、空欄にあてはまる最も適当な語句を、短歌から抜き出せ。

夕やけ空焦げきはまれる下にして氷らんとする湖の静けさ

島木赤彦

あかあかと輝く□(甲)と、つめたく静まりかえつて動かぬ□(乙)の対照が、大変に印象的な歌です。□(丙)といふことばからは、この地におとづれた季節の厳しさと見る者の心をひきしめるような緊迫感が感じられます。

(甲)

(乙)

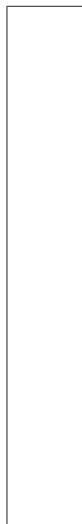
(丙)

問一 次の俳句と鑑賞文を読んで、空欄にあてはまる最も適当な語句を、俳句から抜き出せ。

咳の子のなぞなぞあそびきりもなや

中村 汀女

次々とせがまれて、ややもてあまし気味の気持ちが「」と表現されている。嘆息しつつも、やめられないでいる
その子ぼんのうぶりに、一種のユーモラスな雰囲気がかもし出されている。



第十九講・確認テスト《韻文》短歌・俳句の弱点補強

次の語句のカタカナ部分を漢字に直し、また太字の部分は読み方として適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 アツき日の午後 ①暑 ②熱 ③厚 ④篤

問二 公孫樹たちたり ①たんぽぽ ②まろにえ ③いちょう ④ぱぶら

問三 瓶にさす藤の花 ①へい ②かめ ③びん ④かん

問四 ダン炉もえ ①段 ②団 ③暖 ④談

問五 小春日和 ①ひわ ②にちわ ③びわ ④びより

第二十講・《古典》古文の読み解きルール(1) 主語・歴史的仮名遣いをおさえる?



① 古典の読み解き

古典の文章（古文）では、仮名遣いや言葉の意味など、現代語と異なる部分を理解することが必要であるが、まずその第一歩として、何度も音読して古文のリズムに慣れ、古文の表現に親しむことが大切である。

② 現代仮名遣いと歴史的仮名遣いの違いをおさえる。

〈歴史的仮名遣いの読み方の原則〉

(1) 語の初めにこないハ行（ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ）の音

↓ワ行（ワ・イ・ウ・エ・オ）の音

例 あはれ→あわれ いふ（言ふ）→いう

にほひ→におい いへ（家）→いえ

(2) ゐ・ゑ・を→い・え・お

例 ゐる→いる ゑむ（笑む）→えむ をどこ→おどこ

(3) ち・づ・→じ・ず

例 すぢ（筋）→すじ わづか→わずか

(4) む（助動詞や助詞の場合）→ん

例 らむ→らん 行かむ→行かん

(5)

例 その他
けふ ↓ きょう

くわん
(官) ↓ かん

うつくしうて ↓ うつくしゆうて

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

今は昔、^①竹取の翁といふものありけり。^{おきな}
今ではもう昔のことだが、^{いた}野山にまじりて竹を取りつつ、^②よろづのこととに使ひけり。名をば、さぬきのみ
分け入つて、いろいろな物を作るのに、^{いとくわざ}やつことなむいひける。^(c)

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。^③あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかり
近寄つて、^(背丈が)三寸

りなる人、^④いとうつくしうてゐたり。^{すわつていた}
ほどの人が、^{たいへん}

〔「竹取物語」より〕

(注) 三寸……一寸は約三・〇三センチメートル。

(1) 線①～④の言葉を、現代仮名遣いで書け。

(a)

(b)

(c)

(d)

(2) —線①「竹取の翁といふものありけり」を現代語訳する場合、「いふもの」のあとにどのような助詞を補つたらよい
か。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア を イ は
ウ の エ が

(3) —線②「取りつつ」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 取りながら イ 取りながらも
ウ 取つては エ 取り続けて

(4) —線③「あやしがりて」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 疑わしく感じて イ おそらく思って
ウ 不思議に思つて エ あやしいと感じて

(5) —線④「うつくしうて」とあるが、「うつくし」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア かわいい イ りっぱだ
ウ きれいだ エ 好ましい

第二十講・復習問題《古典》古文の読解ルール(1)

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ5点 計25点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

（注）三寸……一寸は約三・〇二センチメートル。

（「竹取物語」より）

問一 — 線①、②の言葉を、現代仮名遣いで書け。

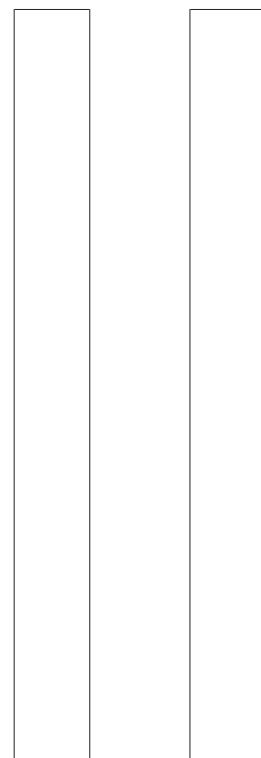
①

②

問二 — 線A「竹取の翁といふものありけり」を、助詞などを補つて現代語訳せよ。

問二 線B「あやしがりて」を現代語訳せよ。

問四 線C「うつくしうて」を現代語訳せよ。



第二十講・確認テスト《古典》古文の読解ルール(1)

次の古文単語の、意味や**太字**の読みを答えなさい。

問一 竹取の翁 (訓読み)

(1)おう

(2)じい

(3)おきな

(4)おうな

問二 あやしがる (意味)

(1)不思議に思う

(2)心配に思う

(3)珍しく思う

(4)辛く思う

問三 うつくし (意味)

(1)趣深い

(2)かわいらしい

(3)上品だ

(4)高貴だ

問四 いと (意味)

(1)少しほ

(2)いろいろ

(3)わずかに

(4)たいへん

問五 よろづ (意味)

(1)たくさん

(2)特別

(3)わずか

(4)大事

第二十一講・《古典》古文の読解ルール(2) 係り結びの法則



① 古語の意味

(1) 現代語と語形が似ていても意味の違う言葉

例 をかし（趣がある） やがて（すぐに） かなし（いとおしい）

(2) 現代語にはない言葉

例 いと（たいそう）

「けり、たり、なり」など文末の表現

② 古文の文法・語法に注意する。

(1) 主語などの省略がある。

例 (翁は) 野山にまじりて竹を取りつつ、……。

(2) 助詞の省略が多い。

例 三寸ばかりなる人(が)、いとうつくしうて……。

(3) 「係り結び（の法則）」がある。

ふつう、文末は言い切りの形（終止形）で終わるが、上に係りの助詞「ぞ・なむ・や・か」などがくる場合は連体形、「こそ」がくる場合は已然形で結ぶ。

例 もと光る竹なむ一筋ありける。
あざ笑ひてこそ立てりけれ。
(「ける」・「けれ」の終止形は「けり」。)

(4)

助動詞や助詞の意味を考える。

文脈から考えて、どのような意味にとるのがふさわしいかを判断すればよい。

例 「つつ」は、同じ動作（ここでは竹を取ること）がくり返される意を表す助詞。

「ならむ」の「む」は推量を表す助動詞。

「何とか」の「か」は疑問を表す助詞。

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

(かぐや姫に熱心に求婚した五人の貴公子のうち、くらもちの皇子は、蓬萊の玉の枝を探しにいくと言つて船出するが、実は、にせの玉の枝を作させていた。皇子は、翁と姫に、架空の冒険談を語る。)

これやわが求むる山ならむと思ひて、さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりをさしめぐらして、一、三日ばかり、見
これこそ やはり 周囲 (じまの) 回つて

歩くに、天人のよそほひしたる女、山の中よりいで来て、銀の金碗を持ちて、水をくみ歩く。これを見て、船より下り
服装 山の中から出てきて おわん

て、「この山の名を何とか申す。」と問ふ。女、答へていはく、これは蓬萊の山なりと答ふ。これを聞くに、うれしきことか

うれしくてたまりません

ぎりなし。
でした

(「竹取物語」より)

(注) 蓬萊の玉の枝……根が銀、茎が金、実が真珠でできているといわれる木の枝。蓬萊(蓬萊山)は、中国の伝説上の理想郷。

(1) ～線①～③の言葉を、現代仮名遣いで、すべてひらがなで書け。

(a)

(b)

(c)

(2) ——線①「わが求むる山ならむ」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。また、「わが求むる山」とは何のことを指すか。文中から四字で抜き出せ。

ア わたくしが探し求めた山ではないだろう

イ わたくしが探し求めていた山だろう

ウ わたくしが探し求めた山ならよいのだが

エ わたくしが探し求めていた山だったのか

(3) ——線②「おぼえて」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 思い出されて イ 想像して
 ウ 覚えていて エ 思われて

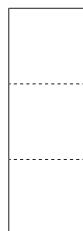
意味：

(4) 線③「何とか申す」の意味として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

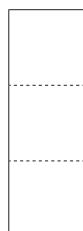
ア 何とかいましたね
イ 何とかいってください
ウ 何というのですか

エ 何と申しあげますか

(5) 線④「女、答へていはく」とあるが、女が答えた部分は、どこからどこまでか。文中から最初と最後の三字を抜き出せ。



（）



第二十一講・復習問題《古典》古文の読解ルール(2)

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ5点 計25点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

（かぐや姫に熱心に求婚した五人の貴公子のうち、くらもちの皇子は、蓬萊の玉の枝を探しにいくと言つて船出するが、実は、にせの玉の枝を作させていた。皇子は、翁と姫に、架空の冒險談を語る。）

これやわが求むる山ならむと思ひて、さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりをさしめぐらして、二、三日ばかり、見歩くに、天人のよそほひしたる女、山の中よりいで来て、銀の金鏡を持ちて、水をくみ歩く。これを見て、船より下りて、「この山の名を何とか申す。」と問ふ。女、答へていはく、これは蓬萊の山なりと答ふ。これを聞くに、うれしきことかぎりなし。

（「竹取物語」より）

（注）蓬萊の玉の枝……根が銀、茎が金、実が真珠でできているといわれる木の枝。蓬萊（蓬萊山）は、中国の伝説上の理想郷。

問――線①～③の言葉を、現代仮名遣いで書け。

①

②

③

問一 線A 「何とか申す」を、係り結びに留意して現代語訳せよ。

問二 線B 「女、答へていはく」とあるが、女が答えた部分は、どこからどこまでか。文中から最初と最後の三字を抜き出せ。



)



第二十一講・確認テスト 『古典』 古文の読解ルール(2)

次の設問について、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 「求む」の意味を答えよ。

- ①探す ②求める ③尋ねる ④訪ねる

問二 「歩く」の意味を答えよ。

- ①歩く ②歩きまわる ③ゆっくり歩く ④踏み分ける

問三 「何とか申す」の「か」の意味を答えよ。

- ①疑問 ②反語 ③強意 ④詠嘆

問四 「いはく」の意味を答えよ。

- ①言うが ②言うならば ③言うとしても ④言うことには

問五 竹取物語の成立した時代を答えよ。

- ①奈良時代 ②平安時代 ③鎌倉時代 ④室町時代

第二十一講・《古典》古文の弱点補強 主語・仮名遣い・係り結びを読み取る問題?

例題

次の文章を読んで、あととの間に答えなさい。

昔、絵仏師の良秀という者がいた。ある日、家の隣から火事が起こり、火がせまつてきたので、自分一人、大通りへ逃げ、家の向かい側で自分の家が焼けるのを見ていた。人々が「たいへんなことですね。」と言つて見舞つたけれども、良秀は、家の焼けるのを見てうなずいては、ときどき笑つて、「ああ、たいへんなもうけものをしたよ。今まで下手に描いてきたものだな。」と言つたので、そのとき見舞いに来た人たちは、

「こはいかに、かくては立ちたまへるぞ。^①あさましきことかな。物のつきたまへるか。」と言ひければ、「なんでもふ物のつものはでとりつきなさつたか」と、心得つるなり。これこそせう

くべきぞ。年ごろ不動尊の火炎を^あ悪しくかきけるなり。今見れば、かうこと燃え^②と、心得つるなり。これこそせう^③
（火は）このように燃えるものだつた 会得した

とくよ。^④この道を立てて世にあらんには、仏だによくかきたてまつらば、百千の家も出できなん。わたうたちこそ、させる
世の中を生きてゆくには仏様^{さう}うまくお書き申しあげれば 百や千の できるだろう あなたたち これといった

能もおはせねば、物をもをしみたまへ。」と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。
才能もお持ちでないから

（「宇治拾遺物語」より）

(注) 絵仏師……仏画を描くことを職業とする人。

もののけ……人にたたりをするもの。人にのりうつって悩ますといふ。

不動尊……不動明王。怒りの表情をし、右手に剣、左手に縄をもち、背に火炎を負い、いつさいの邪惡じやあくをしづめる力を持つといわれる。

(1) ——線①「あさましきことかな」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 見苦しいことだなあ イ あきれたことだなあ

ウ あさはかなことだなあ エ なさけないことだなあ

(2) □にあてはまる言葉として最も適當なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア けら イ けり
ウ ける エ けれ

(3) ——線③「せうとく」の意味を表す言葉を、前半の現代語の文中から五字で抜き出せ。

(4) ——線④「この道」とは、具体的にはどのようなことを指すか。次の中から最も適當なものを選び、記号で答えよ。

ア 仏道修行の道 イ 人間としての行い
ウ 仏画の道 エ 心に悟った道理

(5) — 線⑤ 「物をもをしみたまへ」の意味として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア 物をおしみなさるのだ イ 物をおしむべきだ

ウ 物をおしんでいなさい エ 物をおしんではいけない

(6) — 線「今まで下手に描いてきたものだな」とあるが、良秀は何を「下手に描いてきた」と言っているのか。本文中

から六字で抜き出せ。

(7) 文章全体から、良秀は、家の焼けるのを見てどう感じていると思われるか。最も適当なものを次のの中から選び、記号で

答えよ。

ア 腹を立てて いる イ 喜んで いる
ウ あきらめ て いる エ 関心が な い



第二十一講・復習問題《古典》古文の弱点補強

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ 5点 計30点満点）次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

昔、絵仏師の良秀という者がいた。ある日、家の隣から火事が起こり、火がせまつてきたので、自分一人、大通りへ逃げ、家の向かい側で自分の家が焼けるのを見ていた。人々が「たいへんなことですね。」と言つて見舞つたけれども、良秀は、家の焼けるのを見てうなずいては、ときどき笑つて、「ああ、たいへんなもうけものをしたよ。今まで下手に描いてきたものだな。」と言つたので、そのとき見舞いに来た人たちは、

「こはいかに、かくては立ちたまへるぞ。^①あさましきことかな。物の^②つきたまへるか。」と言ひければ、^③なんでもふ物のつ

くべきぞ。^④年ごろ不動尊の火炎を^⑤あさしきけるなり。今見れば、かうこそ燃えけれど、心得つるなり。これこそせう

とくよ。^⑥この道を立てて世にあらんには、仏だによくかきたてまつらば、百千の家も出できなん。わたうたちこそ、させる

能もおはせねば、物をもをしみたまへ。」と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。

（「宇治拾遺物語」より）

(注) 絵仏師……仏画を描くことを職業とする人。

ものだけ……人にたたりをするもの。人にのりうつって悩ますといふ。

不動尊……不動明王。怒りの表情をし、右手に剣、左手に縄をもち、背に火炎を負い、いつさいの邪惡じやあくをしづめる力を持つといわれる。

問一 — 線①「あさましき」の意味を答えよ。

問二 — 線②「の」の文法的意味を答えよ。

問三 — 線③「なんでふ」を現代仮名遣いで書け。

問四 — 線④「年ごろ」の意味を答えよ。

--	--	--	--

問五 線⑤「こそ」の結びにあたる言葉を本文中から抜き出せ。

問六

——線⑥「この道」とは、具体的にどのようなことを指すか。最も適当なものを次の 中から選び、記号で答えよ。

- ア 仏道修行の道
- イ 人間としての行い
- ウ 仏画の道
- エ 心に悟った道理



第二十一講・確認テスト 《古典》 古文の弱点補強

次の設問について、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 「あさましき」の意味を答えよ。

- ①あさましい ②いやしい ③あきれる ④うらめしい

問二 「年ごろ」の意味を答えよ。

- ①長年 ②年代 ③年頃 ④年月

問三 「かうこそ」の「こそ」の意味を答えよ。

- ①疑問 ②反語 ③強意 ④詠嘆

問四 「だに」の意味を答えよ。

- ①だけ ②さえ ③まで ④から

問五 宇治拾遺物語の文学ジャンルを答えよ。

- ①物語 ②説話 ③お伽草子 ④隨筆

第二十三講・《古典》漢文の読み解ルール 故事成語・書き下し文の読み取り ?

① 漢文の読み方

漢文は、もともと中国の文章であるが、それを日本語の語法に従つて読むことを「訓読する」という。そのために、「送り仮名」や、読む順序を示す記号である「返り点」が工夫された。送り仮名と返り点を合わせて「訓点」といい、訓読したものをお假名交じり文で書き表したものをお書き下し文」という。

- (1) 送り仮名（助詞・助動詞・用言の活用語尾）は、漢字の右下にカタカナで付ける。
返り点は、漢字の左下に付ける。

- ・レ点 一字だけ上に返つて読む。
- ・一二点 二字以上返つて読む。
- ・上中下点 一二点だけでは足りない場合に用いる。
(これらを組み合わせて用いることもある。)

② 漢文特有の言い回しに注意する。

例 「曰はく」と …会話の引用

「（な）かれ」 …禁止

③ 語句の意味に注意して内容を読み取る。

漢字そのものの持つ意味、前後の文脈のつながりから文中での使われ方を判断していくようにする。

例題

次の漢文を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

A 学びて時にこれを習ふ、また説ばしからずや。^(a)

機会あるごとに復習し体得する

なんとうれしいことではないか

朋あり 、また樂しからずや。人知らずして 愚みず、また君子ならずや。⁽²⁾

人が認めてくれなくとも

不平不満を抱かない

学^{ビテ}而^レ時^ニ習^フ之^{これヲ}、不^す亦^{また}説^{バシカラヤ}乎[。]有^リ朋^レ自^{ヨリ}遠^一方^二來^{タル}不^二亦^一樂^{シガラ}乎[。]人^ノ

不^{シテ}知^ラ而^レ不^レ愚^ミ、不^ニ亦^一

君^子乎[。]

B 学びて思はざればすなはち罔^(b)し。思ひて学ばざればすなはち殆^{あや}ふし。

物事の道理を正確につかめない

危険である

学^{ビテ}而^レ不^レ思^ハ則^シ罔[。]思^ハ則^シ殆[。]
學^{ビテ}而^レ不^レ學^チ則^チ殆[。]

(「論語」より)

(1) ～線①「ずや」、②「ばすなはち」は、漢文特有の言い回しであるが、その意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア 原因結果 イ 禁止

ウ 仮定 エ 反語

①

②

(2) ——線①「朋」とは、この場合、どのような友人を指すと考えられるか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答

えよ。

ア 共に楽しく遊ぶ友人

イ 遠くから訪ねてくれる友人

ウ 同じ学問の道に志す友人

エ 自分の本音を語れる友人

(3) □にあてはまる書き下し文を答えよ。

(4) ——線②「君子」とはどうのような人物か。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えよ。

ア 人格者 イ 最高位の人
ウ 高貴な人 エ 有能な人

(5) 線③「思而不学」に、書き下し文を参考にして訓点を付けよ。

- (6) A・Bの文中の、「学ぶ」、「思ふ」は次のどちらの意味で用いられているか。記号で答えよ。
 ア 書物を読んだり師から教わったりする。
 イ 自分でよく考え、研究する。

思
而
不
学

「学
ぶ」



「思
ふ」



第二十三講・復習問題《古典》漢文の読解ルール

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ 5点 計15点満点）次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

学びて時にこれを習ふ、また説ばしからずや。

朋あり遠方より來たる、また樂しからずや。

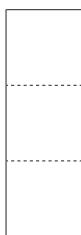
人知らずして慍みうらみず、また君子くわならずや。

学びて思はざればすなはち罔あやし。

思ひて学ばざればすはなち殆あやふし。

問一 線①「朋」とは、この場合どのような友人を指すと考えられるか。漢字二字で答えよ。

問二 線②「君子」とはどうのような人物か。漢字二字で答えよ。



問三 本文は『論語』の一節であるが、中国の書物から生まれた、教訓のある言葉をなんというか。四字の漢字で答えよ。

第二十三講・確認テスト 『古典』漢文の読解ルール

次の設問について、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 「習之」の「之」の読みを答えよ。

- ①あれ
②それ
③これ
④どれ

問二 「自遠方」の「自」の読みを答えよ。

- ①じ
②おのづから

- ③みずから
④より

問三 「不亦樂」の「不」の読みを答えよ。

- ①はず

- ②じ

- ③まじ

- ④あらず

問四 「君子」の意味を答えよ。

- ①人格者

- ②主君

- ③貴人

- ④公人

問五 「論語」とは誰の教えが書かれたものか。

- ①孔子

- ②老子

- ③孟子

- ④荀子

第二十四講・《古典》漢詩の読み解ルール

漢詩のかたちと表現技法をどうえる



① 漢詩のきまりを知る。

(1) 漢詩の形式

- ・絶句 四句から成る詩

五言絶句
(一句が五字)
七言絶句
(一句が七字)

- ・律詩 八句から成る詩

五言律詩
(一句が五字)
七言律詩
(一句が七字)

(2) 絶句の構成

- | | | |
|-----|----|------------|
| 第一句 | 起句 | うたい起こす |
| 第二句 | 承句 | 起句を承けて展開する |
| 第三句 | 転句 | 場面を転換する |
| 第四句 | 結句 | 全体の結び |

② 漢詩の情景・作者の心情を読み味わう。

漢詩では、情景と心情を組み合わせてうたつたものが多い。例題の詩は、情景→心情だが、逆の場合もある。

3

漢詩の主な表現技法

(3) (2) (1)

対句 字数・構成の同じ二句の対応。**体言止め** 句末を体言で終わらせ、余韻を持たせる。**倒置法**

語順を入れかえ、最初にくる部分を強調。

例題

次の漢詩と解説文を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

絶句

杜甫

江は碧にして鳥は遙よ白く
水鳥はいつそう白く見える

江 碧 鳥 遙 白

山は青くして花は然えんと欲す
①
青々と茂り

山 青 花 欲 然

今□看す又過ぐ
見ている間に

今 □ 看 又 過

何の日か是れ帰る年ぞ

何 日 是 帰 年

(注) 然……燃と同じ。

この詩は、作者がうち統く戦乱を避け、友人を頼つて成都にいたときの作品である。前半の二句には成都の美しい風景^②が、後半の二句にはその異郷の地の風景を目の前にして悲しみに沈む作者の心情がうたわれている。^③

成都……今の中中国四川省の省郡、^{スチヨウバン}成都市。^{チヨンツイ}

(1) この詩で、(a)前の句をうけてさらに展開する、(b)場面を一転する、という役割を持つのは、それぞれ第何句か。漢数字で答えよ。

(2) ——線①「花は然えんと欲す」の意味として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。また、この部分を参考にして、～線「花欲然」に、訓点を付けよ。

ア 花は燃えるように赤く咲いてほしい

イ 花はあたりまえのように赤く咲いている

ウ 花は今にも燃え出しそうに赤く咲いている

エ 花は燃えるように赤く咲こうとしている

意味：

花
欲
然

(3) □にあてはまる季節として最も適当なものを漢字一字で答えよ。

(4) ——線②「美しい風景」は、詩の中に色彩を表す字が含まれていることによつて鮮やかに表現されている。前半の二句の中から、色彩を表す漢字を四つ抜き出せ。

・

・

・

a 第 句

b 第 句

b 第 句

(5) — 線③ 「悲しみ」とは、どのような悲しみか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 故郷へ帰れないまま時が過ぎてゆく悲しみ。

イ いつかは友人と別れねばならない悲しみ。

ウ 戦乱が続いて国土が破壊されてゆく悲しみ。

エ 美しい成都を去らねばならない悲しみ。

(6) この詩で、対句になっているのはどの句とどの句か。漢数字で答えよ。

(7) この詩の形式を何というか。答えよ。

第

句と第

句

絶句

第二十四講・復習問題《古典》漢詩の読解ルール

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、あとの問題を解きなさい（一つ 5点 計20点満点）
次の漢詩と解説文を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

絶句

杜甫

江は碧にして鳥は逾よ白く

江 碧 鳥 遷 白

山は青くして花は然えんと欲す

山 青 花 欲 然

今春看す又過ぐ

今 春 看 又 過

何れの日か是れ帰る□ぞ

何 日 是 帰 □

この詩は、作者がうち続く戦乱を避け、友人を頼つて成都にいたときの作品である。前半の二句には成都の美しい風景
が、後半の二句にはその異郷の地の風景を目の前にして悲しみに沈む作者の心情がうたわれている。

(注) 然……燃と同じ。

成都……今の中国
スイチヨウ四
シ川
チ省の省郡、
成都
チ市。

問一 漢詩中の空欄にあてはまる漢字一字を答えよ。

問二 この詩で対句になっているのはどの句とどの句か。行数で答えよ。

問三 この漢詩について説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、漢字二字で答えよ。

行目と

行目

へ帰れないまま時が過ぎてゆく悲しみ。

問四 この漢詩の形式を何というか。漢字四字で答えよ。

第二十四講・確認テスト 『古典』漢詩の読解ルール

次の設問について、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 「絶句」とは何行詩のことか。

- (1) 四行詩 (2) 六行詩 (3) 八行詩 (4) 十二行詩

問二 漢詩の偶数句末の母音を揃えることを何というか。

- (1) 対句 (2) 押韻 (3) 対比 (4) 頭韻

問三 同じ文型で逆の内容を表現することを何というか。

- (1) 対句 (2) 押韻 (3) 対比 (4) 頭韻

問四 「何れ」の意味を答えよ。

- (1) いつ (2) だれ (3) 何 (4) どのように

問五 「是れ」の読みを答えよ。

- (1) あれ (2) それ (3) これ (4) どれ

例題

① 次の漢詩を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

春
曉

孟浩然

春眠
曉
を覚えず

春
眠
不
覺
曉

②

廻
廻
聞
二
啼
鳥
一

夜來
風雨
の声

夜
來
風
雨
ノ
声

花落つること知る多少

花
落
知
多
少

(注) 晓……夜明け

廻……ところどころ

夜来……ゆうべから

多少……たくさん

第二十五講・《古典》漢文の弱点補強

漢詩・故事成語・書き下し文を読み取る問題

?



(1) — 線①「春眠不覚曉」に、書き下し文を参考にして、返り点を付けよ。

春 眠 不 覚_エ 晓_ヲ

(2) □に入る書き下し文を書け。

(3) — 線③「花落つること知る多少」の意味として最も適切なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア 花はつぎつぎに散り続いている。

イ 花はずいぶん散ったことだろう。

ウ 花がいつ散ったのか知らずにいた。

エ 花もわずかに散り残っている。

(4) この詩の印象として最も適切なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア はかなさ イ のどかさ

ウ けだるさ エ さびしさ



[2] 次の漢文を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

A 子曰はく、「人遠き慮りなければ、必ず近き憂ひ有り。」と。

子 曰、人 無遠慮必有近憂。

B 子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。^{すなはくら}思ひて学ばざれば則ち殆し。^{あやふ}」と。

子 曰、「学而不思則罔。思而不行學則殆。」

(注) 囮し……物事の道理を明確につかむことができない

(1) Aの——線①「遠き慮り」の意味として最も適切なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- ア 将来への心くばり
- イ 広大な計画
- ウ 目上の人への心くばり
- エ 遠くの友人への思いやり



(2) 次はBの漢文の通釈文である。これを読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

先生が言われるには、「学ぶだけでその内容をよく考えないと、□があやふやになる。自分の考えだけに頼つて、人の意見や知識を学ばないと、危険である。」と。

① 右の通釈文の□に入る語として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- | | |
|------|------|
| ア 練習 | イ 経験 |
| ウ 習慣 | エ 理解 |

② Bの――線②「思ひて学ばざれば則ち殆し」が表すこととして最も適切なものを、通釈文を参考にして次の中から選び、記号で答えよ。

ア 学問は必要ない イ 学ぶことは危険である
 ウ 独断は危険である エ 考えることは重要である



③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

当初は優勢であった項羽の軍も、戦いが長引くにつれ、次々と腹心の部下に裏切られ、敗色が濃くなつていった。そしてついに、垓下の地に追いつめられ、劉邦の率いる漢軍に四方ごとごと取り囲まれてしまつた。

項王の軍 A 兵少なく食尽く。漢軍
及び諸侯の兵、之を囲むこと数重なり。夜
漢軍の四面皆楚歌するを聞き、項王乃ち大
いに驚きて曰く、「漢皆已に B か。
是れ何ぞ楚人の多きや。」と。

項 王 , 軍 壁^(a)_二 壱_ス 下_一 兵 少^{ナク} 食 尽[。]_ク 漢 軍
及^ビ 諸 侯 , 兵 囲^{ムコト}_ヲ 之 数^{ナリ} 重^{ナリ}_ニ 夜^キ 聞^キ 漢 軍 四
面 皆^ノ 楚 歌^{スルヲ}_一 項 王 乃^チ 大^{イニ} 驚^{キテ} 曰^ク 「漢 皆^已_二
得^レ 楚^ヲ 乎[。] 是^レ 何^ゾ 楚 人^の 之[。] 多^キ や^ト 也_一 」

(項羽の軍は垓下の塞^{とりで}に立てこもつたが、兵力は衰え、食糧もほとんど尽きていた。劉邦の率いる漢軍や彼に味方する諸侯の兵は、この城壁を幾重にも包囲した。夜になつて、項羽は^③四面を囲んだ漢軍が皆楚の国の歌を歌うのを聞き、大いに驚いて言つた。「漢は既に我が楚をすっかり手に入れたのか。まあなんと楚人の多いことか。」と。)

④ 事ここに至つて勝ち目のないことを悟つた項羽は夜中に別れの酒宴を開き、自分の境遇をいきどおり嘆いて、次のように歌つた。

力は山を抜き 気は世を蓋ふ

時利あらず

雌逝かず

雌の逝かざる

奈何すべき

虞や虞や

若を奈何せん

(口語訳)

わたしの力は動かぬ山を引き抜き、わたしの気力は天下を覆い尽くす。しかし時運はわたしに味方せず、愛馬「雌」も進もうとしない。進まぬ「雌」をどうしよう。（わたしの愛する）虞よ虞よ、おまえをどうしたらよいものか。

(「垓下の戦い」より)

(1) 線①「腹心の部下」とはどんな人か。次の中から選び、記号で答えよ。

ア 心の中に悪だくみを抱いている部下。
イ 心の中では従つていらない部下。

ウ うわべと心の中が違っている部下。
エ 心の底から信頼し、信用している部下。



(2) — 線②「敗色が濃く」と同じ意味で「敗色□□」という四字の熟語を作るとき、□□に入るものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 濃縮 イ 濃厚
ウ 濃度 エ 濃密

(3) □Aには～～線Ⓐ、□Bには～～線Ⓑの書き下し文を、それぞれ書け。

A

B

(4) — 線③「四面を囲んだ漢軍が皆楚の国の歌を歌う」からできた、1 四字の故事成語を書け。また、2 その意味を次の中から選び、記号で答えよ。

ア 周囲を敵に囲まれて孤立しているような状態。
イ たくさんの男性の中に女性が一人だけまじっているような状態。
ウ 非常に親しいつき合い。

(5) — 線④「事ここに至つて」とは何がどうなつたことを指すのか。書き下し文から十字で抜き出せ。

1

2

第二十五講・復習問題《古典》漢文の弱点補強

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ 5点 計20点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

当初は優勢であった項羽の軍も、戦いが長引くにつれ、次々と腹心の部下に裏切られ、敗色が濃くなつていった。そしてついに、垓下の地に追いつめられ、劉邦の率いる漢軍に四方ことごとく取り囲まれてしまつた。

項王の軍垓下に壁す。兵少なく食尽く。漢軍及び諸侯の兵、之を囲むこと数重なり。夜漢軍の四面皆楚歌するを聞き、項王乃ち大いに驚きて曰く、「漢皆已に□を得たるか。是れ何ぞ楚人の多きや。」と。

（項羽の軍は垓下の塞に立てこもつたが、兵力は衰え、食糧もほとんど尽きていた。劉邦の率いる漢軍や彼に味方する諸侯の兵は、この城壁を幾重にも包囲した。夜になつて、項羽は、四面を囲んだ漢軍が皆楚の国の歌を歌うのを聞き、大いに驚いて言った。「漢は既に我が楚をすっかり手に入れたのか。まあなんと楚人の多いことか。」と。）

事ここに至つて勝ち目のないことを悟つた項羽は夜中に別れの酒宴を開き、自分の境遇をいきどおり嘆いて、次のように歌つた。

力は山を抜き 気は世を蓋ふ

時利あらず

驕の逝かざる

驕逝かず

奈何すべき

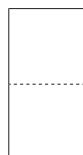
虞や虞や

若を奈何せん

(「垓下の戦い」より)

問一 — 線①「腹心の部下」とはどんな人か。この言葉を説明した次の文の空欄にあてはまる、最も適当な二字熟語を答えよ。

心の底から



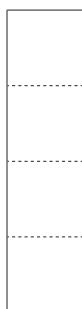
している部下のこと。

— 221 —

— 221 —

問二

本文中の空欄に入る最も適当な漢字一字を答えよ。

**問三**

本文中の空欄に入る最も適当な漢字一字を答えよ。

問四 「四面を囲んだ漢軍が皆楚の国の歌を歌う」からできた、四字の故事成語を答えよ。



第二十五講・確認テスト 『古典』漢文の弱点補強

次の語句の設問について、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 「暁」の意味を答えよ。

①明け方

②朝

③夕方

④深夜

問二 「慮り」の読みを答えよ。

①おもいはかり

②おもんばかり

③おもはかり

④おぼはかり

問三 「四面ソカ」の「ソカ」はどれか。

①楚歌

②曾歌

③素歌

④祖歌

問四 「奈何すべき」の意味を答えよ。

①どうするのか

②どうなのか

③どうしようか

④どうなんだ

問五 「敗色」に続く熟語を答えよ。

①濃縮

②濃厚

③濃度

④濃密

第二十六講・《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(1) 科学論を読み取る



例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

【1】多くの人は、科学は正しい事実だけを積み上げてできていると思うかもしれないが、^①それは真実ではない。実際の科学は、事実の足りないところを「科学的仮説」で補いながら作り上げた構造物である。科学が未熟なために、本来必要となるべき鉄骨が欠けているかもしれないのだ。新しい発見による革命的な一撃が来たら、いつ倒壊してもおかしくない位である。

【2】だから、「科学が何であるか」を知るには、逆に「何が科学でないか」を理解することも大切だ。科学は確かに合理的だから、理屈に合わない迷信は科学ではない。それでは、占いや心霊現象しんれいげんしょうについてはどうだろうか。占いは、当たらないことがあるから非科学的なのではない。天気予報は、いつも正確に予測できるとは限らないが、科学的な方法に基づいている。また、お化けや空飛ぶ円盤の存在は、科学的に証明されてはいないわけだが、逆に「^②お化けが存在しない」ということを証明するのも難しい。なぜなら、いつどこに現れるかも分からないお化けを徹底的に探すことはできないわけで、結局見つからなかつたとしても、「お化けが存在しない」と結論するわけにはいかない。ひょつとして今この瞬間に自分の目の前にお化けが現れるかもしれないからだ。

【3】^③ 哲学者のK・R・ポパーは、科学と非科学を分けるために、次のような方法を提案した。反証（間違っていることを証明すること）が可能な理論は科学的であり、反証が不可能な説は非科学的だと考える。検証ができるかどうかは問わない。

【4】そもそも、ある理論を裏付ける事実があつたとしても、たまたまそのような都合のよい事例があつただけかもしれない

ので、その理論を「証明」したことにはならない。□A□、ある法則が成り立つ条件を調べるといつても、すべての条件をテストすることは難しい。□B□、科学の進歩によつて間違つていると修正を受けうるものの方が、はるかに「科学的」であると言える。

⑤一方、非科学的な説は、検証も反証もできないので、それを受け入れるためには、無条件に信じるしかない。科学と非科学の境を決めるこの基準は、「反証可能性」と呼ばれている。反証できるかどうかが科学的な根拠となるというのは、逆接めいていて面白い。^{おもしろい}

⑥例えば、「すべてのカラスは黒い」という説は、一羽でも白いカラスを見つければ反証されるので、科学的である。しかし、「お化け」が存在することは検証も反証もできないので、その存在を信じることは非科学的である。逆に、「お化けなど存在しない」と主張することは、どこかでお化けが見つかれば反証されるので、より科学的だということになる。一方、「分子など存在しない」という説は、一つの分子を計測装置でとらえることすでに反証されており、分子が存在することは科学的な事実である。

⑦科学の知識は、経験による根拠を必要としない数学の公理のような「アприオリな知識」と、経験を根拠としていて反証できる「アポステリオリな知識」とに、大きく分けられる。

⑧ここで、反証できるアポステリオリな知識しか科学的と認めないならば、ちょっと極端である。これでは、簡単に証明したり取り下げられたりする理論ばかりが「科学的」ということになってしまい、果たして科学は進歩するのか、という疑問が生ずる。

⑨科学理論の発展という観点から、アメリカの科学史家のT・S・クーンは、ある一定の期間を代表して手本となるような科学理論（例えば天動説）を「パラダイム（範例）」と名付けて、新しいパラダイム（例えば地動説）へと世界觀が変革しながら科学が進歩するということを、豊富な例をもとに主張した。

〔10〕このように、科学的仮説は検証と反証を繰り返しながら発展していく。科学における仮説の役割がとても大きいことは、数学者・物理学者のH・ポアンカレがはつきりと述べているところでもある。

〔11〕しかし、科学者が述べる説が、いつも仮説の形を取っているとは限らない。科学者の単なる思いつきや予想はあくまで意見に過ぎず、科学的な仮説とは違う。科学者は仮説と意見をきちんと分けて述べる必要があるが、一般の人にはその区別がよく分からないので、^⑤両者を混同することで誤解が生じやすい。

〔12〕科学的な仮説に対しては、それが正しいかどうかをまず疑つてみることが、科学的な思考の第一歩である。仮説を鵜呑みにしたのでは、科学は始まらない。

(注) 数学の公理……数学の理論の基礎となる、証明がいらない事柄。

アприオリ……先天的。

アボステリオリ……後天的。

(酒井邦嘉「科学者という仕事」より)

〔1〕――線①「それは真実ではない」とあるが、筆者は、どのようなことをうつたえようとしているのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 科学は、他の学問と比べて万人に理解されにくいものだ、ということ。

イ 科学は、事実と科学的仮説とを交えて成り立っている、ということ。

ウ 非科学的なことが、正しい事実として認識されている、ということ。

工 どんなときでも、科学は正しい結果を導き出す、ということ。



(2) — 線②「『お化けが存在しない』ということを証明するのも難しい」とあるが、その理由を表した次の文の□にあてはまる言葉を、文中から十五字で抜き出せ。

お化けは、□ものなので、今探してみて見つからなかつたから「存在しない」、という結論を出すわけにはいかないから。

(3) □・□にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

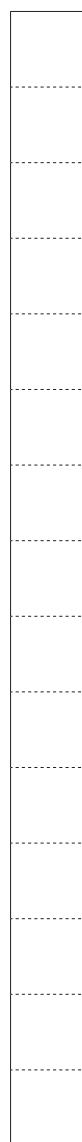
ア それでも——ゆえに イ しかも——むしろ
ウ むしろ——したがつて エ そのうえ——まるで

(4) — 線③「哲学者のK・R・ポパー」が提案した方法について、具体例を挙げて説明している段落はどれか、段落番号で答えよ。

(5) — 線④「それ」とは何を指しているか、書け。



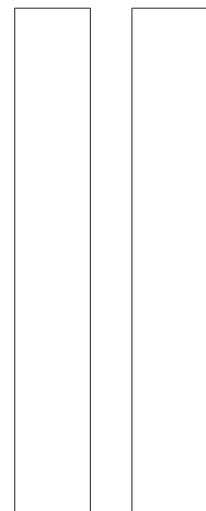
段落



(6)

線⑤

「両者」とは何と何を指しているか、文中からそれぞれ抜き出せ。



第二十六講・復習問題 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(1)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、あとの問題を解きなさい（一つ 5点 計35点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

【1】多くの人は、科学は正しい事実だけを積み上げてできていると思うかもしれないが、それは真実ではない。実際の科学は、事実の足りないところを「科学的仮説」で補いながら作り上げた構造物である。科学が未熟なために、本来必要となるべき鉄骨が欠けているかもしれないのだ。新しい発見による革命的な一撃が来たら、いつ倒壊してもおかしくない位である。

【2】A、「科学が何であるか」を知るには、逆に「何が科学でないか」を理解することも大切だ。科学は確かに合理的だから、理屈に合わない迷信は科学ではない。それでは、占いや心靈現象(しんれいげんしやう)についてはどうだろうか。占いは、当たらないことがあるから非科学的なのではない。天気予報は、いつも正確に予測できるとは限らないが、科学的な方法に基づいている。また、お化けや空飛ぶ円盤の存在は、科学的に証明されてはいないわけだが、逆に「お化けが存在しない」ということを証明するのも難しい。なぜなら、いつどこに現れるかも分からずお化けを徹底的に探すことはできないわけで、結局見つからなかつたとしても、「お化けが存在しない」と結論するわけにはいかない。ひょっとして今この瞬間に自分の目の前にお化けが現れるかもしれないからだ。

【3】 哲学者のK・R・ポパーは、科学と非科学を分けるために、次のような方法を提案した。反証（間違っていることを証明すること）が可能な理論は科学的であり、反証が不可能な説は非科学的だと考える。検証ができるかどうかは問わない。

【4】 そもそも、ある理論を裏付ける事実があつたとしても、たまたまそのような都合のよい事例があつただけかもしれない

ので、その理論を「証明」したことにはならない。しかも、ある法則が成り立つ条件を調べるといつても、すべての条件をテストすることは難しい。むしろ、科学の進歩によつて間違つていると修正を受けうるものの方が、はるかに「科学的」であると言える。

〔5〕一方、〔甲〕な説は、検証も反証もできないので、それを受け入れるためには、無条件に信じるしかない。科学と非科学の境を決めるこの基準は、「反証可能性」と呼ばれている。反証できるかどうかが科学的な根拠となるというのは、逆接めいていって面白い。^{おもしろ}

〔6〕〔B〕、「すべてのカラスは黒い」という説は、一羽でも白いカラスを見つければ反証されるので、科学的である。しかし、「お化け」が存在することは検証も反証もできないので、その存在を信じることは非科学的である。逆に、「お化けなど存在しない」と主張することは、どこかでお化けが見つかれば反証されるので、より科学的だということになる。一方、「分子など存在しない」という説は、一つの分子を計測装置でとらえることすでに反証されており、分子が存在することは科学的な事実である。

〔7〕科学の知識は、経験による根拠を必要としない数学の公理のような「アприオリな知識」と、経験を根拠としていて反証できる「アポステリオリな知識」とに、大きく分けられる。

〔8〕ここで、反証できるアポステリオリな知識しか科学的と認めないならば、ちょっと極端である。これでは、簡単に証明したり取り下げられたりする理論ばかりが「科学的」ということになってしまい、果たして科学は進歩するのか、という疑問が生ずる。

〔9〕科学理論の発展という観点から、アメリカの科学史家のT・S・クーンは、ある一定の期間を代表して手本となるような科学理論（例えば天動説）を「パラダイム（範例）」と名付けて、新しいパラダイム（例えば地動説）へと世界觀が変革しながら科学が進歩するということを、豊富な例をもとに主張した。

[10] このように、科学的仮説は検証と反証を繰り返しながら発展していく。科学における仮説の役割がとても大きいことは、数学者・物理学者の H・ポアンカレがはつきりと述べているところでもある。

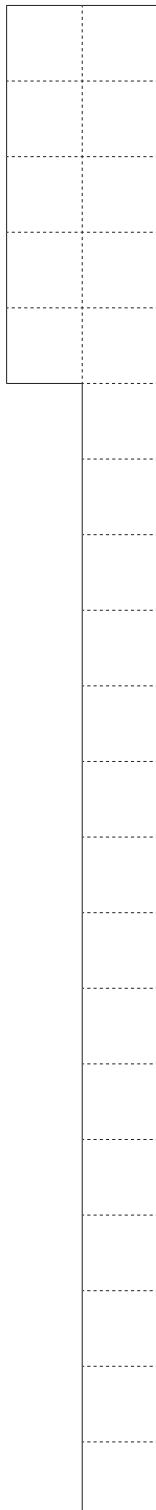
〔11〕 □C□、科学者が述べる説が、いつも仮説の形を取つてゐるとは限らない。科学者の単なる思いつきや予想はあくまで意見に過ぎず、科学的な仮説とは違う。科学者は仮説と意見をきちんと分けて述べる必要があるが、一般の人にはその区別がよく分からぬので、両者を混同することで誤解が生じやすい。

[12] 科学的な仮説に対しても、それが正しいかどうかをまず疑つてみることが、科学的な思考の第一歩である。仮説を鵜呑みにしたのでは、科学は始まらない。

(注) 数学の公理……数学の理論の基礎となる、証明がいらない事柄。

アフリオリ……先天的

問一 一線「それ」の指す部分を、本文中から二十五字以内で抜き出せ。



(酒井邦嘉「科学者という仕事」より)

問一 空欄A、B、Cにあてはまる接続語を、それぞれ三字で答えよ。（ただしBは漢字を含む。）

問二 空欄（甲）にあてはまる言葉を、漢字四字で答えよ。

A

B

C

問三

空欄（甲）にあてはまる言葉を、漢字四字で答えよ。

問四

科学は、
ア〔二字〕と
イ〔五字〕とを交えて成り立っている、ということ。

ア〔二字〕

イ〔五字〕

ア

イ

第二十六講・確認テスト 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(1)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

- 問一 科学的カセツ ①仮設 ②仮説 ③架設 ④架説

- 問二 コウ造物 ①溝 ②構 ③講 ④購

- 問三 メイ信 ①名 ②命 ③冥 ④迷

- 問四 円バン ①版 ②盤 ③磐 ④番

- 問五 反ショウ可能性 ①章 ②証 ③賞 ④勝

第一七講・《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(2) 哲学・身体論を読み取る？

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

だれかにほんとうに聴いてもらいたくなるのは、鬱^{ふさ}いでいるとき、でも自分でも何を訴えたいのかよくわからないときである。しかし聴くというのはなかなかにむずかしいことである。何か思いつめているときには、まず「言つたつてわかるはずがない」と口が重くなるが、「ふん、ふん」とうなずかれると、「そんなにかんたんにわかられてたまるか」という反発が先に立つ。それが感染して、聴くほうも「わかるんだけどわかりたくない」と意固地にもなる。聴こうとするといやがるから、逆に鼻歌うたいながら用事でもしつつ聴くとはなしに聴く、くらいの感じではじめて口を開いてもらえるということもある。

しかし、聴くことがもつともむずかしいのは、聴いても言葉を返しようがないとあらかじめわかっているときである。重篤な病気になつた友人、家族を失つた被災者、子どもを失つた両親、ホスピスの患者さん、くり返し病に冒される知人……。^①このひとたちの前に立つたとき、とつさにどう声をかけていいのかわからず、怯んでしまう。まさに聴くことしかできないのである。けれども、ひたすら聴くということ、そのことには大きな意味がこもつていて。

このような場合にじつと聴くのがむずかしいのには、いくつか理由がある。一つは、苦しみや鬱^{ふさ}ぎの理由を問うても答えがないことは、話す本人がわかつていてるから。なぜこのわたしばかりが病に冒されるのか、こんな状態でも生きづけることは死ぬことより大事なのか……と問いただしても、だれも答えを返せないに決まっている。

第二に、ひとはほんとうに苦しいときには話さないものである。「言つたつてわかつてもらえるはずがない」。それでもよ



うやつと口を開いても、一言一言が相手にたしかに届いているか確認しながらしか話せないので、どうしてもとつとつとした断片的な語りになってしまいます。

第三に、迎え入れられるという確信のないところでは、ひとは他人に言葉をあげないものだ。ほんとうはそのことは考えたくない、忘れていたいのに、他人に語ることで苦しみをわざわざ二重にすることはない。

そして最後に、とくに家族の場合、自分が漏らす一言一言を身内は聞き流すことができず、それらに過剰に反応してしまう。「そんなこと思っていたのか。こっちの身にもなつてくれ」と返され、そして「**A**」と一度と口を開かなくなる。
③
聴くというのは、それほどにむずかしいことである。が、それでもひたすら聴かねばならない。最後まで聴き切らねばならない。聴くだけ、言葉を受けとめるだけということが意味をもつのは、いつたいどうしてか。

④
 苦しみや鬱ぎのなかに溺れてしまっているひとが、それでもそれについて語るためには自分の苦しみや鬱ぎについて、どんなきつかけ、どんな経過でこんな苦しみや鬱ぎに襲われることになったのか、その理由と考えられるものは何か、いまはどうな状態か、というふうに、苦しみや鬱ぎから身を引き剥がし、ことがらを時系列に並べ換え、整理して語らねばならない。このように自分の苦しみや鬱ぎにある距離をとり、それを対象化するなかで、それらとの関係が変わることがここでとりわけ重要なのである。つまり、苦しみや鬱ぎを当初あつたのとは別の地平へと移し変えるところに、他者を前におのれについて語ることの意味はある。語るということは、相手に回答をもらうということではない。見えない自分の姿を映すために、その鏡の役を相手にしてもらうことであるのだ。

が、鏡であるべき聴く者は、話の中身が重いし、しかも相手からなかなか言葉が漏れてこないので、その緊迫になかなか耐えきれない。身を固くしてじりじりと待つだけで疲れはててしまう。そのうち待ちきれなくなつて、「あなたが言いたいのはこういうことじゃないの?」と誘い水を向ける。話すほうはその明快な語り口につい乗ってしまう。「わかつてもらえた」と。が、これはじつはもつともまづい聞き方なのだ。**B**、語ることの意味は、語ることによってみずからの閉塞

から距離をとることにあるのに、⁽⁵⁾そのチャンスを聴く側が横取りしてしまうからだ。これでは聴くことにならない。

(鶴田清一「わかりやすいはわかりにくい?」より)

(注) 鬱ぐ……何か引っかかることがあって憂鬱な気持ちになること。

重篤……病気が重くて回復の見込みがない様子。

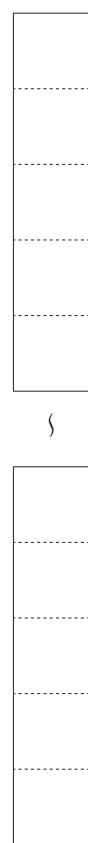
ホスピス……回復不可能な末期がん患者を主に収容する施設。

怯む……気力がくじけること。

時系列……一定の時間ごとの集まり。

閉塞……閉じて塞がること。

(1) ——線①「このひとたち」とはどうなひとたちか。「……ひとたち」に続くように本文中から二十六字で抜き出し、最初と最後の五字を書け。



ひとたち

(2) ——線②「いくつか理由がある」とあるが、筆者は理由をいくつ述べているか。算用数字で答えよ。



(3) A □にあてはまる言葉として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

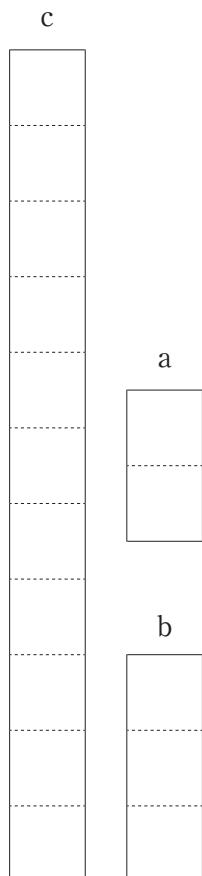
ア また今度言おう イ 言わなきやよかつた

ウ 言つてよかつた エ 次は分かつてもらえるだろう

(4) ——線③「聽く」とあるが、「聽く人」は、語る人にとって何であると筆者は述べているか。本文中の言葉を用いて五字以内で書け。

(5) ——線④「苦しみや鬱ぎのなかに溺れてしまっているひと」にとって「語る」とはどのような行為なののかを説明した次の文の□にあてはまる言葉を文中からそれぞれ抜き出せ。

苦しみや鬱ぎに a 二字 をとり、それらを b 三字 することで、当初とは c 十一字 という行為。



(6) □Bにあてはまる言葉として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

- | | | | |
|---|-----|---|------|
| ア | だから | イ | ところで |
| ウ | しかし | エ | なぜなら |

(7) —線⑤「そのチャンス」とはどのようなチャンスか。本文中の言葉を用いて答えよ。

(8) 答え
筆者は「聴く」ということについてどのような考え方を述べているか。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア たとえ聴くことがむずかしいような話でも、最後までひたすらじっと聴かなくてはならない。

イ 話す人がうまく言葉を見つけられない時は、気持ちを察して言葉をかけて助けてあげるべきだ。

ウ 話の内容を理解していることを相手に伝えるため、「ふん、ふん。」とうなずきながら聴くとよい。

エ どう声をかけていいのか困るような話でも答えを返せるように、一言一言を確実に聴くべきだ。

第二十七講・復習問題 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(2)

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ 5点 計25点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

だれかにほんとうに聴いてもらいたくなるのは、鬱^{ふさ}いでいるとき、でも自分でも何を訴えたいのかよくわからないときである。しかし聴くというのはなかなかにむずかしいことである。何か思いつめているときには、まず「言つたつてわかるはずがない」と口が重くなるが、「ふん、ふん」とうなずかれると、「そんなにかんたんにわかられてたまるか」という反発が先に立つ。それが感染して、聴くほうも「わかるんだけどわかりたくない」と意固地にもなる。聴こうとするといやがるから、逆に鼻歌うたいながら用事でもしつつ聴くとはなしに聴く、くらいの感じではじめて口を開いてもらえるということもある。

A、聴くことがもつともむずかしいのは、聴いても言葉を返しようがないとあらかじめわかっているときである。重篤な病気になった友人、家族を失った被災者、子どもを失った両親、ホスピスの患者さん、くり返し病に冒される知人……。このひとたちの前に立つたとき、とつさにどう声をかけていいのかわからず、怯んでしまう。まさに聴くことしかできないのである。けれども、ひたすら聴くということ、そのことには大きな意味がこもっている。

このような場合にじつと聴くのがむずかしいのには、いくつか理由がある。一つは、苦しみや鬱^{ふさ}ぎの理由を問うても答えがないことは、話す本人がわかつているから。なぜこのわたしばかりが病に冒されるのか、こんな状態でも生きづけることは死ぬことより大事なのか……と問いただしても、だれも答えを返せないに決まっている。

第二に、ひとはほんとうに苦しいときには話さないものである。「言つたつてわかつてもらえるはずがない」。それでもよ

うやつと口を開いても、一言一言が相手にたしかに届いているか確認しながらしか話せないので、どうしてもとつとつとした断片的な語りになってしまふ。

第三に、迎え入れられるという確信のないところでは、ひとは他人に言葉をあげないものだ。ほんとうはそのことは考えたくない、忘れていたいのに、他人に語ることで苦しみをわざわざ二重にすることはない。

B 最後に、とくに家族の場合、自分が漏らす一言一言を身内は聞き流すことができず、それらに過剰に反応してしまう。「そんなこと思っていたのか。こっちの身にもなつてくれ」と返され、そして「言わなきやよかつた」と一度と口を開かなくなる。

聴くというのは、それほどにむずかしいことである。が、それでもひたすら聴かねばならない。最後まで聞き切らねばならない。聴くだけ、言葉を受けとめるだけということが意味をもつのは、いつたいどうしてか。

苦しみや鬱ぎのなかに溺れてしまつて語るためには自分の苦しみや鬱ぎについて、どんなきづかけ、どんな経過でこんな苦しみや鬱ぎに襲われることになったのか、その理由と考えられるものは何か、いまはどんな状態か、というふうに、苦しみや鬱ぎから身を引き剥がし、ことがらを時系列に並べ換え、整理して語らねばならない。このように自分の苦しみや鬱ぎにある距離をとり、それを対象化するなかで、それらとの関係が変わることがここでとりわけ重要なのである。**C**、苦しみや鬱ぎを当初あつたのとは別の地平へと移し変えるところに、他者を前におのれについて語ることの意味はある。語るということは、相手に回答をもらうということではない。見えない自分の姿を映すために、その鏡の役を相手にしてもらうことであるのだ。

が、鏡であるべき聴く者は、話の中身が重いし、しかも相手からなかなか言葉が漏れてこないので、その緊迫になかなか耐えきれない。身を固くしてじりじりと待つだけで疲れはててしまう。そのうち待ちきれなくなつて、「あなたが言いたいのはこういうことじゃないの?」と誘い水を向ける。話すほうはその明快な語り口について乗つてしまふ。「わかつてもらえ

た」、と。が、これはじつはもつともまずい聞き方なのだ。なぜなら、語ることの意味は、語ることによってみずから閉塞から距離をとることにあるのに、そのチャンスを聴く側が横取りしてしまうからだ。これでは聴くことにならない。

(鷺田清一「わかりやすいはわかりにくい?」より)

(注) 鬱ぐ……何か引っかかることがあって憂鬱な気持ちになること。

重篤……病気が重くて回復の見込みがない様子。

ホスピス……回復不可能な末期がん患者を主に収容する施設。

怯む……気力がくじけること。

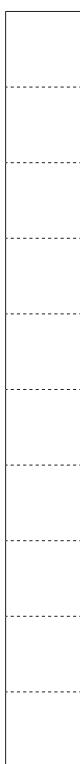
時系列……一定の時間ごとの集まり。

閉塞……閉じて塞がること。

問一 空欄A、B、Cにあてはまる最も適当な接続語を、それぞれ三字で答えよ。



問二 線の指す部分を、本文中から十字で抜き出せ。



問三 筆者は「聴く」ということについて、どのような考え方を述べているか。それを説明した次の文の空欄にあてはまる最

も適当な言葉を、本文中から九字で抜き出せ。

たとえ

ならない。

ような話でも、最後までひたすらじつと聴かなくては

第二十七講・確認テスト 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(2)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 感セン ①選 ②線 ③腺 ④染

問二 イ固地 ①意 ②居 ③委 ④以

問三 ヒ災者 ①非 ②悲 ③被 ④避

問四 確シン ①信 ②心 ③真 ④審

問五 キン迫 ①近 ②禁 ③緊 ④均

第二十八講・《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(3) 日本語論を読み取る?

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

【1】日本語の間という言葉にはいくつもの意味がある。まずひとつは空間的な間である。「すき間」「間取り」というときの間であるが、基本的には物と物のあいだの何もない空間のことだ。絵画で何も描かれていない部分のことを余白というが、これも空間的な間である。

【2】日本の家は本来、床と柱とそれをおおう屋根でできていて、壁というものがない。^①これは部屋を細かく区分けし、壁で仕切り、そのうえ、鍵のかかる扉で密閉してしまう西洋の家とは異なる。西洋の個人主義はこのような個室で組み立てられた家に住んできたからこそ生まれたというのはよくわかる話である。

【3】それでは、壁や扉で仕切る代わりに日本の家はどうするかというと、障子や襖^{ふすま}や戸^とを立てる。「源氏物語絵巻」などに描かれた王朝時代の宮廷や貴族たちの屋敷を見ると、その室内は板戸や蔀戸^{しへいど}、襖や几帳^{きちよう}などさまざまな間仕切りの建具^{たてぐ}で仕切られてはいるものの、いたるところすき間だらけである。西洋の重厚な石や煉瓦^{れんが}や木の壁に比べると、何という□だろうか。

【4】しかも、このような建具はすべて季節のめぐりとともにに入れたりはずしたりできる。冬になれば寒さを防ぐために立て、夏になれば涼を得るためにとりはずす。それだけでなく、住人の必要に応じて、ふだんは座敷、次の間、居間と分けて使っていても、いざ、大勢の客を迎えて祝宴を開くという段になると、すべてをつないで大広間にすることもできる。このように日本人は昔から自分たちの家の中の空間を自由自在につないだり切つたりして暮らしてきた。



【5】 次に時間的な間がある。「間がある」「間を置く」というように、こちらは何もない時間のことである。芝居や音楽では声や音のしない沈黙の時間のことを間といいう。

【6】 バッハにしてもモーツアルトにしても西洋のクラシック音楽は次から次に生まれては消えてゆくさまざまな音によつて埋め尽くされている。たとえば、モーツアルトの「交響曲二十五番」などを聞いていると、息を継ぐ暇もなく、ときには息苦しい。モーツアルトは沈黙を恐れ、音楽家である以上、一瞬たりとも音のない時間を許すまいとする衝動に駆られているかのように思える。

【7】 それにひきかえ、日本古来の音曲は琴であれ笛であれ鼓つづみであれ、音の絶え間というものがいたるところにあつて長閑のどかなものだ。その音の絶え間では松林を吹く風の音がふとよぎることもあるれば、谷川のせせらぎが聞こえてくることもあるだろう。ときには、この絶え間があまりにも長すぎて、一曲終わつてしまつたかと思つていると、やおら次の節がはじまるということも珍しくない。そんなふうに、いくつもの絶え間に断ち切られていても日本の音曲は成り立つてしまう。

【8】 空間的、時間的な間のほかにも、人やものごとのあいだにとる心理的な間というものもある。誰でも自分以外の人とのあいだに、たとえ相手が夫婦や家族や友人であつても長短さまざまな心理的な距離、間をとつて暮らしている。このような心理的な間があつてはじめて日々の暮らしを円滑に運ぶことができる。

【9】 こうして日本人は生活や文化のあらゆる分野で^②間を使いこなしながら暮らしている。それを上手に使えば「間に合う」「間がいい」ということになり、逆に使い方を誤れば「間違い」、間に締まりがなければ「間延び」、間を読めなければ「間抜け」になつてしまふ。間の使い方はこの國のもつとも基本的な捉おさげであつて、日本文化はまさに間の文化ということができるだろう。

【10】 では、この間は日本人の生活や文化の中でどのような働きをしているのだろうか。そのもつとも重要な働きは異質なもの同士の対立をやわらげ、調和させ、共存させること、つまり、和を実現させることである。早い話、互いに意見の異なる

る二人を狭い部屋に押しこめておけば喧嘩になるだろう。しかし、二人のあいだに十分な間をとつてやれば、互いに共存できるはずだ。狭い通路に一度に大勢の人々が殺到すれば、たちまち身動きがとれなくなつてパニックに陥つてしまふが、一人ずつ間遠に通してやれば何の問題も起こらない。

〔11〕和とは異質のもの同士が調和し、共存することだつた。この和が誕生するためになくてはならない土台が間なのである。和はこの間があつてはじめて成り立つということになる。

(注) 王朝時代……奈良時代・平安時代のこと。

蔀戸……格子を取りつけた板戸。

几帳……二本の柱に一本の横木を通し、それに布をかけて間仕切りにした建具。

間遠に……間隔をあけて。

(1) —線①「これは」の述語を一文節で抜き出せ。

(2) □にあてはまる言葉として最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えよ。

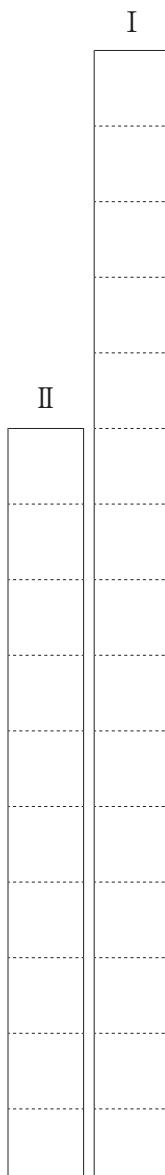
- ア 弱々しさ、まじめさ イ 新しさ、めずらしさ
- ウ おおらかさ、正しさ エ 軽やかさ、はかなさ



(長谷川櫂 「和の思想」より)

(3) 次の表は、空間的な間と時間的な間について、筆者の考えをまとめたものである。□ I・□ IIに適当な言葉を補つて表を完成させよ。ただし、Iは十五字以内の言葉を本文中から抜き出し、IIは本文中の言葉を用いて十字以内で答えること。

間（取り上げている例）	特色
空間的な間（日本の家）	住人の必要に応じて、□ I することができる。
時間的な間（日本の音曲）	いたるところに □ II にもかかわらず成立してしまう。



(4) 次は、四人の中学生が、日ごろから心がけていることについて発表したものである。——線②「間を使いこなしながら暮らしている」という筆者の考えに最も近いものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア わたしは、教室の本棚を整理するときには、本の種類や大きさに気をつけながら、すき間なく本を並べるように心がけています。

イ わたしは、書写の授業で毛筆を使って字を書くときには、紙の余白を意識しながら、全体を整えて書くよう心がけています。

ウ わたしは、部活動の計画を立てるときには、毎月初めにその月の細かな計画を立てて、確実にやり遂げるよう心がけています。

エ わたしは、家で勉強するときには、集中力を持続させるため、長時間であっても休息をとらずに取り組むよう心がけています。

(5) 本文の段落構成について説明したものとして最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア ①から④までの具体例と⑤から⑨までの具体例を、⑩で比較しながら検討し、⑪でまとめている。

イ ①から⑧まで述べた具体例を⑨でまとめ、それを⑩・⑪で新たな内容と関連づけて述べている。
①から④までの具体例と⑤から⑦の具体例の違いを、⑨・⑩で対比し、⑪で結論を述べている。

ウ ①から⑦まで述べた具体例を⑧で補足し、⑨から⑪で別の例を出しながら問題提起をしている。



第二十八講・復習問題 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(3)

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ 5点 計45点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

【1】日本語の【甲】という言葉にはいくつかの意味がある。まずひとつは空間的な間である。「すき間」「間取り」というときの間であるが、基本的には物と物のあいだの何もない空間のことだ。絵画で何も描かれていない部分のことを余白といふが、これも空間的な間である。

【2】日本の家は本来、床と柱とそれをおおう屋根でできていて、壁というものがない。これは部屋を細かく区分けし、壁で仕切り、そのうえ、鍵のかかる扉で密閉してしまう西洋の家とは異なる。西洋の個人主義はこのような個室で組み立てられた家に住んできたからこそ生まれたというのはよくわかる話である。

【3】それでは、壁や扉で仕切る代わりに日本の家はどうするかというと、障子や襖や戸を立てる。「源氏物語絵巻」などに描かれた王朝時代の宮廷や貴族たちの屋敷を見ると、その室内は板戸や蔀戸、襖や几帳などさまざまな間仕切りの建具で仕切られてはいるものの、いたるところすき間だらけである。西洋の重厚な石や煉瓦や木の壁に比べると、何という軽やかさ、はかなさだろうか。

【4】A、このような建具はすべて季節のめぐりとともにに入れたりはずしたりできる。冬になれば寒さを防ぐために立て、夏になれば涼を得るためにとりはずす。それだけでなく、住人の必要に応じて、ふだんは座敷、次の間、居間と分けて使つても、いざ、大勢の客を迎えて祝宴を開くという段になると、すべてをつないで大広間にすることもできる。このように日本人は昔から自分たちの家の中の空間を自由自在につないだり切つたりして暮らしてきた。

【5】 次に時間的な間がある。「間がある」「間を置く」というように、こちらは何もない時間のことである。芝居や音楽では声や音のしない沈黙の時間のことを間といいう。

【6】 バッハにしてもモーツアルトにしても西洋のクラシック音楽は次から次に生まれては消えてゆくさまざまな音によつて埋め尽くされている。たとえば、モーツアルトの「交響曲二十五番」などを聞いていると、息を継ぐ暇もなく、ときには息苦しい。モーツアルトは沈黙を恐れ、音楽家である以上、一瞬たりとも音のない時間を許すまいとする衝動に駆られているかのように思える。

【7】 それにひきかえ、日本古来の音曲は琴であれ笛であれ鼓つづみであれ、音の絶え間というものがいたるところにあつて長閑のどかなものだ。その音の絶え間では松林を吹く風の音がふとよぎることもあるれば、谷川のせせらぎが聞こえてくることもあるだろう。ときには、この絶え間があまりにも長すぎて、一曲終わつてしまつたかと思つていると、やおら次の節がはじまるということも珍しくない。そんなふうに、いくつもの絶え間に断ち切られていても日本の音曲は成り立つてしまう。

【8】 空間的、時間的な間のほかにも、人やものごとのあいだにとる心理的な間というものもある。誰でも自分以外の人とのあいだに、たとえ相手が夫婦や家族や友人であつても長短さまざまな心理的な距離、間をとつて暮らしている。このような心理的な間があつてはじめて日々の暮らしを円滑に運ぶことができる。

【9】 こうして日本人は生活や文化のあらゆる分野で間を使いこなしながら暮らしている。それを上手に使えば「間に合う」「間がいい」ということになり、逆に使い方を誤れば「間違い」、間に締まりがなければ「間延び」、間を読めなければ「間抜け」になつてしまふ。間の使い方はこの國のもつとも基本的な捉おさげであつて、日本文化はまさに間の文化ということができるだろう。

【10】 では、この間は日本人の生活や文化の中でどのような働きをしているのだろうか。そのもつとも重要な働きは異質なもの同士の対立をやわらげ、調和させ、共存させることである。早い話、互いに意見の異なる

る二人を狭い部屋に押しこめておけば喧嘩になるだろう。〔C〕、二人のあいだに十分な間をとつてやれば、互いに共存できるはずだ。狭い通路に一度に大勢の人々が殺到すれば、たちまち身動きがとれなくなつてパニックに陥つてしまふが、一人ずつ間遠に通してやれば何の問題も起こらない。

〔11〕和とは異質のもの同士が調和し、共存することだつた。この和が誕生するためになくてはならない土台が間なのである。和はこの間があつてはじめて成り立つということになる。

(注) 王朝時代……奈良時代・平安時代のこと。

蔀戸……格子を取りつけた板戸。

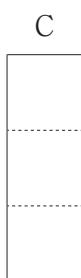
几帳……二本の柱に一本の横木を通し、それに布をかけて間仕切りにした建具。

間遠に……間隔をあけて。

(長谷川櫂「和の思想」より)

問一 空欄(甲)にあてはまる最も適当な言葉を、漢字一字で本文中から抜き出せ。

問二 空欄A、B、Cにあてはまる最も適当な接続語を、それぞれ三字で答えよ。



問三　——線の指す部分を、本文中から四字で抜き出せ。

問四　この文章の段落構成について説明した次の文の空欄にあてはまる、最も適当な段落番号をそれぞれ答えよ。

〔1〕から〔ア〕までで述べた具体例を〔イ〕でまとめ、それを〔ウ〕と〔エ〕で新たな内容と関連づけて述べている。

ア
□

イ
□

ウ
□

エ
□

第二十八講・確認テスト 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(3)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 タテ具

- ①立 ②断 ③建 ④絶

問二 必ヨウ

- ①用 ②様 ③容 ④要

問三 自由自ザイ

- ①剤 ②材 ③財 ④在

問四 ショウウ動

- ①障 ②訟 ③衝 ④渉

問五 円カツ

- ①活 ②割 ③括 ④滑

第二十九講・《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(4) 日本文化論を読み取る

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

- 【1】「仕切り」は、多くの場合、空間に与えられた機能性（たとえば寝室や台所といった空間の機能）を振り分ける装置であるとともに、人間関係を仕切るものとなっている。
- 【2】^①仕切りが人間関係を仕切る装置であるという言い方は、結果的なこととしてある。むしろ、私たちの人間関係がどのように考えられているかが仕切りに反映されていると言ったほうがいいかもしない。どのような仕切りであれ、内部と外部という領域の関係を形成する。してみれば、仕切りは、^②ある社会において、また、ある時代において、人々が何を自らの内とし、何を外としたのかを反映している。
- 【3】一九一〇年代末から二〇年代にかけて、日本では、それまでの**襖**^{ふすま}によつて曖昧に仕切られていた間取りを廃止するべきだという主張がなされるようになった。つまり、個室と共同の部屋を分離し、家庭内において明確に公と私を分離する間取りを導入するべきだとされた。このことは、ヨーロッパにおける公と私の概念を仕切りによつて導入しようとしたことを反映している。
- 【4】ヨーロッパにおける近代的な公私分離の思想は、近代的な概念としての社会意識を映し出すものであつた。それは、簡単に言えば、社会というものは、**契約**^{けいやく}（約束）によって成り立つものであり、人々はその契約を守る義務を負い、その結果としてだれにも支配されない個人の権利が守られるという考え方である。【A】、そうした「約束」が社会に先立つて成り立つか否かには議論がある。



【5】しかし、これまでにも少なからず指摘されてきたことだが、日本の近代は^③そうした社会意識を持つていなかつたのではないか。そうした中で、個人と公的な空間とを分離するヨーロッパ的な間取りをそのまま導入したと言えよう。日本には、

近代的社會の概念ではない「世間」という概念が存在した。この世間とは、内に対し外を意味する。世間は、家庭の外の場合もあるし、ある集団の外の場合もある。つまり、内と外を仕切る世間という概念は、自在に動くものなのである。頑強な壁ではなく、ちょうど屏風^{びょうぶ}による仕切りのようなものだと言えるかもしれない。

【6】^④そのように考えてみると、かつての日本の仕切りは、内と外を強固に分離するものではない。それは、日本における人間関係の在り方を映し出している。障子や襖は、人の影や物音を伝え、その仕切りの向こう側の存在のかすかな気配を気付かせる。格子戸もまた、内と外を仕切りつつも、相互の気配を感じさせる。こうした仕切りは、仕切りの向こう側で起こっている事態が仕切りのこちら側に分かってしまう。ゆるやかな仕切りの中で生活するためには、家族、【B】周りに対

するなにがしかの配慮が必要であった。

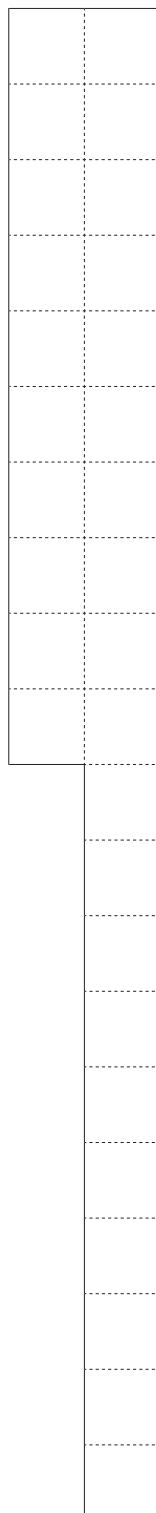
【7】また、日本の仕切りは、垂直面の仕切りだけではなく、水平面での仕切りもある。ちょっとした段差だけで、空間の仕切りの意味となる。「敷居が【C】」という言葉は、段差が物理的段差ではなく、意識にかかる暗黙の境界になつていることを意味している。

【8】日本の仕切りは、日本における人間関係の在り方を反映していた。他との調和を図りながら、つながりを持って暮らしていくこうとする人間関係が、そこにあつたのである。

(柏木 ひろし 「『しきり』の文化論」より)

(1) 線①「仕切りが人間関係を仕切る装置であるという言い方は、結果的なこととしてある」について述べた次の文の、□にあてはまるものを、本文中の言葉を用いて二十五字以上三十字以内で書け。ただし、「人間関係」という言葉を必ず使うこと。

「結果的なこととしてある」とは、「仕切りが人間関係を仕切る装置であるという言い方」よりは、仕切りが□という言い方のほうがより適切であるという筆者の考え方を示した表現である。



(2)

——線②「ある社会……何を外としたのか」とあるが、近代の日本の場合について述べている次の文の□a・□bにあてはまる、最も適當な言葉をそれぞれ本文中から抜き出して書け。ただし、aは漢字二字で、bは一文節からなる五字で書け。

近代の日本において、人々は□aを「外」としたが、□aと「内」との仕切りは□bという特徴を持つていた。



(3) — 線③「そうした社会意識」がどのようなものかを述べている一文を本文中から抜き出し、最初の五字を書け。

(4) — 線④「そのように考えてみると」について述べた次の文の、□にあてはまる言葉を八字で書け。

世間という概念は、ちょうど□のようなものである。

(5) □・□にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア A おそらく——B それゆえ イ A やはり——B すると
ウ A もちろん——B あるいは エ A いわば——B そして

(6) □には、直前の「敷居が」と合わさると、「訪問しにくい」という意味の慣用句になる言葉が入る。二字で書け。



(7) 段落相互の関係の説明として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア [2]段落は、[1]段落で述べた内容の具体例を多く示し、補足説明している。

イ [3]段落は、[2]段落で述べた内容を整理して、問題点を明らかにしている。

ウ [5]段落は、[4]段落で述べた内容を違った角度から検討し、否定している。

エ [6]段落は、[5]段落で述べた内容を受けて考察を加え、論を展開している。

(8) 筆者がこの文章で述べている内容と合うものを次のの中から選び、記号で答えよ。

ア かつての日本の仕切りは、人間の相互の関係をゆるやかに仕切るとともに、近代の日本の社会における人々の生活意

識や行動様式に大きな変化を与えた。

イ かつての日本の仕切りは、内と外を完全に切り離すものではなく、柔軟じゅうなんに他とかかわって生きていこうとする日本

人の意識を映し出したものであつた。

ウ かつての日本の仕切りは、個人と公的な空間とを曖昧に分離し、社会的関係よりも個人の生活や権利を優先させると
いう近代的な思想の形成を妨げた。

エ かつての日本の仕切りは、自分と周囲との関係をうまく調整するための装置であり、内と外という領域を形式的に区
別する機能を有するものであつた。



第二十九講・復習問題 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(4)

授業で使用したテキストをしつかり見直して、あとの問題を解きなさい（一つ 5点 計25点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

〔1〕「〔A〕」は、多くの場合、空間に与えられた機能性（たとえば寝室や台所といった空間の機能）を振り分ける装置であるとともに、人間関係を仕切るものとなっている。

〔2〕仕切りが人間関係を仕切る装置であるという言い方は、結果的なこととしてある。むしろ、私たちの人間関係がどのように考えられているかが仕切りに反映されていると言ったほうがいいかもしれない。どのような仕切りであれ、〔甲〕部と〔乙〕部という領域の関係を形成する。してみれば、仕切りは、ある社会において、また、ある時代において、人々が何を自らの内とし、何を外としたのかを反映している。

〔3〕一九一〇年代末から二〇年代にかけて、日本では、それまでの「〔ふすま〕」によって曖昧に仕切られていた間取りを廃止するべきだという主張がなされるようになった。つまり、個室と共同の部屋を分離し、家庭内において明確に〔丙〕と〔丁〕を分離する間取りを導入するべきだとされた。このことは、ヨーロッパにおける公と私の概念を仕切りによつて導入しようとしたことを反映している。

〔4〕ヨーロッパにおける近代的な公私分離の思想は、近代的な概念としての社会意識を映し出すものであった。それは、簡単に言えば、社会というものは、契約（約束）によって成り立つものであり、人々はその契約を守る義務を負い、その結果としてだれにも支配されない個人の権利が守られるという考え方である。もちろん、こうした「約束」が社会に先立つて成り立つか否かには議論がある。

【5】しかし、これまでにも少なからず指摘されてきたことだが、日本の近代はそうした社会意識を持つていなかつたのではないか。そうした中で、個人と公的な空間とを分離するヨーロッパ的な間取りをそのまま導入したと言えよう。日本には、近代的社會の概念ではない「世間」という概念が存在した。この世間とは、内に対し外を意味する。世間は、家庭の外の場合もあるし、ある集団の外の場合もある。つまり、内と外を仕切る世間という概念は、自在に動くものなのである。頑強な壁ではなく、ちょうど屏風による仕切りのようなものだと言えるかもしれない。

【6】そのように考えてみると、かつての日本の仕切りは、内と外を強固に分離するものではない。それは、日本における人間関係の在り方を映し出している。障子や襖は、人の影や物音を伝え、その仕切りの向こう側の存在のかすかな気配を気付かせる。格子戸もまた、内と外を仕切りつつも、相互の気配を感じさせる。こうした仕切りは、仕切りの向こう側で起こっている事態が仕切りのこちら側に分かってしまう。ゆるやかな仕切りの中で生活するためには、家族、あるいは周りに対するなにがしかの配慮が必要であった。

【7】また、日本の仕切りは、垂直面の仕切りだけではなく、水平面での仕切りもある。ちょっとした段差だけで、空間の仕切りの意味となる。「敷居が高い」という言葉は、段差が物理的段差ではなく、意識にかかる暗黙の境界になつていていることを意味している。

【8】日本の仕切りは、日本における人間関係の在り方を反映していた。他との調和を図りながら、つながりを持つて暮らしていくこうとする人間関係が、そこにあつたのである。

(柏木 ひろし 「『しきり』の文化論」より)

問一 空欄Aにあてはまる最も適当な三字の言葉を、本文中から抜き出せ。

問二 空欄（甲）と（乙）、（丙）と（丁）には、それぞれ対義語が入る。それぞれの空欄にあてはまる最も適当な漢字一字を、本文中から抜き出せ。

問三 一線の指す部分を、本文中から六字で抜き出せ。

(甲) • (乙)
(丙) • (丁)



問四 本文の内容を説明した次の文の空欄にあてはまる最も適当な言葉を、本文中から漢字二字で抜き出せ。

かつての日本の仕切りは、内と外を完全に切り離すものではなく、柔軟に他とかかわって生きていこうとする日本人

を映し出したものであった。

の



第二十九講・確認テスト 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(4)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 リヨウ域 ①量 ②領 ③料 ④了

問二 ガイ念 ①外 ②該 ③慨 ④了

問三 指テキ ①滴 ②敵 ③適 ④摘

問四 スイ直面 ①推 ②錘 ③垂 ④睡

問五 キヨウ界 ①興 ②教 ③境 ④経

第三十講・《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(5) 自然文化論を読み取る?

例題

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

- ① 人類は文明を築いてきた。それを支える都市・産業の発展は、人々の生活をこの上なく便利で豊かなものに変えてきた。しかし一方では、代償として人間の命の共存者である自然を果てもなく食いつぶしてきた。^①今日ではそれは、身の回りを離れた多くの森や草原、湿原にまで及び、かつて最も自然度の高かつたアジア、アフリカ、アメリカの世界三大熱帯のようなどころまで荒廃させるに至っている。このため、人間とともに生物社会の頂点に位置している野生動物や野鳥なども、急速に数を減らしている。
- ② ところが一方では、ある種の植物や動物、例えばセイタカアワダチソウ、ブタクサなどの帰化植物や、ゴキブリ、イエネズミ、カラス、ドバトなどは最近、逆に増加している。ある種が急速に減少すると同時に、ある種が急にふえすぎることとは、そこに住んでいる生物集団が実は環境の異変を、生命を賭けて具体的に示している生きた情報なのである。
- ③ もの言わぬ、人間の共存者たちの急速な消滅は、実は環境の生態学的な危機でもある。生態系の消費者の立場にある、また同じ消費者の中でも食物連鎖の頂点に位置している人間の持続的な生存環境に対しても直接、間接に深刻な影響を与える危険性が高い。人間の共存者を死に追いやるような現代の産業立地、交通施設、いわゆる都市沙漠の中で、人間だけがいつまでも人間独自の豊かな知性や感性を保つていけるだろうか。この生きものの共存環境、生活環境の悪化こそ、実は最も深刻な人類生存の危機といわざるを得ない。
- ④ 人間の命と蓮托^{いのちなんたく}生の共存者であり、生命の基盤ともいえる緑を保護することは、われわれが生きていくための欠か



せない条件である。わずかなところにも自然の聖域として緑を残さなければならない。〔A〕、残すだけではもはや不十分である。野生生物たちが共存できるような生存環境を積極的にうばい返し、創造すべきである。〔B〕、その意義を考えるためにも、まだ不十分ではあるが、生命集団と環境の総合科学である、自然のシステムをよみとる生態学などの野外科学によって、緑を理解することを期待したい。

〔5〕 生きている緑、自然を正しく理解するためには話をきいたり、本を読んだりするだけでは不十分である。自然に接し、五感を通して感得し、自然の中における人間の位置を知的、感性的、総合的に理解することである。

〔6〕 自然のしくみ、とくに生態系の生産者の立場にある主役の緑について正しく理解する。緑が作り出す酸素や有機物で生活している〔C〕としての野鳥、さまざまな動物、人間の立場を知る。また、彼ら排泄物や死骸を分解し、緑の植物が再生産に使えるようにしている、地球のクリーナーともいわれるべき無数の地中、水中の小動物、微生物などの分解者たちもいる。この生産、消費、分解・還元の太い三つの柱から成り立っている生態系のシステムについて、もう一度見直す必要がある。同時に動く力のない植物の世界においても厳然と存続している生物社会の^{おきて}掟について正しく理解する必要があるのではないか。

〔7〕 ^②人間が生態系の一員として生きていくためには、緑も昆虫も、微生物も共存できる程度の多様な生態系の維持、存続が前提である。そのシステムが健全に存続する程度のバランスを維持、回復する英知と実行力をもたなければならぬ。われわれは、その多彩な集団の一員に組み込まれている生物社会の地球的、さらに地域的なバランスないしは秩序の中でしか生きることを保証されていないことを再確認し、市民一般のコンセンサスを形成すべきである。

（宮脇 昭 「緑回復の処方箋」より）

（注）生態学……自然界にすむ生物の生活に関する科学。

産業立地……産業を営む際、さまざまなかつじを考えて場所を決めるこど。

一蓮托生……行動や運命を共にすること。

聖域……他のものから侵入されない安全な場所。

野外科学……ありのままの自然を対象として、実際の観察と経験を重要視して行う科学。

感得し……感じ取り、十分理解し。

厳然と……非常にしつかりと。

コンセンサス……意見の一一致。

(1)

——線①「人間の命の共存者である自然を果てもなく食いつぶしてきた」とあるが、その結果起こったさまざまの状況の変化を、まとめてどう表現しているか。その部分を①段落から③段落までのなかから十七字で抜き出せ。(句読点を含む。)

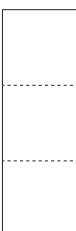
(2)

□ A □・□ B □にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えよ。

ア A しかし——B また イ A しかも——B なぜなら
 ウ A すなわち——B そして エ A けれども——B さて

(3)

□ C □にあてはまる言葉を、①段落から④段落までのなかから漢字三字で抜き出せ。



(4) — 線②「人間が生態系の一員として……生態系の維持、存続が前提である」とあるが、こう考えられる理由として最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えよ。

ア 人間の共存者たちが減少する問題は、人類が文明を築く上で避けることができない問題だと考えるから。

イ 人間の共存者たちが示す生きた情報は、ある種の動物や植物の増加や減少について注意を喚起するから。

ウ 人間の共存者たちの消滅は、人間の持続的な生存環境に対しても深刻な影響を与える危険性が高いから。

エ 人間と野生生物たちが共存していくためには、積極的に自然に接して植物を正しく理解する必要があるから。

(5) この文章全体を通して、筆者が特に述べようとしていることとして最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えよ。

ア 人間にとつて欠かせない緑を残すために、今後は生活環境に適した植物をいろいろな地域に植え付けていく必要がある。

イ 人類生存の危機を解決するために、緑の重要性を認識し、植林などを推し進め、地球の砂漠化を防いでいく必要がある。

ウ 人間は、現在進んでいる自然破壊を反省し、動物や植物が生き続けることができる生活環境作りを研究する必要がある。

エ 人類が生きていくためには、生物社会の綻を共通理解し、人間を含めた生態系のシステムを健全に維持する必要がある。



(6)

この文章の段落内容の関係を説明したものとして適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア この文章は、論の展開の上から③段落と④段落の間に区切りがあり、大きく二つに分けられる。

イ ③段落は、①段落と②段落で提示された具体的な事実を考察して、問題点を明らかにしている。

ウ ①段落から③段落までに示された問題点を④段落で深め、⑤段落では新しい話題を述べている。

エ ⑥段落は、④・⑤段落で述べられた内容を受けて論をまとめ、筆者の主張を明らかにしている。



第三十講・復習問題 《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(5)

授業で使用したテキストをしっかりと見直して、あとの問題を解きなさい（一つ5点 計35点満点）

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

- 1** 人類は文明を築いてきた。それを支える都市・産業の発展は、人々の生活をこの上なく便利で豊かなものに変えてきた。しかし一方では、代償として人間の命の共存者である自然を果てもなく食いつぶしてきた。今日ではそれは、身の回りを離れた多くの森や草原、湿原にまで及び、かつて最も自然度の高かつたアジア、アフリカ、アメリカの世界三大熱帯のようなどころまで荒廃させるに至っている。このため、人間とともに生物社会の頂点に位置している野生動物や野鳥なども、急速に数を減らしている。
- 2** ところが一方では、ある種の植物や動物、例えばセイタカアワダチソウ、ブタクサなどの帰化植物や、ゴキブリ、イエネズミ、カラス、ドバトなどは最近、逆に増加している。ある種が急速に減少すると同時に、ある種が急にふえすぎることとは、そこに住んでいる生物集団が実は環境の異変を、生命を賭けて具体的に示している生きた情報なのである。
- 3** もの言わぬ、人間の共存者たちの急速な消滅は、実は環境の生態学的な危機でもある。生態系の消費者の立場にある、また同じ消費者の中でも食物連鎖の頂点に位置している人間の持続的な生存環境に対しても直接、間接に深刻な影響を与える危険性が高い。人間の共存者を死に追いやるような現代の産業立地、交通施設、いわゆる都市沙漠の中で、人間だけがいつまでも人間独自の豊かな知性や感性を保つていけるだろうか。この生きものの共存環境、生活環境の悪化こそ、実は最も深刻な人類生存の危機といわざるを得ない。
- 4** 人間の命と一蓮托生の共存者であり、生命の基盤ともいえる緑を保護することは、われわれが生きていくための欠か

せない条件である。わずかなところにも自然の聖域として緑を残さなければならない。しかし、残すだけではもはや不十分である。野生生物たちが共存できるような生存環境を積極的にうばい返し、創造すべきである。また、その意義を考えるためにも、まだ不十分ではあるが、生命集団と環境の総合科学である、自然のシステムをよみとる生態学などの野外科学によって、緑を理解することを期待したい。

〔5〕 生きている緑、自然を正しく理解するためには話をきいたり、本を読んだりするだけでは不十分である。自然に接し、五感を通して感得し、自然の中における人間の位置を知的、感性的、総合的に理解することである。

〔6〕 自然のしくみ、とくに生態系の〔甲〕者立場にある主役の緑について正しく理解する。緑が作り出す酸素や有機物で生活している〔乙〕者としての野鳥、さまざまな動物、人間の立場を知る。また、彼ら排泄物や死骸を分解し、緑の植物が再生産に使えるようにしている、地球のクリーナーともいわれるべき無数の地中、水中の小動物、微生物などの分解者たちもいる。この生産、消費、分解・還元の太い三つの柱から成り立っている生態系のシステムについて、もう一度見直す必要がある。同時に動く力のない植物の世界においても厳然と存続している生物社会の撻^{おきて}について正しく理解する必要があるのではないか。

〔7〕 人間が生態系の一員として生きていくためには、緑も昆虫も、微生物も共存できる程度の多様な生態系の維持、存続が前提である。そのシステムが健全に存続する程度のバランスを維持、回復する英知と実行力をもたなければならぬ。われわれは、その多彩な集団の一員に組み込まれている生物社会の地球的、さらに地域的なバランスないしは秩序の中でしか生きることを保証されていないことを再確認し、市民一般のコンセンサスを形成すべきである。

（宮脇 昭 「緑回復の処方箋」より）

（注）生態学……自然界にすむ生物の生活に関する科学。

産業立地……産業を営む際、さまざまなかつらを考えて場所を決めるこど。

一蓮托生……行動や運命を共にすること。

聖域……他のものから侵入されない安全な場所。

野外科学……ありのままの自然を対象として、実際の観察と経験を重要視して行う科学。

感得し……感じ取り、十分理解し。

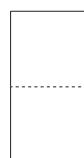
厳然と……非常にしつかりと。

コンセンサス……意見の一一致。

問一

空欄（甲）と（乙）には、対照的な意味の言葉が入る。それぞれの空欄にあてはまる最も適当な漢字一字を、本文中から抜き出せ。

（甲）



・（乙）



問二

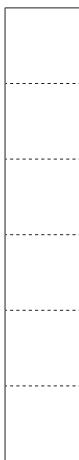
本文の内容を説明した次の文の空欄にあてはまる最も適当な言葉を、本文中からそれぞれ抜き出せ。

人間の共存者たちの消滅は、人間の持続的な A〔漢字二字〕に対しても深刻な影響を与える危険性が高く、人類が生きていくためには、B〔六字〕を共通理解し、人間を含めた生態系のシステムを健全に維持する必要がある。

A



B



問二

この文章の段落構成について説明した次の文の空欄にあてはまる、最も適当な段落番号をそれぞれ答えよ。

〔1〕段落から □ア□ 段落までに示された問題点を □イ□ 段落で深め、□ウ□ 段落では新しい話題を述べている。

ア

イ

ウ

第三十講・確認テスト 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(5)

次の語句の、カタカナ部分を漢字に改めるはどうなるか。最も適当なものを選択肢から選びなさい。

問一 代ショウ ①賞 ②償 ③章 ④称

問二 荒ハイ ①背 ②敗 ③廢 ④排

問三 カン境 ①還 ②環 ③鑑 ④間

問四 感トク ①得 ②特 ③徳 ④督

問五 カン元 ①還 ②環 ③鑑 ④間

模範解答

第一講・『国語知識』漢字知識

模範解答

例題

【同音異義語】

- ①異動 ②移動 ③異同 ④解答
 ⑤回答 ⑥講義 ⑦抗議 ⑧週刊
 ⑨習慣 ⑩減少

【同訓異字】

- ⑫合 ⑬会 ⑭収 ⑮修 ⑯治 ⑰納 ⑱尋 ⑲訪 ⑳備 ㉑供 ㉒測 ㉓量 ㉔計

【類義語】

- ㉕突然 ㉖全部 ㉗過度 ㉘尊重 ㉙服従 ㉚宿命 ㉛用意 ㉜同意 ㉝手段 ㉞応答

【対義語】

- ㉗進化 ㉘悪化 ㉙消費 ㉚下降 ㉛積極 ㉜共同 ㉝一般 ㉞危険 ㉟自然 ㉞正常
- ㉔保守 ㉕進歩 ㉖無限 ㉗横断 ㉘悪化 ㉙消費 ㉚下降 ㉛積極 ㉜共同 ㉝一般 ㉞危険 ㉟自然 ㉞正常

- ㉕顔 ㉖水 ㉗油 ㉘板 ㉙舌 ㉚首 ㉛お茶 ㉜足 ㉝くぎ ㉞手塩 ㉞さじ

【慣用句】



【ことわざ】

(61) 足	(72) きも	(90) ア	(91) ウ	(92) イ	(93) 才	(94) 工
(62) 顔	(73) 手	(77) ねこ	(78) 石	(79) 月	(80) 旅	(81) 石橋
(63) 肩	(音)ね	(88) さる	(89) けが	(90)	(91)	(92)
(64) 二の足	(74) 目 (手)	(82) 果報	(83) 水	(84) 仏	(85) 一生	(86) 馬
(65) 鼻	(75) 口車	(87) 天命	(88)	(89)	(90)	(91)
(66) そり (馬)	(76) 足	(92)	(93)	(94)	(95)	(96)
(67) 横やり	(83)	(97)	(98)	(99)	(100)	(101)
(68) 目	(84)	(99)	(100)	(101)	(102)	(103)
(69) 胸	(85)	(102)	(103)	(104)	(105)	(106)
(70) 肩	(86)	(103)	(104)	(105)	(106)	(107)
(71) 口	(87)	(104)	(105)	(106)	(107)	(108)

【故事成語】

第一講・《国語知識》基礎文法

主語と述語・接続詞と指示語



模範解答

例題

② ①

(1) 才 (1) しかし

(2) ア (2)

(3) ウ らに

(4)

(5)

(6)

第三講・《文学的文章》物語・小説の読解ルール(1)

あらすじ・場面をとひてる



模範解答

例題

- (1) プラネタリウム
 (2) さやか 雄策 春美 (※順不同)
 (3) 場内の中央に、丸い頭部にいくつものガラスの目玉を持つ巨大な蟻が肢を踏ん張ったような、黒い機械が据えられ
 ている。

(4) ア

第四講 ● 《文学的文章》 物語・小説の読解ルール(2)

心情・キャラ設定をとらえる



模範解答

例題

(5) (4) (3) (2) (1)
イ ウ ねえちく イ 工

たんだ

第五講・《文学的文章》物語・小説の読解ルール(3) 主題をとじこめる



模範解答

例題

- (1) A イ B ウ C ア
(2) 人間としての道に反した女
(3) イ
(4) 旅立ち

模範解答

例題

(1) 十 (2) ウ

(3) 除夜の鐘

(4) (例) ハルさんの僕に対する深い愛情
(を感じ取つた)

(5) ウ

(6) イ

第六講・《文学的文章》物語・小説の弱点補強(1)

あらすじ・心情を読み取る問題



模範解答

例題

(9) ア (8) ア (7) ア (6) ア (5) ウ (4) エ (3) ア (2) (例) (1) イ

祭りの見物人

何も作り出せない

第七講・《文学的文章》物語・小説の弱点補強(2)

主題・心情の変化を読み取る問題



第八講・《説明的文章》説明文の読解ルール(1)

指示語・接続語から筆者の主張をおさえる



模範解答

例題

- (1) 読者が／＼な文章
(2) イ
(3) 数字と／＼ること
(4) 誤解

模範解答

例題

(5) (4) (3) (2) (1)
a ウ 8 ア

解放

b 欠点

c 前向き

第九講・《説明的文章》説明文の読解ルール(2)

段落ごとの内容から筆者の主張をおさえる



第十講・《説明的文章》説明文の読解ルール(3)

要旨・筆者の主張をおさえる



模範解答

例題

(1) ア
(2) ウ

(3) 来る日も来_フにもしない

(4) なんらかの

(5) イ

模範解答

例題

- (1) イ
(2) 網の目（のようなネットワーク）
(3) ウ
(4) A 工 B ア
(5) 情報を発信することよりも情報を受信することの方を好む
(6) われわ～うか。
(7) イ

第十一講・《説明的文章》説明文の弱点補強(1)

指示語・接続語・段落内容をとらえる問題



模範解答

例題

- (1) イ
 (2) 感覚が鋭敏だからといって、かならずしも多くのものが知覚されているとはかぎらない（ということ。）
 (3) どこに関心をおいてイメージをつくるかが異なるため
 (4) ④・⑤
 (5)
 - ・自分たちの文化的な文脈の中にあるもの
 - ・村人の生活の文法で解釈できるもの
 (6) (例) 親鳥のくちばしの先にある赤い点をつければ、餌がもらえるということ。
 (7) 工

第十一講・《説明的文章》説明文の弱点補強(2)

要旨・主張をとりえる問題



模範解答

例題

(4) (3) (2) (1)
イ ウ A こんなあい
ていねいな

B 生き方

第十三講・『文学的文章』隨筆の読解ルール(1) 文意・構成をとらえる



模範解答

例題

(6) (5) (4) (3) (2) (1)
工 都市 ウ ウ 倒置 イ

都市で生活

第十四講・『文学的文章』隨筆の読解ルール(2)

表現・主題をとらえる



模範解答

例題

(1) 工
(2) 嫁ぐ娘を送り出すような

(3) イ

第十五講・《文学的文章》隨筆の弱点補強 構成・表現を読み取る問題



模範解答

例題

(1) イ
(2) エ

(3) 食わずには

(4) 私の目にはじめてあふれる獸の涙。

(5) イ

第十六講・『韻文』詩の読み解きルール

構成・情景・修辞技法をとらえる！



模範解答

例題

②

①

B

②
E③
D④
C(6) (5) (4) (3) (2) (1) (3) (2) (1)
ふ 工 ウ 銀 イ エ ア ウ ①

杏

の
訛

第十七講・『韻文』短歌の読み解きルール

かたちと修辞技法をとらえる



模範解答

例題

②			①		
(3)	(2)	(1)	(3)	(2)	(1)
ア	①	暑く	ア	や	五月雨
	堪えて いる		F		
				イ	C
				ウ	D
			②	大群集	(群集)

第十八講・《韻文》俳句の読み解きルール

季語と切れ字をとらえる



模範解答

例題

I

(1) D
(2) B

II

(3) 氷らんとする
(季語) 吹流し

(季節) 夏

(3) B
(2) (1)

(3) きりもなや

第十九講・《韻文》短歌・俳句の弱点補強 主題・心情・技法を読み取る問題



模範解答

例題

- (1) ① いう
 ② よろず
 ③ なん
 ④ いたり

- (2) 工
 (3) ウ
 (4) ウ
 (5) ア

第二十講・《古典》古文の読解ルール(1) 主語・歴史的仮名遣いをおさえる



現代語訳

今ではもう昔のことだが、竹取の翁おきなという人がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使つていた。名前を、さぬきのみやつこといつた。

(ある日のこと、) その竹林の中に、根本の光る竹が一本あつた。不思議に思つて、近寄つて見ると、筒の中が光つている。それを見ると、背丈が三寸ほどの人が、たいへんかわいらしい様子ですわつていた。

第二十一講・《古典》古文の読解ルール(2) 係り結びの法則



模範解答

例題

- (1) (a) おもいて (b) よそおい (c) とう
 (2) イ・蓬萊の山
 (3) 工
 (4) ウ
 (5) これは～山なり

現代語訳

これこそわたくしが探し求めていた山だろうと思つて、(うれしくはあるのですが) やはり恐ろしく思われて、山の周囲をこぎ回つて、二、三日ほど、様子を見て回つていますと、天人の服装をした女が、山の中から出てきて、銀のおわんを持って、水をくんでゆきます。これを見て、(わたくしは) 船から下りて、「この山の名を何というのですか。」と尋ねました。女は答えて「これは蓬萊の山です。」と言いました。これを聞いて(わたくしは) うれしくてたまりませんでした。

第二十一講・《古典》古文の弱点補強 主語・仮名遣い・係り結びを読み取る問題



模範解答

例題

- | | | |
|-------|-------|------------|
| (1) イ | (2) エ | (3) もうけもの |
| (4) ウ | (5) ア | (6) 不動尊の火炎 |
| (7) イ | | |

現代語訳

「これはまあどうして、このように立つていらっしゃるのだ。あきれたことだなあ。もののけでもとりつきなさったか。」
と言つたので、（良秀は）「どうしてもののけなどとりつくことがあらうか。長年（わたしは）不動明王の火炎を下手に描いていたのだ。今見ると、（火は）このように燃えるものだつたと、会得したのだ。これこそもうけものよ。仏画の道を職業として世の中を生きてゆくには、仏様さえうまくお書き申しあげれば、百や千の家などすぐできるだらう。あなたたちこそ、これといった才能もお持ちでないから、物をおしみなさるのだ。」と言つて、あざ笑つて立つていた。

第二十三講・《古典》漢文の読解ルール 故事成語・書き下し文の読み取り



模範解答

例題

- (1) (a) 工 (b) ア
 (2) ウ
 (3) 遠方より來たる
 (4) ア
 (5) 思^{ヒテ}而^{レバ}不^{レバ}学^バ
 (6) 「学ぶ」⋮ア 「思ふ」⋮イ

現代語訳

A 書物を読み、学んでは、機会あるごとに復習し体得する、なんとうれしいことではないか。志を同じくする友だちが遠い所から訪ねてきて、学問について語り合う、それこそ楽しいことではないか。人が認めてくれなくても、不平不満を抱かない。それこそ徳の備わった人格者ではないか。

B 書物を読み、学んでも、よく考えて研究しないと、物事の道理を正確につかめない。(それとは逆に) いくら考えても、読書をして学ばなければ、(独断に陥って) 危険である。

第二十四講・《古典》漢詩の読解ルール

漢詩のかたちと表現技法をどうえる



模範解答

例題

- (1) ① 二
 ② 三
- (2) ウ・花ハ
 欲ス
 然エント
- (3) 春
- (4) 碧・白・青・然 (※順不同)
- (5) ア
- (6) 一・二
- (7) 五言

現代語訳

川は深みどりに澄みわたり、水鳥はいつそう白く見える。山は青々と茂り、花は今にも燃え出しそうに赤く咲いている。今年の春も見ている間にまた過ぎていく。いつたいいつ、故郷へ帰る年がくるのだろう。

模範解答

例題

① 春 眠 不 _レ 覚 _エ 晓 _ヲ
 ② 处處啼鳥を聞く

③ ② イ
 ④ ① エ

① 工
 ② ウ

A 垣下に壁す B 楚を得たる

(3) A 垣下に壁す
 (4) 1 四面楚歌
 (5) 漢軍の四面皆楚歌する

(2) イ
 (1) エ
 2 ア

第二十五講・《古典》漢文の弱点補強

漢詩・故事成語・書き下し文を読み取る問題



現代語訳

① 春の夜明けは眠く、いつ夜が明けたのかわからない。方々でさえずる小鳥の声が聞こえる。夕べは風雨の音がしていた

が、花はさぞたくさん散つてしまつたことだろう。

〔2〕 A 先生が言われるには、「人は将来への心くばりをしていないと、必ず手近なところに思いわずらうことがでてくるものである。」と。

B 先生が言われるには、「学ぶだけでその内容をよく考えないと、理解があやふやになる。自分の考えだけに頼つて、人の意見や知識を学ばないと、危険である。」と。

模範解答

例題

- (1) イ
(2) いつどこに現れるかも分からぬ
(3) イ
(4) [6]
(5) 非科学的な説
(6) 意見・科学的な仮説（※順不同）

第二十六講・《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(1)

科学論を読み取る



模範解答

例題

第二十七講・《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(2)

哲学・身体論を読み取る



- (1) 聴いても言つかつてゐる（ひとたち）
- (2) 4
- (3) イ
- (4) (例) 語る人の見えない姿を映す鏡
- (5) a 距離 b 対象化 c 別の地平へと移し変える
- (6) 工
- (7) 語ることによつてみずから閉塞から距離をとるチャンス。
- (8) ア

第二十八講・《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(3)

日本語論を読み取る



模範解答

例題

(1) 異なる

(2) 工

(3) I 自由自在につないだり切つたり

II (例) 音の絶え間がある

(5) (4)
イ イ

第二十九講・《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(4)

日本文化論を読み取る



模範解答

例題

(1) (例) 私たちの人間関係がどのように考えられているかを反映している

(2) a 世間 b 自在に動く

(3) それは、簡

(4) 屏風による仕切り

(8) (7) (6) (5)
イ 工 高 ウ
い

第三十講・《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(5)

自然文化論を読み取る



模範解答

例題

(1) 生きものの共存環境、生活環境の悪化

(6) (5) (4) (3) (2) ア
ウ エ ウ 消費者

復習問題・確認テスト
模範解答

第一講・復習問題 『國語知識』 漢字知識

模範解答

問五	問四	問三	問二	問一
(1) ア	(1) 猫	(1) 顔	(1) 保守	(1) 異動
(2) ウ	(2) 石	(2) 舌	(2) 横断	(2) 移動
(3) イ	(3) 月	(3) 首	(3) 消費	(3) 解答
(4) 才	(4) 旅	(4) 足	(4) 積極	(4) 回答
(5) 工	(5) 石橋	(5) 手	(5) 共同	(5) 講義
		(6) 肩	(6) 一般	(6) 抗議
	(6) 果報	(7) 足	(6) 危険	(7) 合
	(7) 水	(8) 鼻	(7) 自然（天然）	(8) 会
	(8) 仏	(9) 胸		
	(9) 馬	(10) 足		
	(10) 天命			

第一講・確認テスト 《国語知識》漢字知識

問一 問二 問三 問四 問五 解答
② ③ ④ ④ ④

第二講・復習問題 『国語知識』 基礎文法

模範解答

- (1) 工
- (2) 力
- (3) キ
- (4) コ
- (5) ク
- (6) イ
- (7) シ
- (8) セ
- (9) ソ
- (10) ウ

第二講・確認テスト 『国語知識』 基礎文法

解答

- | | |
|-----|-----|
| 問二 | 問一 |
| (一) | (一) |
| (二) | (二) |
| ① | ② |
| | |
| (一) | (一) |
| (二) | (二) |
| ③ | ① |
| | |
| (一) | (一) |
| (二) | (二) |
| ④ | ④ |

第三講・復習問題 『文学的文章』 物語・小説の読解ルール(1)

模範解答

問一 四

問二 丸い頭部にいくつものガラスの目玉を持つ巨大な蟻が肢を踏ん張ったような

問三 工

第三講・確認テスト 《文学的文章》 物語・小説の読解ルール(1)

問一 問二 問三 問四 問五
③ ② ① ③ ③

第四講・復習問題 『文学的文章』 物語・小説の読解ルール(2)

模範解答

問一 工
問二 胸
問三 ウ

第四講・確認テスト 《文学的文章》 物語・小説の読解ルール(2)

問一 問二 問三 問四 問五
④ ① ① ③ ④

第五講・復習問題 『文学的文章』 物語・小説の読解ルール(3)

模範解答

- 問一 A イ B ウ C ア
- 問二 不孝な娘
- 問三 (甲) (例) 将来 (乙) (例) 無事

第五講・確認テスト 《文学的文章》 物語・小説の読解ルール(3)

問五　問四　問三　問二　問一
①　④　②　③　①

第六講・復習問題 『文学的文章』 物語・小説の弱点補強(1)

模範解答

- 問一 連体詞
問二 字が上手なこと。
問三 除夜の鐘
大みそか
問四 (甲) 素直 (乙) 母親

第六講・確認テスト 『文学的文章』 物語・小説の弱点補強(1)

問一 問二 問三 問四 問五
② ④ ③ ① ②

第七講・復習問題 『文学的文章』 物語・小説の弱点補強(2)

模範解答

- | | | |
|----|-----|---------|
| 問一 | (例) | しつかり |
| 問二 | 感心 | (別解 感動) |
| 問三 | 未熟 | |
| 問四 | 腕 | |
| 問五 | 照れ | |

第七講・確認テスト 《文学的文章》 物語・小説の弱点補強(2)

解答
問一 問二 問三 問四 問五
① ② ③ ③ ①

第八講・復習問題 《説明的文章》 説明文の読み解きルール(1)

模範解答

- 問一 (甲) 事実 (乙) 意見 (※順不同) (丙) 混同 (※完答)
- 問二 たとえば
- 問三 しかし
- 問四 ① 同じく事実を伝える態度で書く文章
 ② 意見を述べる態度で書く文章
 (※完答)
- 問五 誤解

第八講・確認テスト 《説明的文章》 説明文の読解ルール(1)

問一 問二 問三 問四 問五
① ② ④ ③ ①

第九講・復習問題 《説明的文章》 説明文の読み解きルール(2)

模範解答

- 問一 笑い
- 問二 対比
- 問三 累加(並立)
- 問四 メタ認知
- 問五 人と人とのコミュニケーションを円滑にする

第九講・確認テスト 《説明的文章》 説明文の読解ルール(2)

問一 問二 問三 問四 問五
① ④ ③ ② ①

第十講・復習問題 《説明的文章》 説明文の読解ルール(3)

模範解答

- 問一 たとえば
問二 だが
問三 だから
問四 なにかをつくり出したり表現すること
問五 (甲) 人間 (乙) 社会 (※順不同)

第十講・確認テスト 《説明的文章》 説明文の読解ルール(3)

問一 問二 問三 問四 問五 解答

④ ① ② ③ ④

第十一講・復習問題 《説明的文章》 説明文の弱点補強(1)

模範解答

問一 毛細血管

問二 A ア B ウ

問三 (甲) 情報 (乙) 好奇心

第十一講・確認テスト 《説明的文章》 説明文の弱点補強(1)

解答
問四　問三　問二　問一
③　②　①　④

第十一講・復習問題 《説明的文章》 説明文の弱点補強(2)

模範解答

- 問一 A たとえば B ところが (別解 けれども)
- 問二 文化・生活 (※順不同)
- 問三 (甲) 赤い点 (乙) 餅
- 問四 (甲) 見る (乙) 約束事

第十一講・確認テスト 《説明的文章》 説明文の弱点補強(2)

解答

問五　問四　問三　問二　問一

(4) (1) (2) (3) (4)

第十三講・復習問題『文学的文章』隨筆の読解ルール(1)

模範解答

- 問一 ①②③・④・⑤⑥⑦⑧・⑨
問二 A ていねいな B 生き方
問三 文化の伝承

(※完答)

第十三講・確認テスト《文学的文章》随筆の読解ルール(1)

解答
問五　問四　問三　問二　問一
①　③　②　①　④

第十四講・復習問題 《文学的文章》隨筆の読解ルール(2)

模範解答

- 問一 話を聞いた
- 問二 倒置(法)
- 問三 擬音語・擬態語(※順不同)
- 問四 都市で生活している
- 問五 感謝

第十四講・確認テスト《文学的文章》随筆の読解ルール(2)

解答
問五　問四　問三　問二　問一
①　②　③　①　③

第十五講・復習問題 『文学的文章』 隨筆の弱点補強

模範解答

問一 変幻自在

問二 嫁ぐ娘を送り出すような

問三 (例) 自分の豆腐を買いに来る人 (のため)

第十五講・確認テスト《文学的文章》随筆の弱点補強

問一 問二 問三 問四 問五
解答
① ② ③ ④ ③

第十六講・復習問題 《韻文》詩の読み解ルール

模範解答

- 問一 同音の反復
- 問二 体言止め
- 問三 私の目にはじめてあふれる獸の涙。
- 問四 (甲) 犠牲 (乙) 自分 (別解 自己)

第十六講・確認テスト《韻文》詩の読解ルール

問五　問四　問三　問二　問一
④　①　①　④　②

第十七講・復習問題 《韻文》 短歌の読み解きルール

模範解答

- A 反復法 B 三句切れ C 倒置法 D 体言止め E 字余り

第十七講・確認テスト《韻文》短歌の読解ルール

解答
問五　問四　問三　問二　問一
③　②　④　④　④

第十八講・復習問題『韻文』俳句の読み解ルール

模範解答

- | | |
|------------|------|
| A 季語：野菊 | 季節：秋 |
| B 季語：いちじく | 季節：秋 |
| C 季語：曼珠沙華 | 季節：秋 |
| D 季語：水仙 | 季節：冬 |
| E 季語：五月雨 | 季節：夏 |
| F 季語：つばくらめ | 季節：春 |

第十八講・確認テスト《韻文》俳句の読解ルール

問五　問四　問三　問二　問一
①　③　③　②　④

第十九講・復習問題 《韻文》 短歌・俳句の弱点補強

模範解答

問一 (甲) 夕やけ空

(乙) 湖

(丙) 氷らんとする

問二 きりもなや

第十九講・確認テスト《韻文》短歌・俳句の弱点補強

解答
問五　問四　問三　問二　問一
④　③　②　③　①

第二十講・復習問題《古典》古文の読解ルール(1)

模範解答

- 問一 ① いう ② い
- 問二 (例) 竹取の翁というものがいたそうだ。
- 問三 不思議に思つて
- 問四 かわいらしく

第二十講・確認テスト《古典》古文の読解ルール(1)

問五　問四　問三　問二　問一
①　④　②　①　③

第二十一講・復習問題《古典》古文の読解ルール(2)

模範解答

問一 ① よそおい ② 問う ③ いわく

問二 何と言うのですか

問三 これは／山なり

第二十一講・確認テスト 《古典》 古文の読解ルール(2)

問五　問四　問三　問二　問一
②　④　①　②　①

第二十一講・復習問題《古典》古文の弱点補強

模範解答

問一 驚きあきれる

問二 主格

問三 なんじょう（なじょう）

問四 長年

問五 けれ

問六 ウ

第二十一講・確認テスト 《古典》 古文の弱点補強

解答

問五　問四　問三　問二　問一

(2) (2) (3) (1) (3)

第二十三講・復習問題《古典》漢文の読解ルール

模範解答

- 問一 (例) 親友
- 問二 人格者
- 問三 故事成語

第二十三講・確認テスト《古典》漢文の読解ルール

問五　問四　問三　問二　問一
①　①　①　④　③

第二十四講・復習問題 《古典》漢詩の読解ルール

模範解答

- 問一年
問二一(行目と)二(行目)
問三故郷
問四五言絶句

第二十四講・確認テスト《古典》漢詩の読解ルール

解答

問五　問四　問三　問二　問一

③　①　①　②　①

第二十五講・復習問題《古典》漢文の弱点補強

模範解答

- 問一 信頼（信用）
- 問二 敗色濃厚
- 問三 楚
- 問四 四面楚歌

第二十五講・確認テスト《古典》漢文の弱点補強

問五　問四　問三　問二　問一
②　③　①　②　①

第二十六講・復習問題 《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(1)

模範解答

- 問一 科学は正しい事実だけを積み上げてできている
- 問二 Aだから B 例えば Cしかし
- 問三 非科学的
- 問四 ア 事実 イ 科学的仮説

第二十六講・確認テスト 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(1)

問一 問二 問三 問四 問五 解答
② ④ ② ② ②

第二十七講・復習問題 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(2)

模範解答

- 問一 A しかし B そして C つまり
問二 自分が漏らす一言一言
問三 聴くのがむずかしい

第二十七講・確認テスト 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(2)

解答

問五　問四　問三　問二　問一

③ ① ③ ① ④

第二十八講・復習問題 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(3)

模範解答

- 問一 間
問二 A しかも B つまり C しかし
問三 日本の家
問四 ア [8] イ [9] ウ [10] エ [11]

第二十八講・確認テスト 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(3)

解答
問五 問四 問三 問二 問一
④ ③ ④ ④ ③

第二十九講・復習問題 《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(4)

模範解答

- 問一 仕切り
問二 (甲) 内 (乙) 外 (※順不同)
(丙) 公 (丁) 私 (※順不同)
問三 日本の仕切り
問四 意識

第二十九講・確認テスト 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(4)

解答

問五　問四　問三　問二　問一

(3) (3) (4) (4) (2)

第三十講・復習問題 《説明的文章》論説文の頻出五大テーマ(5)

模範解答

- 問一 (甲) 生産 (乙) 消費
問二 A 環境 B 生物社会の捉
問三 ア④ イ⑤ ウ⑥

第三十講・確認テスト 《説明的文章》 論説文の頻出五大テーマ(5)

解答
問五　問四　問三　問二　問一
①　①　②　③　②

